

**京都精華大学**

**自己点検・評価報告書 2012**

## 【目次】

1	理念・目的	1
2	教育研究組織	10
3	教員・教員組織	14
4	教育内容・方法・成果	
4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	22
4-2	教育課程・教育内容	43
4-3	教育方法	54
4-4	成果	66
5	学生の受け入れ	73
6	学生支援	91
7	教育研究等環境	102
8	社会連携・社会貢献	109
9	管理運営・財務	
9-1	管理運営	123
9-2	財務	129
10	内部質保証	134

## 第1章 理念・目的

### 1. 現状の説明

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は適切に設定されているか。

#### <1>大学全体

京都精華大学の前身である京都精華短期大学は、1968年に開設された。京都精華大学の建学理念は、岡本清一が京都精華短期大学初代学長への就任要請を受けた際、理事会に提示した「教育の基本方針に関する覚書」に立脚している。

「教育の基本方針に関する覚書」（1967年3月25日）

1. 京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その教育の基本理念とする。この理念は日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の背骨をなすものである。
2. 京都精華短期大学は特定の宗教による教育を行わない。しかし諸宗教の求めてきた真理と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. 学生に対しては、師を敬うことが教えられる。師を敬うことなくして、人格的感化と学問的指導を受けることはできないからである。そして敬師の教育を通じて、父母と隣人とに対する敬愛の心を養う。
4. 教員の学生に対する愛情責任は、親の子に対するそれが無限であるように、無限でなければならない。職員もまた教員に準じて教室外教育の一斑の責任を負う。
5. 学内における学生の自由と自治は尊重され、その精神の涵養がはかれる。従って学生は、学内の秩序と環境の整頓に対して責任を負わなければならない。
6. 礼と言葉の紊れが、新しい時代にむかって正され、品位のない態度と言葉とは、学園から除かなければならない。
7. かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。

この『覚書』を基盤に、建学当初の教職員の議論の中で、京都精華短期大学の理念は、①自由自治②人間形成③凝集教育④国際主義の4つの柱にまとめられた。

岡本の提示した教育理念は、正しいひとつの解釈があるものではない。そのときどきを担う人びとによって常に議論の対象となり、新しい理解を加えられてきた。それゆえに、常に活きた理念として受け継がれている。

#### <2>芸術学部

芸術学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学学則」に以下のように定めている。

##### 芸術学部

歴史的な文化芸術、とりわけ京都の文化芸術を理解継承しまた多様化する芸術領域の可能性を探究すること、および自立した思考力によって新たな表現を創造する作家、

クリエイターの資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

#### 造形学科

伝統的造形芸術の知識技法にとどまらず、多角的な観察によって新たな造形芸術を開拓できる資質を備えた人材の養成を行う。

#### 素材表現学科

素材重視の芸術表現領域において伝統的技法を継承し、さらに現代における用と美の新たな発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

#### メディア造形学科

紙からデジタル・メディアまで媒体の特性を重視する造形芸術において、伝統的技法知識および先端的技法知識を修得し、新たなメディア芸術を開拓できる資質を備えた人材の養成を行う。

### <3>デザイン学部

デザイン学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学学則」に以下のように定めている。

#### デザイン学部

デザイン領域において高度な技法知識を修得し新たな可能性を探究すること、および自立した思考によってグローバル社会および地域社会に現実的に貢献するデザイナー・プランナーの資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

#### イラスト学科

デザインやアートといった多様なフィールドで展開が可能となるイラスト領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

#### ビジュアルデザイン学科

情報技術の発展によってその目的および手法が飛躍的に拡大した視覚デザインの領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

#### プロダクトデザイン学科

社会活動や生活に使用される道具、器具、装置などのデザインの領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を行う。

#### 建築学科

環境、建築、居住空間などのデザイン・設計の領域において、現実の社会に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

### <4>マンガ学部

マンガ学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学学則」に以下のように定めている。

#### マンガ学部

マンガ文化の再評価とともに重要視されるマンガやアニメーションの制作と理論に

ついて多角的な教育研究を行い新たな可能性を探究すること、およびマンガ文化の継承と発展に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする。

#### マンガ学科

マンガの作品史、表現などについての理論および技法の修得にとどまらず、実践によってマンガ表現の発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

#### マンガプロデュース学科

コンテンツ産業としてのマンガについての体系的理論的把握および媒体ごとの制作手法の修得にとどまらず、マンガ・コンテンツのプロデュースに貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

#### アニメーション学科

アニメーションの作品史、表現などについての理論および技法の修得にとどまらず、実践によってアニメーションの発展に貢献できる資質を備えた人材の養成を目的とする。

### <5>人文学部

人文学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学学則」に以下のように定めている。

#### 人文学部

国際的な視野と体験を重視し、地球環境問題の深刻化、情報技術化、経済のグローバル化の時代に求められる人間の社会と文化についての学際的な教育研究を行うこと、および自立した思考力によって現実の社会と文化に貢献する資質を備えた、よりよき社会人としての人間形成を行うことを目的とする

#### 総合人文学科

主に以下の5つの専門基礎領域で学士課程教育を行うが、これら領域間の学際的な連関にも配慮して異なる領域の学習も保証しつつ、総合的な教養を備えた人材の養成を目的とする。

(1) 現代の大衆文化に関して理論的、実践的な深い理解をもち、大衆文化の発展と深化に貢献できる人材の養成。(2) 優れた語学能力、特に英語の運用能力、異文化に関する深い理解をもち、グローバル社会における人間の共存を構想できる人材の養成。(3) 日本の伝統文化とそれを育んだ風土、およびアジア諸地域との文化的交流に関して歴史的な理解を持ち、伝統文化の継承と発展に貢献できる人材の養成。(4) 地球環境問題の社会的、文化的な理解を深め、環境と共存する将来の人間社会の実現に貢献できる人材の養成。(5) 現代社会において急速に変化しつつある人間像を、思想的、社会的、心理的な観点から深く理解し、より人間的な地域社会の構築に貢献できる人材の養成。

### <6>芸術研究科

芸術研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学大学院学則」に以下のように定めている。

#### 芸術研究科 芸術専攻 博士前期課程

専門領域にとらわれない多角的視点と柔軟な想像力を養い、芸術表現のさらなる探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と高度な専門的技能を有した人材の養成を目的とする。

#### 芸術研究科 芸術専攻 博士後期課程

多種多様な芸術表現のジャンルを整理・融合させながら専門応用能力を養い、制作と理論との調和を軸に、高度に洗練された芸術表現手法と芸術理論の探究を目的とし、新しい芸術文化の発信と活性化に貢献できる人材の養成を目的とする。

### <7>デザイン研究科

大学院研究科では、学術の理論および応用を研究・教授し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的としている。デザイン研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学大学院学則」に以下のように定めている。

#### デザイン研究科 デザイン専攻 修士課程

デザイン分野の社会動向に広い視野と見識を備え、デザイン受容者の潜在的ニーズの分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技能を有した人材の養成を目的とする。

#### デザイン研究科 建築専攻 修士課程

社会動向に広い視野と見識を持ち、建築分野において多様な側面から分析・研究を深め、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技能を有した人材の養成を目的とする。

### <8>マンガ研究科

マンガ研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学大学院学則」に以下のように定めている。

#### マンガ研究科 マンガ専攻 博士前期課程

国際的にも注目されるマンガ・アニメーション分野において、体系的な学術研究を深め、次代を担う新しい文化の発展に貢献できる高度な専門技能を有した人材の養成を目的とする。

#### マンガ研究科 マンガ専攻 博士後期課程

国内外の様々な要請に対応可能なマンガ・アニメーション分野について、多角的視点から学術研究を行い、制作および理論に関する特に高度な能力を有した人材の育成を目的とする。

### <9>人文学研究科

人文学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学大学院学則」に以下のように定めている。

#### 人文学研究科 人文学専攻 修士課程

人文諸科学を総合する学際的なアプローチにて、現代社会が直面する現実課題の探求を体系化し、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技能を有した人材の養成を目的とする。

的とする。

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

<1>大学全体

大学の理念・目的の大学構成員への周知は、教職員および学生に毎年度配布する学生手帳に掲載することによって行っている。新入生およびその保護者には、理念・目的を小冊子に掲載して入学式で配布している。

また、大学の理念・目的は、大学ホームページに「教育の基本方針に関する覚書」「教育理念」として掲載し、広く社会に公表している。

2012年12月に在学生対象に実施した「セイカ・キャンパスライフ・アンケート2012」で、本学の「自由自治」の精神の認知度について尋ねたところ、「よく理解している」「知っている程度」と回答した割合が67.1%であった。また、本学の理念を表した『教育の基本方針に関する覚書』の認知度について尋ねたところ、「よく理解している」「知っている程度」と回答した割合が29.2%であった。

<2>芸術学部

芸術学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学学則」に定めて、大学ホームページに掲載しており、大学構成員へ周知すると共に広く社会に公開している。

<3>デザイン学部

デザイン学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学学則」に定めて、大学ホームページに掲載しており、大学構成員へ周知すると共に広く社会に公開している。

<4>マンガ学部

マンガ学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学学則」に定めて、大学ホームページに掲載しており、大学構成員へ周知すると共に広く社会に公開している。

<5>人文学部

人文学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学学則」に定めて、大学ホームページに掲載しており、大学構成員へ周知すると共に広く社会に公開している。

<6>芸術研究科

芸術研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学大学院学則」に定めて、大学ホームページおよび「京都精華大学 大学院 履修のてびき

2012」に掲載しており、大学構成員へ周知すると共に広く社会に公開している。

<7>デザイン研究科

デザイン研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学大学院学則」に定めて、大学ホームページおよび「京都精華大学 大学院 履修のてびき2012」に掲載しており、大学構成員へ周知すると共に広く社会に公開している。

<8>マンガ研究科

マンガ研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学大学院学則」に定めて、大学ホームページおよび「京都精華大学 大学院 履修のてびき2012」に掲載しており、大学構成員へ周知すると共に広く社会に公開している。

<9>人文学研究科

人文学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、「京都精華大学大学院学則」に定めて、大学ホームページおよび「京都精華大学 大学院 履修のてびき2012」に掲載しており、大学構成員へ周知すると共に広く社会に公開している。



(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について、定期的に検証を行っているか。

<1>大学全体

大学の理念・目的は、大学の方向性が正しいかを確認する羅針盤的存在であり、原則変更するものではないが、建学理念の継承と再生を図るために2003年に検証が行われ、あらためてその使命と基本理念を現代的に解釈し直した以下の文書が理事会で承認され、現在に至っている。

〔京都精華大学の使命〕

1. 京都精華大学は、人間を尊重し人間を大切にすることを教育の基本とし、学問・芸術によって、人類社会に尽くそうとする自立した人間の形成を目的とする。
2. 京都精華大学は、社会に責任を負う自立した人間の形成という目的のために、恒に現実の社会的視点を維持し、広く社会に貢献する活動を行う。
3. 京都精華大学は、教員、職員、学生によって一個の有機的社会を構成し、この大学社会における人間的な交流を基礎にして教育を行う。

〔京都精華大学の基本理念〕

1. 京都精華大学は、広く国内外に開かれた教育を行う。人間が国家、宗教、民族の対立を乗り越えて共に生きるためには、その価値観の違いを超えて人間的な信頼関係を創出しなければならず、国家、宗教、民族を超えた人間的な交流の体験が必須である。
2. その教育において、特定の宗教・思想による教化を行わない。しかし、歴史を通じて人類が求めてきた普遍的な価値と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. その教育は、共生を目指し、なお自立する人間の形成を目的とするために、現実の人間の問題を扱う学問・芸術の探求に基づき行わなければならない。その知的資源の創造的な編成と運用は、広く国内外に貢献することを目指さなければならない。
4. そのように現実社会に対する建設的批判と貢献を目指す、京都精華大学の教育と研究の活動は、また恒に現実と対峙し社会的視点を維持する大学の経営によって保障されねばならない。
5. 京都精華大学は、教員、職員、学生に開かれた大学社会を組織し、この社会を人格的平等主義に基づき運営する。各構成員が自覚的に選択した価値観は、対等にこれを尊重し、特定の価値観の絶対化は、人間の自由を抑圧し個人の自立を妨げるものとして、これを拒否する。
6. この大学社会は、構成員の自己啓発と相互の建設的批判によって日々刷新され、新たな教育と研究の土壌を形成する。品位のない態度と言葉は、この大学社会から除かれなければならない。構成員間の身分差別は、本学の理念とは無縁である。
7. すべての構成員は、この大学社会の規範に従うことが求められるとともに、新しい大学の創造に参加する権利を有する。

大学広報誌である「木野通信」(年4回発行)の紙面を、建学の理念を深く理解させる内容に刷新し、父母等に配布している。

また、初代学長岡本清一の建学の理念を継承し、その普及に資するために「岡本清一記

念講座『日本と世界を考える』を開設している。毎年、本学の建学理念をテーマに学外の有識者が論じることにより、大学構成員が本学の理念・目的を学外の視点から検証し、社会における位置付けを確認している。

#### <2>芸術学部

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は 2009 年度に規定したため、学部の教育課程が一巡する 2013 年度以降に検証を行う予定である。

#### <3>デザイン学部

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は 2009 年度に規定したため、学部の教育課程が一巡する 2013 年度以降に検証を行う予定である。

#### <4>マンガ学部

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は 2009 年度に規定したため、学部の教育課程が一巡する 2013 年度以降に検証を行う予定である。

#### <5>人文学部

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は 2009 年度に規定したため、学部の教育課程が一巡する 2013 年度以降に検証を行う予定である。

#### <6>芸術研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は 2009 年度に規定したため、2013 年度以降に実施する予定の学部の検証に同期して行う予定である。

#### <7>デザイン研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は 2009 年度に規定したため、2013 年度以降に実施する予定の学部の検証に同期して行う予定である。

#### <8>マンガ研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は 2009 年度に規定したため、2013 年度以降に実施する予定の学部の検証に同期して行う予定である。

#### <9>人文学研究科

研究科委員会で、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が適切であるか検証している。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

#### <1>大学全体

建学の理念への理解を得るための大学広報誌「木野通信」の刷新により、在学生や教職員、在学生保護者を始めとするステークホルダーからの大学存在への理解は、2013年度に迎える創立45周年事業企画案などに効果が見られつつある。またキャリアデザインセンターの支援方針を、学生個人の主体性を育みつつ支援するものに変更する等、建学の理念に基づく内容へ改善している。

また、初代学長岡本清一の建学の理念を検証し、その普及に資するために開設した「岡本清一記念講座『日本と世界を考える』」を2007年度より開催しており、一般市民にも公開している。2012年度は2月16日に「現代における『自由』とは何か」をテーマに開催し、188名の来場者があった。アンケートの結果、「とても良かった」と「良かった」の回答率が76%で、本学の建学の理念を社会に普及させるという講座の目的は概ね達成できていると評価する。

## ②改善すべき事項

### <1>大学全体

在学生へのアンケート結果にあるように、在学生は本学の「自由自治」の精神について過半数が認知しているが、本学の理念を表した『教育の基本方針に関する覚書』の認知度は、「よく理解している」4.4%、「知っている程度」24.8%と低い数値なので、改善を要する。

### <2>学部

全ての学部において、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は2009年度に規定したため、学部の教育課程が一巡する2013年度以降に検証を行う。

### <3>研究科

人文学研究科を除く全ての研究科において、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は2009年度に規定したため、2013年度以降に実施する予定の学部の検証に同期して行う。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

#### <1>大学全体

大学広報誌である「木野通信」を、建学の理念と学園史を丁寧に説明する内容に改編して、全学およびステークホルダーへの配付を開始する。また、「岡本清一記念講座『日本と世界を考える』」を今後も継続して開催し、建学の理念の検証と社会への普及に努める。

なお2013年度には本学は創立45年を迎え、45周年記念事業を開催する予定であるが、その内容を本学の建学の理念の検証と社会への普及に繋げる内容としたい。

### ②改善すべき事項

#### <1>大学全体

本学の「自由自治」の精神や、本学の理念を表した『教育の基本方針に関する覚書』に対する学生の認知度を向上させるために、これらを印刷物やホームページに掲載するだけでなく、教員が対面で説明する機会を持つ。具体的には 2013 年度より、1 年生必修科目である、芸術・デザイン・マンガ・ポピュラーカルチャー学部の「表現ナビ」および人文学部の「大学ナビ」において、「自由自治」や『教育の基本方針に関する覚書』について、その背景も含めて説明する時間を持つ。

また、将来的には数値データによる現状把握を更に進めたい。具体的には入学者数、休学者数、退学者数、卒業者数のみならず、各部局において建学の理念について熟考したり議論する機会がどれほど持たれたのか、大学全体の共通科目に占める建学の理念系科目の効果測定などである。

## <2>学部

各学部において 2013 年度より、毎年度、学部教務委員会において人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的の適切性について検証を行う。

## <3>研究科

人文学研究科を除く各研究科において 2013 年度より、毎年度、研究科委員会において人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的の適切性について検証を行う

## 第2章 教育研究組織

### 1. 現状の説明

(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および付置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

京都精華大学の学部・学科・研究科の理念・目的は、「京都精華大学学則」第3条の2、「京都精華大学大学院学則」第5条の2で定めている。

「学校法人京都精華大学寄附行為」、「京都精華大学学則」、および「京都精華大学大学院学則」で定める学部・研究科は以下の通りである。

#### 学士課程

学部等の名称	学科等の名称	備考
芸術学部	造形学科	
	素材表現学科	
	メディア造形学科	
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	
	プロダクトデザイン学科	
	建築学科	
マンガ学部	マンガ学科	
	マンガプロデュース学科	
	アニメーション学科	
人文学部	環境社会学科	募集停止
	社会メディア学科	募集停止
	文化表現学科	募集停止
	総合人文学科	

#### 大学院課程

研究科等の名称	専攻等の名称	備考
芸術研究科	博士前期課程	芸術専攻
	博士後期課程	芸術専攻
デザイン研究科	修士課程	デザイン専攻
		建築専攻
マンガ研究科	博士前期課程	マンガ専攻
	博士後期課程	マンガ専攻
人文学研究科	修士課程	人文学専攻

京都精華大学は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成、自由自治、凝集教育、国際主義の理念により、文化と芸術による人間教育を目的として、現在、4学部10学科（その他に既に学生募集を停止している学科が3学科）と4研究科を有している。

1968年に短期大学として創立した本学は、1979年に美術学部を開設して4年制大学に転換し始めた。そして1989年に人文学部を開設し、短期大学を廃止することによって完全に4年制大学に移行した。

その後、両学部を基礎とする大学院研究科を設け、“表現の大学”にふさわしい教育研究組織を備えるに至った。

2006年には、社会的に需要があったデザインとマンガの2つの領域を学部として独立させ、2010年には大学院にデザイン研究科とマンガ研究科を新設した。

一方、大学の教学内容の拡充にともなって、研究条件の充実にも努めることとし、現在、研究執行機関として国際マンガ研究センターと全学研究センターを設置している。

また、大学と社会の連携において本学の活動を社会に発信するとともに、社会の活動を本学に導引することにより教育・研究活動の向上・発展を担当する機関として、社会連携センターを、学生の生涯を通じたキャリア形成、社会的実践力の育成を推進することにより、本学独自の卒業後の職業的自立および表現者育成を担当する機関としてキャリアデザインセンターをそれぞれ設置している。なお、京都市と本学の共同事業で京都国際マンガミュージアムを運営している。

なお付置研究所・センターの理念・目的は、「学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則」、「京都精華大学国際マンガ研究センター規程」、「京都精華大学全学研究センター規程」、「京都精華大学社会連携センター規程」、「京都精華大学キャリアデザインセンター規程」に定めており、それぞれ以下の通りである。

国際マンガ研究センターは、新たな芸術文化であるマンガの調査・研究を行い、その学術的価値の形成により、本学のマンガ教育に成果を還元するとともに、マンガ文化を担う次代の研究者・専門家を養成する拠点として、社会に貢献することを目的とする。

全学研究センターは、全学的な研究活動の活発化、新規開拓、研究資源の提供等により、研究活動の向上と発展に寄与することを目的とする。

社会連携センターは、大学と社会のつながりの中で本学の活動を社会に発信し、同時に社会の活動を本学に導引することにより、教育・研究活動の向上と発展に寄与することを目的とする。

キャリアデザインセンターは、学生の生涯を通じたキャリア形成、社会的実践力の育成を促進することにより、本学独自の卒業後の職業的自立および表現者育成支援を目的とする。

## (2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

毎週開催される常務理事会が中心となって、学術の進展や社会の要請等を鑑みて、教育研究組織の適切性について検証を行っており、必要に応じて組織の開設や変更を柔軟に行っている。具体的には、定員充足率の低い人文学部については、教育内容の刷新に関する検討を継続的に実施すると同時に、入学定員、収容定員を適正数に変更するための準備を

実施した。合わせて、文化と芸術の新領域の教育を実施するため、ポピュラーカルチャー学部の開設準備を行い、本学の建学の理念の適切性を社会へ問う活動を実施している。

なお、組織の見直しに関する沿革を下記に示す。

#### 教育研究組織の沿革

- 1968年 京都精華短期大学を英語英文科、美術科の2学科で開設。
- 1979年 京都精華大学美術学部を造形学科、デザイン学科の2学科で開設。  
短期大学を短期大学部に名称変更。
- 1989年 短期大学部英語英文科を改組し、人文学部人文学科を開設。  
短期大学部募集停止。
- 1991年 大学院美術研究科（修士課程）を、造形、デザインの2専攻で開設。
- 1993年 大学院人文研究科(修士課程)を開設。
- 2000年 美術学部、美術研究科をそれぞれ芸術学部、芸術研究科に名称変更。  
芸術学部マンガ学科を新設。  
人文学部に環境社会学科を新設。
- 2001年 表現研究機構開設。
- 2003年 人文学部人文学科を改組して、社会メディア学科、文化表現学科を開設し、既設の環境社会学科とあわせて、3学科体制となる。人文学科を募集停止。  
芸術研究科に博士後期課程芸術専攻を開設。
- 2004年 芸術研究科博士前期課程の造形専攻、デザイン専攻を改組し、芸術専攻を開設。  
環境ソリューション研究機構開設。
- 2006年 デザイン学部をビジュアルデザイン学科、プロダクトデザイン学科、建築学科の3学科で開設。  
マンガ学部をマンガ学科、マンガプロデュース学科、アニメーション学科の3学科で開設。  
芸術学部、素材表現学科、メディア造形学科を開設し、既設の造形学科とあわせて3学科体制に。芸術学部デザイン学科、マンガ学科を募集停止。  
烏丸御池に京都国際マンガミュージアム開設。国際マンガ研究センター開設。
- 2009年 人文学部社会メディア学科、文化表現学科、環境社会学科を改組して、総合人文学科を開設。社会メディア学科、文化表現学科、環境社会学科を募集停止。
- 2010年 大学院にデザイン研究科、マンガ研究科を開設。  
四条烏丸にサテライトスペース「kara・S」を開設。
- 2011年 キャリアデザインセンターを開設。
- 2012年 マンガ研究科に博士後期課程を開設。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

新学部（ポピュラーカルチャー学部）の開設準備にあたり、新たな表現領域における建学の理念、教育の目的に関する検証と社会への告知の準備がなされた。更に人文学部の教

育改革における議論では、理念を体現する教育のあり方に関する議論が深まった。

#### ②改善すべき事項

京都国際マンガミュージアムの理念・目的が規定化されていない。

教育研究組織の適切性の検証において、現状では定量的・定性的な点検評価の指標がなく、構成員の主観においてなされている部分がある。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

教育研究組織の開設や変更については、本学の建学の理念との整合性や、学術の進展や社会の要請等を取先取りし、今後も実施していく。

#### ②改善すべき事項

京都国際マンガミュージアムの理念・目的について、2014年度までに規定化する。

教育研究組織の適切性の検証において、点検評価の指標（定量的、定性的）を定め、一定の期間で点検し評価する学内システムの確立を目指す。また、その評価内容をオーソライズして改善活動を推進する仕組みづくりを検討する。



### 第3章 教員・教員組織

#### 1. 現状の説明

##### (1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。

###### <1>大学全体

大学として求める教員像は、本学の建学の精神である「教育の基本方針に関する覚書」を反映した「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する遵守事項」の第1条に、「採用にあたっては、本学の建学理念に賛同し、大学の創造に貢献できる人材であることを慎重に判断すること。」と謳っている。また、「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する規程」第5条に、教員の採用選考は、「学校教育法」および「大学設置基準」の該当条文ならびに、①本学の教育理念に賛同する者②本学のカリキュラム担当に適任である者③学生指導活動・大学運営活動・社会的活動について、十分な能力があると認められるもの④健康上、就務に支障がないと認められる者⑤教授、准教授、講師の職位にふさわしいと認められる者、の5つの基準に基づいて審査すると規定している。

また、学術研究において求められる研究者の倫理的基準を示すものとして、「京都精華大学研究倫理規程」を定めている。

学部・研究科においては、学則に規定した各学部・研究科毎に設定された人材養成目的に基づいて、これらを実現する教員像を募集要項等の任用時の関連書類に明示している。

教員組織の編制方針として、「京都精華大学学則」で教授会について、「京都精華大学大学院学則」で研究科委員会および博士後期課程委員会について規定している。また、「京都精華大学教授会規程」および「京都精華大学大学院研究科委員会規程」を定め、これに則り教員組織を運営している。また、「学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則」で、研究科長、学部長、教務主任、学科長について定めている。

また、教員数については、大学設置基準を遵守するとともに、実技系学部（芸術・デザイン・マンガ学部）では入学定員8名に対して専任教員1名、人文学部ではカリキュラム編成、教育体制（5コース）から求められる教員数を内規として運用としている。

###### <2>芸術学部

芸術学部で求める教員像は、「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する遵守事項」第1条と「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する規程」第5条に加えて、採用の都度に教務委員会を兼ねた学科長会議において検討し、芸術学部教授会で審議、決定している。新規採用は原則として公募で、教授会の決定を経た選考基準を公募要項に明示して実施している。また、年齢構成やその時々々の教育研究分野の分布に配慮するとともに、各コースで、教員1人当たりの学生数を1学年につき概ね8名と定めており、少人数教育による教育効果の向上を目指した教員編制を行っている。

###### <3>デザイン学部

デザイン学部で求める教員像は、「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する遵守事項」第1条と「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する規程」第5条に加えて、京都精華

大学およびデザイン学部の教学目標に共感し、デザイン教育に高い関心と情熱を持ち、学生の立場に立って指導及びコース運営に取り組める者としている。また、採用時には事前に学部教授会において採用方針の確認を行っている。

#### <4>マンガ学部

2013年度に学部を再編し、新たに2コースを開設するにあたり2012-2016年度の5カ年の教員組織整備計画を作成している。この計画に沿って教員組織体制を整備するため、2012年度は教員採用を行い、2013年度着任予定者として、新設するギャグマンガコースに専任教員2名、キャラクターデザインコースに専任教員3名、後任の補充としてカートゥーンコース、ストーリーマンガコースで専任教員2名、計7名を採用した。

マンガ学部では、専任教員の採用は、新規コース開設を除いて原則公募によって行うことを方針としている。学部の求める教員像については、マンガ・アニメーション領域において作家として幅広い経験実績もしくは高い教育研究能力を有していること、熱意を持って本学の教育・研究に取り組むことのできる資質があること、大学が定めている教員像に合致していることを採用の方針としている。なお、これらの教員像は公募要領に明示している。

#### <5>人文学部

人文学部で求める教員像は、京都精華大学および人文学部の教学理念に共感し、そのための教育研究に情熱を傾注できる能力と資質をもつ者としている。また、教員採用人事の方向性は、人文学部教授会において、教育課程編成・実施方針に基づいて審議、決定している。特に年齢構成や教育研究分野の学部内での位置づけについて重点的に検討している。個別の教員の採用については、教授会の下に選考委員会を設置し、教授会で定めた選考基準を公募要項に明示して、採用活動を実施している。

学部の詳細な年次採用方針は検討中であるが、2013年度以降のカリキュラム改革、各授業科目のクラスサイズ、教室環境、教員研究室の整備課題等の教学上の諸条件を踏まえて、2013年度の執行計画を策定している。

#### <6>芸術研究科

芸術学部にも所属している教員が芸術研究科の教員を兼務しているため、芸術研究科で求める教員像は芸術学部準じている。教員組織の編制については、大学院設置基準を上回る人数の教員を配置しており、配置に際しては「京都精華大学大学院担当教員の資格基準および資格認定に関する内規」に基づき、研究科委員会の下に資格認定委員会を置いて、研究科を担当するにふさわしい研究業績を保有していることを厳格に審査している。また、幅広い研究領域の教員を配置するよう配慮している。

#### <7>デザイン研究科

デザイン研究科で求める教員像は、「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する遵守事項」第1条と「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する規程」第5条に加えて、京都精華大学およびデザイン研究科の教学目標に共感し、実践的に社会に貢献する学生を養成

することに情熱を持ち、学生の立場に立って指導及び領域の運営に取り組める者として  
いる。

#### <8>マンガ研究科

マンガ研究科が求める教員像は、マンガ・アニメーション領域において作家として幅広い経験実績もしくは高い教育研究能力を有していること、熱意を持って本学の教育・研究に取り組むことのできる資質があること、大学が定めている教員像に合致していることとしている。教員組織の編制は、大学院設置基準を上回る 12 名の教員を配置している。配置する教員は、研究科長を委員長とする資格認定委員会で、研究科を担当するにふさわしい研究業績を保有する教員であることを厳格に審査している。また、幅広い研究領域の教員を配置するように配慮している。

#### <9>人文学研究科

人文学研究科が求める教員像および教員組織の編制方針のイメージはある程度共有しているものの、明確に定められていない。

### (2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

#### <1>大学全体

常務理事会で専任教員学内定員枠を設定しており、各学部で、その枠内で教員を配置している。2012 年度の本学の専任教員数は 153 名で、大学設置基準上必要な教員数 125 名を上回っている。各学部・研究科においても、設置基準上定められた所定の教員数を満たしている。

2012 年 5 月 1 日現在、大学院生を含む在籍学生数は 3,687 名で、専任教員 1 人あたりの在籍学生数は約 24 人である。

研究科担当教員については、「京都精華大学大学院研究科委員会規程」に、資格審査が必要で、審査は研究科委員会で審議する旨が定められている。資格基準および資格認定については、「京都精華大学大学院担当教員の資格基準および資格認定に関する内規」に規定している。

#### <2>芸術学部

2012 年度の芸術学部の専任教員数は 34 名で、大学設置基準上必要な教員数 23 名を上回っている。また、2012 年 5 月 1 日現在の芸術学部在籍学生数による芸術学部所属専任教員一人当たり在籍学生数は 26.3 人である。

#### <3>デザイン学部

デザイン学部の教員組織は、大学設置基準で定められた専任教員数を遵守し、加えて教員 1 人あたりに対する学生数が多くならないよう配慮して組織編制を行っている。

#### <4>マンガ学部

2012 年度のマンガ学部所属の専任教員数は 36 名で、大学設置基準上必要な教員数 20 名を

上回っている。また、2012年5月1日現在のマンガ学部在籍学生数とマンガ学部所属専任教員一人当たり在籍学生数は22.9人である。専任教員が責任授業時間数を充足するとともに、非常勤講師が委嘱上限時間数を超過しないという基本的な条件を遵守し、2012-2016年度の5ヵ年の教員組織整備計画に従って、マンガ学部の教育課程に相応しい教員組織の整備に努めている。

#### <5>人文学部

人文学部の教員組織は、その教育課程の中心に位置づけられている学部基礎科目を専任教員が担当する体制の構築、維持を基本原則として整備されており、2013年度の学部基礎科目の開講状況においては専任教員の担当するクラスが100%になっている。2012年5月1日現在の人文学部在籍学生数(1,192人)と人文学部所属教員数(36人)のST比は33.1である。

#### <6>芸術研究科

2012年度の「京都精華大学大学院担当教員の資格基準および資格認定に関する内規」に沿った担当資格審査を合格した教員数は、「指導教員Ⅰ(博士前期課程および博士後期研究指導)」20名、「指導教員Ⅱ(博士前期課程研究指導)」11名である。

#### <7>デザイン研究科

大学院所属の教員採用は行っていないが、大学院研究科の構成員は大学院設置基準で定められた各領域の研究指導教員数や補助教員数を考慮し組織編制を行っている。

#### <8>マンガ研究科

2012年度にマンガ研究科において、大学院担当教員の資格基準および資格認定に関する内規に沿った担当資格審査を実施した結果、指導教員Ⅰ(博士前期課程および博士後期研究指導)が2名認定された。

#### <9>人文学研究科

学生の研究テーマに合わせて、講義科目の内容及び担当者、修士論文の指導担当者について常に検討を行う仕組みとなっており、教員組織は適切であると考ええる。

### (3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

#### <1>大学全体

専任教員の募集・採用・昇格は、「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する規程」、「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する遵守事項」の規程等に基づいて実施している。

特別任用教員の採用については、「京都精華大学の学部・大学院に所属する特別任用教員の任用に関する規程」および「京都精華大学の学部・大学院以外の教育研究部門に所属する特別任用教員の任用に関する規程」に、非常勤講師については、「京都精華大学非常勤講師に関する規程」にそれぞれ規定されている。

専任および特別任用教員の募集・採用については、当該学部で教員を採用する必要がある場合は常務理事会の承認を得ること、募集は公募を原則とすること、教員の採用選考は「学校教育法」、「大学設置基準」や本学の定める基準に基づいて審査すること、などが規程で定められている。また、昇任についても、「学校教育法」、「大学設置基準」や本学の定める基準に基づいて審査し、当該学部教授会において、出席教員の無記名投票により構成教員の同意を得た後、常務理事会に諮ることと規定している。非常勤講師の採用については、教授会の審議を経て選考した後、常務理事会で承認を得る手続きを取っている。

#### <2>芸術学部

芸術学部教員の募集・採用・昇格の各種人事については、「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する規程」等の関連諸規程に基づき、芸術学部教授会の審議・議決により実施している。また採用に関しては、芸術学部教授会の下に設置される選考委員会による綿密な選考を経た上で、芸術学部教授会の審議・議決を行っている。

#### <3>デザイン学部

採用活動の際には「京都精華大学専任教員の採用・承認に関する規程」に則り、学部内で教員採用選考委員会を編成し、前述した規定の条件を踏まえ、採用教員に求める専門的能力や研究実績をその時々で明確に定めて募集を行っている。

#### <4>マンガ学部

「京都精華大学専任教員の採用・昇任に関する規程」等の関連諸規程に基づき、原則公募によって教員募集を行い、マンガ学部教授会の下に設置された個別の人事委員会による綿密な選考または審査を経て、マンガ学部教授会の審議、議決により実施されている。

2012年度は、新規任用人事として図書館司書分野を専門とする教員が着任している。また、ストーリーマンガコースの講師2名を准教授に昇格させた。

#### <5>人文学部

人文学部の教員の募集・採用・昇格については、それぞれの根拠となる規程に基づき、いずれも人文学部教授会の下に設置された個別の選考委員会による綿密な選考または審査を経て、人文学部教授会の審議、議決によって実施されている。なお、2012年度は該当者はなかった。

#### <6>各研究科（芸術・デザイン・マンガ・人文学研究科）

研究科教員は学部教員が兼務するので、研究科独自で教員の募集・採用・昇格は行わない。

### (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

#### <1>大学全体

教員の教育力の向上を図るために、「京都精華大学FD委員会規程」を定めてFD活動を実施している。また、学生による授業アンケートを実施して、その結果を学部や各教員に

フィードバックしている。

教員の研究力の向上を図るために、本学教員の研究活動を支援する全学研究センターで、教員の共同研究の遂行や研究業績の公開、外部研究資金の申請等に対して支援を行っている。また、科研費の不正執行防止に関する説明会を実施している。

ハラスメント防止については、「京都精華大学ハラスメント防止・対策に関する規程」等を制定し、リーフレット等の配付や研修会を開催して注意を促している。

#### <2>芸術学部

講義系科目、実技系科目とも授業アンケートを年2回実施し、芸術学部FD委員会においてその結果を活用することにより、個々の授業科目の改善を図っている。また2012年度は、人文学部が主催した発達障害を持った学生対応についての研修会に参加するなど、教員の教育資質の向上も組織的に推進している。

#### <3>デザイン学部

着任時に大学教員としての授業運営能力の向上を図ることや、大学教員としての基礎的な知識等を身につける目的で、学外で開催されるFD研修への参加を促している。また学期ごとに実施している学生による授業アンケートの調査結果をデザイン学部FD委員会において検討を行い、各教員へのフィードバックを通して教員の資質の向上を図っている。

#### <4>マンガ学部

マンガ学部FD委員会を年2回開催し、学生による授業アンケートの結果を確認し、授業改善に役立てた。また、2012年10月3日にFD活動を目的とした臨時教授会を開催して、2013年度に行う学部再編に伴うカリキュラム改編の方針について認識を共有するとともに、教員同士の意見交換を行った。

#### <5>人文学部

人文学部教務委員会で、学生による授業アンケートの結果を分析し、科目担当教員へのフィードバックを図り、授業改善を促している。更には、非常勤講師に対しても意見を求め、学生への啓蒙や施設改善などの参考にした。また、外部より専門家を講師に招いて、発達障害を持った学生対応についての研修会を開催した。

#### <6>芸術研究科

修士作品・論文中間報告会、修了発表会をデザイン研究科と合同で行っており、他研究科も含めた複数教員がお互いの教育指導ノウハウを学び合うとともに教員の研究能力を向上させる場にもなっている。

#### <7>デザイン研究科

年度末に実施している学生による授業評価アンケートの集計結果をFD委員会で検討し、各教員へのフィードバックを通して教員の資質の向上を図っている。

#### <8>マンガ研究科

学生への授業アンケートを実施し、授業改善に努めている。

#### <9>人文学研究科

複数の教員による合同授業（人文学合同演習、人文学基礎演習）がお互いの教育指導ノウハウを学び合う場となっている他、年2回実施される修士論文中間報告会、判定研究科委員会が教員の研究能力を向上させる場ともなっている。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

#### <1>大学全体

実技・実習授業を中心とする芸術系学部においては、制作指導を重視することから個別指導が必須であるため、教員間の情報共有が綿密に実施される傾向にある。個々のコース単位で実施されている事例研究として、ストーリーマンガコースでの事例を研究し、文献にまとめる作業を開始した。

### ②改善すべき事項

#### <1>大学全体

求める教員像および教員組織の編制方針について、各学部・研究科で明文化されていないか、文言が統一されていない。

教員の資質向上を図るための方策について、更なる取り組みが必要である。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

#### <1>大学全体

学内の優れた教育方法等の事例をまとめて共有する取り組みを、引き続き実施していく。

### ②改善すべき事項

#### <1>大学全体

求める教員像および教員組織の編制方針について、2013年度中に、大学・学部・研究科において共通フォームで策定する。

教員の資質向上を図るための方策について、年度計画を立てて実施していく。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 1【教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針】

#### 1. 現状の説明

##### (1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

###### <1>大学全体

京都精華大学の教育目的に基づき、大学全体の学位授与方針を以下のように定めている。

学問	ミライ	21世紀の表現者にふさわしい総合的な教養を身につけ、既存のものにとらわれない新しい価値観を構築することができる。
	セカイ	地球的視点から課題を発見し、国際主義に基づく異文化理解と現実社会に対する建設的批判によって考察することができる
教育	ジブン	自己に内在する思想や感情から社会へのメッセージを形成し、それを専門性に裏打ちされた独自の手法によって発信することができる。
友情	アソビ	自らの五感を研ぎ澄まし、興味・関心のある物事を鮮やかに浮かび上がらせ、それらに対し創造的アプローチを試みることができる。
	キズナ	人間一人ひとりの自由を尊重し、またその存在を同じ社会の仲間として敬うことのできる理性と良心とを身につけている。

###### <2>芸術学部

芸術学部および学部内の各コースでは、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、学位授与方針を以下のように定めている。

###### 芸術学部

学問	ミライ	芸術を学ぶことの意義を感じとり、多様化する社会への発信者として
	セカイ	様々な芸術表現の知識、基礎、展開を学び、新たな創造の世界を担うことができる。
教育	ジブン	芸術における「地域性と世界性」「伝統と現代」を見据え、自己の思想と感性に基づいた作品と表現を創造する。
友情	アソビ	様々なプログラムや学生生活の中で出会う全ての人を尊重し、自分の創造性と人間性の糧とすることができる。
	キズナ	

###### 洋画コース

学問	ミライ	過去から未来への結節点として現在をとらえ、たしかな継承としての新たな創造を担うことができる。
	セカイ	自らを取り巻く環境を「世界」と理解し、家族や友人から地域、国家を経て地球規模にいたる複層性の中に自らを位置づけることができる。
教育	ジブン	「自己」の唯一性とそれを形成している要素の多様性を自覚し、そうした「自己」を伝え、かつ受け取る営みとしての表現を行うことができる。



- 友情 アソビ 一様には計りがたい美への畏敬と憧憬をいだき、「真剣な戯れ」としての芸術表現に情熱をそそぐことができる。
- キズナ 一つひとつの出会いのかけがえのなさに思いをいたし、葛藤や矛盾の中でも自らの関わる人と人との間柄を温め続けることができる。

#### 日本画コース

- 学問 ミライ 基本を大切にし、古典を研究し、客観的に自身の作品を分析する力をつけ、次の時代を創造する担い手となる。
- セカイ 新しい芸術の世界に向かって、より広い視野をもち、未知なる世界へ挑戦する。
- 教育 ジブン 真摯な態度で自然に接し、その豊かさや深さを感じる。
- 友情 アソビ 様々な分野に興味をもち、より多くの視点から物事を考える。
- キズナ 人との関わりあいの中で自分自身を見出し成長へとつなげる。

#### 立体造形コース

- 学問 ミライ 「扉を開く」強靱な精神力と創造力で、類い稀な開拓心を持つ。
- セカイ 「何処へでも行ける」平和を貫き国境のない一つの世界観を持つ。
- 教育 ジブン 「自由奔放な発想力」率直に素材と向き合い剛毅な自分自身を造る。
- 友情 アソビ 「真っ向から挑む」旺盛な好奇心をもち感動を生み出す力。
- キズナ 「わかり合い助け合う」無類飛切りの友情精神を培う。

#### 陶芸コース

- 学問 ミライ 過去から現在への流れと自身の位置を理解し、素材、技法、多様な考え方を基礎から応用へと学び、新たな創造を担う。
- セカイ 自身の置かれている環境、文化、既成の概念や表現方法にとらわれず、周囲に視野を向けて、広い感性と理解力を養い、表現を展開、発信する。
- 教育 ジブン 陶芸の表現領域を自由に試行し、創造の土台となる技術と発想力、分析力を身につけ、自身の考えを表現することを通して、自己形成をおこなう。
- 友情 アソビ 他者や社会、環境や諸条件に対応する中から、体験、経験を重ね、多方面に興味を持つことで、自身を前進、発展させる。
- キズナ さまざまな考えや個性を持つ人たちとコミュニケーションすることから、協調性や理解力を養い、自身の存在意義を確認する。

#### テキスタイルコース

- 学問 ミライ 芸術は人類にとって常に変革のエネルギーに成り得るかという課題を提示することができる。
- セカイ 人間は自然の一部である前提から芸術と哲学を問い直すことができる。
- 教育 ジブン 客観的に自分を批判することができる。
- 友情 アソビ 他者と自身との空間の様子や質を知る心の働きを感じるすることができる。

キズナ 一人ひとりの存在性を理解し、表現の自由を尊重しあうことができる。

#### 版画コース

- 学問 ミライ ベーシックな版の表現手法にとどまらず、メディアを使った様々な表現方法を展開していくための知識と技術を学び、制作（表現）・発信する。
- セカイ 自己の領域や現場にとらわれず、多方面に視野を広げ、教養、経験、興味を深めることで新たな表現力を養い、社会や世界に貢献、発信する。
- 教育 ジブン 版表現や多様化するメディア表現を学ぶ中から、自己の表現内容と方法を試行、探究し、自己の考え方や存在を構築する。
- 友情 アソビ 好奇心を持ったものに対して積極的に行動し、楽しんで活動、体験することで、ユニークな発想力や視点の置き方を獲得し、自己表現の幅を広げる。
- キズナ 周りに居る様々な人達との関りや共同作業を通してコミュニケーション能力を高め、協調性、思いやり、尊重心を養いながら、自己を認識、確立する。

#### 映像コース

- 学問 ミライ 芸術表現の歴史的な背景を理解し、そこにある問題点を現代的な問題意識と照らしながら新たな視点で乗り越える教養や思考能力、そして表現力を身につける。現在私たちがおかれている文化状況に対してメディアとテクノロジーが与える影響力を批判的な視点でとらえ、新たな価値観を提案できる。
- セカイ 世界的な視野をもって、同時代的な文化状況が直面している問題に関心を払い、同時に地域社会の歴史的な文化の意味や重要性にも関心をもち、それらの関係を意識しながら思考や行動ができる。
- 教育 ジブン 自己の内在するものとして形成されている世界や自分自身に対する意識や感情が、歴史的に構成されてきた社会環境や文化との関係の中で構成されてきたものであり、またつねに変容する可能性としてもあることを理解し、社会と自分との関係を批判的視点から見つめ直し、かつ世界との関わりを意識した表現や活動ができる。
- 友情 アソビ 創造の源の一つがあそび心。あるいは遊びそのものの中から創造性が生まれることを理解し、心を豊かにする創造的な表現を提案することができる。
- キズナ 社会的な存在としての人間のあり方を理解し、他者の存在や意識のあり方を尊重できる倫理観を持ってふるまうことができる。

#### <3>デザイン学部

デザイン学部および学部内の各コースでは、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、学位授与方針を以下のように定めている。

## デザイン学部

デザインの専門知識および総合的な基礎教養を具え、創造力溢れる表現を発信することができる。

自文化に固有のアイデアを踏まえつつ、世界に通じる普遍的なデザインを創造することができる。

他者に自らのデザインに関するコンセプトや考え方を明確に伝えることができる。

## グラフィックデザインコース

デザイン領域を中心に関連分野の幅広い知識や技術を身につけ、視覚デザイン表現の成果を社会に発信し貢献することができること。

なかでも「文字」と「図像」の関係性を理解し、的確な手段を選択し伝達することができること。

## イラストレーションコース

クリエイターとして活躍のフィールドを問わず、ひろく社会に向けて自分自身をプレゼンテーションできること。

また、デジタル技術のめまぐるしい更新、メディアの加速度的な拡張を好機ととらえ、ビジュアルコミュニケーションの新たな可能性を追求できること。

## デジタルクリエイションコース

デザイン領域を中心に関連分野の幅広い知識や技術を身につけ、視覚デザイン表現の成果を社会に発信し貢献することができること。

とくに斬新なアイデアを視覚化し、デジタルツールやメディアを駆使して社会へコンテンツを発信できること。

## プロダクトコミュニケーションコース

プロダクトデザイナーに必要な理論・知識を身につけ、平面系・立体系・企画系の「美しいものづくり」を理解し、演習を通して得た基礎的なスキルとその応用を素材、コンセプト、実践に活かし、幅広いプロダクトデザインの専門分野を網羅したデザインの総合力を身につけ社会に発信できること。

## ライフクリエイションコース

ライフクリエイションに必要な理論・知識を身につけ、平面系・立体系・企画系のデザイン的思考を理解し、演習を通して得た基礎的なスキルとその応用を企画～造形～実践等に活かし、幅広いライフクリエイションの専門分野を理解した上でデザインの総合力を社会に発信できること。

## 建築コース

以下の能力と知識を有すること。

1.社会に対して想像力を駆使した革新的な創造的表現と、自立した活動を行う能力

- 2.与条件や問題を明確に整理分析し、計画を立案し、リーダーシップを発揮する能力
- 3.建築を中心とした様々な関係する領域に関する基礎的な知識

#### <4>マンガ学部

マンガ学部および学部内の各コースでは、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、学位授与方針を以下のように定めている。

##### マンガ学部

国境を越える伝播性を知り、世界中で活躍できる作家を育成する。  
後世にマンガ文化を伝え、さらに発展することに貢献できる人を目指す。  
マンガ・アニメーションが、あらゆる分野で活用されるメディアであることを理解し、  
応用できる人材を養成する。

##### カートゥーンコース

基本的かつ高度な表現技法を修得し、実践的な表現手法を駆使できる職業人を養成する。  
風刺やメッセージを様々な芸術表現領域を通じて発信し活躍できる表現者を育成する。

##### ストーリーマンガコース

マンガ表現の国際性を理解し、国内外で活躍できるマンガ家を目指す。  
技術や精神を兼ね備え、継続的に作品を発表しつづけることができる作家を養成する。  
マンガの情報性と伝播性を理解し、コミュニケーションの手段として活用できる人材を養成する。

##### マンガプロデュースコース

マンガ文化の発展のために創作だけではなく、あらゆる観点からアプローチし、社会に対して流通させることができる職業人を養成する。  
マンガ表現の多様性を理解しプロデュースしていく表現者を養成する。

##### アニメーションコース

次世代のアニメーション表現を創造する方法論を持つ表現者を養成する。  
高度な専門的知識・能力を有した職業人を養成する。

#### <5>人文学部

人文学部では、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、学位授与方針を以下のように定めている。

学問 ミライ 幅広い教養性、高い公共性・倫理性を有し、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、かつ社会を改善していくことができる。

- セカイ 「国際主義」に基づき、柔軟かつ大胆な思考を持って、多様な人間が共存できる地球社会の実現に貢献できる。
- 教育 ジブン 様々な領域から吸収した多角的知識を持って、自らの力で考え、課題に取り組み、解決することができる。
- 友情 アソビ 磨かれた感性と想像力を持って、独創性あふれる表現方法を習得し、それを展開することができる。
- キズナ 一人ひとりの思想、価値観を尊重し、固有の志向性をもちながら、表現の自由を共有することができる。

#### <6>芸術研究科

芸術研究科博士前期課程では、研究科・専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、学位授与方針を以下のように定めている。

- 認知的領域 知識・理解 諸芸術及び文化表現の歴史と現在の動向を正確に理解している。
- 思考・判断 独創的かつ普遍的な表現領域の可能性を探求し、それによってどのようなメッセージを発信できるかを考察できる。
- 技能表現領域 技能・表現 自らの表現意図に沿って、適切な素材とテーマを選択し、状況に応じた柔軟で応用力のある制作技術、理論構築力を獲得している。
- 情意的領域 関心・意欲 「人間はどのような存在であるのか」を常に問い、自らの芸術表現と時代・社会との関連性を意識し続けることができる。
- 態度 自ら設定したテーマを、自分に相応しい表現方法と発表形式で具体化しようとする努力を怠らない。

#### <7>デザイン研究科

デザイン研究科では、研究科・専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、学位授与方針を以下のように定めている。

- 認知的領域 知識・理解 デザイン領域の歴史と世界的動向を理解し、専門知識と理論の両面を身につけている。
- 思考・判断 社会や環境動向に深い関心を持ち、さまざまな領域を関連付けて考え、的確に判断し表現することができる。
- 技能表現領域 技能・表現 最新のテクノロジーを身につけ、研究を通して得られた知識や技術を融合し、高度な表現で提案できる。
- 情意的領域 関心・意欲 国際感覚および鋭敏な情報受容力を持ち、積極的に情報を発信し続ける意欲と関心を持っている。
- 態度 社会の一員としての自覚を持ち、創造的なコミュニケーションがとれ、常に時代を牽引しようとする努力を怠らない。

#### <8>マンガ研究科

マンガ研究科博士前期課程では、研究科・専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、学位授与方針を以下のように定めている。

#### 理論系

認知的領域	知識・理解	国内外におけるマンガ・アニメ研究の知識とその分析力をもち、日本語と IT スキルとの面での発表能力を有している。
	思考・判断	常にマンガ・アニメという視点から表現・文化・社会の学術的探求を進め、その成果を他分野や他国に対して発表する能力を有している。
技能表現領域	技能・表現	マンガ・アニメ文化とその研究の現状に応じた形で研究問題を設定し、他分野に通じる根拠のある研究成果を発表している。
情意的領域	関心・意欲	研究の学術性を尊重する姿勢と、最先端の問題提起を行おうとする意欲を併せ持ち、それに必要な学習を自主的に行い続けている。
	態度	制作現場と読者との対話を重視しながら、マンガ・アニメ文化をめぐる幅広い社会的交流を促進している。

#### 実技系

認知的領域	知識・理解	国内外のマンガとその環境についての知識を制作活動に応用すると同時に、制作を発表する日本語と IT スキルを有している。
	思考・判断	マンガに対する知識を制作と理論の両面から融合させ、他分野や他国の作家と交流することによって自らの視野を広げている。
技能表現領域	技能・表現	高度な技能と構想力に基づき、グローバル化と情報化の下で変容しつつあるマンガ文化に貢献できる制作活動をしている。
情意的領域	関心・意欲	既存のマンガ表現の枠に収まらない表現欲求と創造力を併せ持ち、常にその向上を目指している。
	態度	チームワークを尊重しながら、世界的な視野から国内外のマンガ文化に積極的に貢献する姿勢を示している。

#### <9>人文学研究科

人文学研究科では、研究科・専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、学位授与方針を以下のように定めている。

認知的領域	知識・理解	研究課題を人文科学の基礎概念と展開の中で位置づけ、研究領域に必要な知識を理解している。。
	思考・判断	既存の枠組みを超える新しい視点を想起することができる。
技能表現領域	技能・表現	状況に応じた、実践的な言語・文章表現技術を修得している。
情意的領域	関心・意欲	既存の知の水準を乗り越える構想を準備するための姿勢を身につけている。
	態度	社会の一員としての自覚を持ち、文化的状況を把握しながら、

世界と人類の未来を考えようとする態度を身につけている。

(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

<1>大学全体

京都精華大学の教育目標に基づき、大学全体の教育課程の編成・実施方針を以下のように定めている。

学問 ミライ ミライ × 知る = Active

「表現」を中心に見据え、従来の学問領域にこだわらないバラエティに富んだ科目を配置します。

とりわけ、教養を養う科目群においても、知識の伝達にとどまらず、学生自身が能動的に関わることのできるような授業運営を行います。

セカイ セカイ × 考える = Peaceful

「表現」を通じ、世界の国々を身近に感じることができるよう、国際色豊かなカリキュラムを提供します。

特に、海外提携校との交流を活発化させ、世界の仲間と触れ合う機会を、教育プログラムの中で積極的に設けます。

教育 ジブン ジブン × 表す = Creative

「表現」の担い手である学生たちの主体性を重んじ、彼らが興味や関心に応じ、自由に履修できる柔軟なカリキュラムを編成します。

一方、個々の領域にあわせ、「表現」の核となる体系立てた科目群を置き、確かな専門性を養成します。

友情 アソビ アソビ × 広げる = Soulful

「表現」の現場で仕事や作業を実体験し、知性ととともに感性を磨くことができるカリキュラムを構築します。

これら教育プログラムでは、他者からのメッセージに対し、頭で理解すると同時に、体や心で感じとることを重視します。

キズナ キズナ × 結ぶ = Friendly

「表現」を志向する人たちとの出会いを、カリキュラムの中で演出します。

学生同士や、学生と教職員との出会いはもとより、地域や企業の中で活躍する表現者や、これから表現の道に立とうとする若い世代など、多様な人との接点をつくりだします。

<2>芸術学部

芸術学部および学部内の各コースでは、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下のように定めている。

芸術学部

学問 ミライ ミライ × 知る = Active ・ セカイ × 考える = Peaceful

セカイ 幅広い視野、教養、知識の修得と専門コースのより密度の高い指導、実

技制作を通して、思考力、創造力を養い、学生一人ひとりが自らの表現と可能性を見出すための教育を目指します。

- 教育 ジブン ジブン × 表す = Creative  
基礎的な造形から豊かな専門性、表現手法までを学ぶ実技制作を軸としながら、京都の地場産業との地域交流、多くの海外提携校との国際交流、学部内の異分野交流をプログラム化し、学生が主体的に学びの幅を広げ、自己の考え方や存在意義を確立することを目指します。
- 友情 アソビ アソビ × 広げる = Soulful ・ キズナ × 結ぶ = Friendly  
キズナ 自己と他者、自己の表現領域と他者の領域、自己の在る環境と外界（社会）との違いを見つめ合い、教員と学生、仲間同志が対話、批評、検証を重ね、新たな発想を生み出す教育を重視します。

#### 洋画コース

- 学問 ミライ ミライ × 知る = Active  
現代美術にいたる歴史的な必然性を学び、今日における絵画表現の意味と限界、そして未来の可能性について考える機会を用意します。その際、図版や現物で作品を鑑賞するのみならず、美術と歴史を思想の観点からとらえることで美術を思索する手がかりを提示します。
- セカイ セカイ × 考える = Peaceful  
芸術と歴史、社会、そして世界の深い関わりを知り、広い視野から芸術を見つめなおすカリキュラムを設計します。そのため、グローバル化する現代の理解に必要な知見を提示すると同時に、交換留学制度を拡充および活用することで身をもって世界を経験する機会を提供します。
- 教育 ジブン ジブン × 表す = Creative  
学生の意欲を尊重し、油絵のみならず様々な表現の手法や様式に取り組むことのできる柔軟なカリキュラムを編成します。それを有効に機能させるため、作家経験の豊富な教員スタッフを多分野から構成し、学生の取り組みをサポートします。
- 友情 アソビ アソビ × 広げる = Soulful  
感じること、考えること、そしてつくることの往復と総合をもたらす幅広いカリキュラムを構築します。また、自在な思索と表現活動を可能とするため、学生一人ひとりにゆとりのある制作空間を確保するとともに、自由に活用できる資料や書籍を豊富に提供します。
- キズナ キズナ × 結ぶ = Friendly  
地に足のついた関係性を築き、教員も交えての自由なコミュニケーションのできるグループ単位の学習の場を提供します。また、グループ間の往復を自由にし、さらにグループ合同での企画を実施することによって、いっそう多様で新たな出会いを可能にします。



## 日本画コース

基本を大切にしたカリキュラムです。自然を見つめ学ぶことと日本画の魅力を生かすことに自身の感性を重ねることで作品が生まれます。テーマに沿った課題制作と、各々の感性に合ったテーマによる自由制作を織り交ぜながらカリキュラムが進行します。また、古典の研究や日本画材の現代的表現技法の授業も取り入れ、現代様式・古典様式を問わず様々な視点から絵画を追求し、次の時代を創造する担い手をつくりだします。

## 立体造形コース

- 学問 ミライ ミライ × 知る = Active  
知的好奇心を誘発し、探究心を養う無限大の表現領域の確立 (Infinity)
- セカイ セカイ × 考える = Peaceful  
四大元素 (地・水・風・火) に代表される地球規模の表現研究の実践 (The four elements)。
- 教育 ジブン ジブン × 表す = Creative  
作品をつくり表現する過程 (Process) と個 (Individual) に重点を置いたカリキュラム。
- 友情 アソビ アソビ × 広げる = Soulful  
原始的な素材 (石・土・木・金属) から五感を働かし体感できる課題構成 (The five senses)。
- キズナ キズナ × 結ぶ = Friendly  
自らの出自、国籍、生い立ちから成り立つ自己と他者との関係の発見 (Identity)。

## 陶芸コース

- 学問 ミライ ミライ × 知る = Active  
同時代の陶芸表現や技術だけでなく、歴史的な表現や技術を知るために時間軸を意識した科目を配置します。技術が表現にとって重要であることと、基礎から応用へと展開できる事実を確認し、実践から自己の表現を発展する喜びを知ることができる授業をおこないます。
- セカイ セカイ × 考える = Peaceful  
世界の国々や幅広く陶芸文化を持つ日本の各窯産地の陶芸の特色を知る手掛かりを各授業に取り入れます。陶造形、クラフトでの「表現」が世界中で生活に深く関わっていることを感じ、考えられるカリキュラムを配置、運営します。そして海外作家や日本の窯産地作家の招聘を積極的に行い、学生との交流を深めていくプログラムを設けます。
- 教育 ジブン ジブン × 表す = Creative  
過去を知り、同時代を感じ、未来を創る学生の養成を目指し、美術、伝統工芸、デザインクラフトでの陶芸の表現領域に自由に挑戦でき、

その希望に応じるカリキュラムを編成します。そして個々の領域につながる[技術トレーニング]、[イメージトレーニング]となる科目を置き、専門性を養成します。

友情 アソビ アソビ × 広げる = Soulful

進級制作として、ギャラリーや公共空間での発表展覧会を実体験します。社会現場での対応力と感性を養成するカリキュラムを設けます。学内での展覧会のためのディスカッションと現場での「ずれ」を認識し、その「ずれ」の修正と発展へと変換する能力を育成します。

キズナ キズナ × 結ぶ = Friendly

京都の他大学との合同陶芸展や国際的な大学間シンポジウムに積極的に参加し、カリキュラムの中で授業と連携していきます。京都、そして世界で陶芸に関わっている学生、教員、窯産地の技術者、表現者との接点を積極的につくり出します。

#### テキストスタイルコース

学問 ミライ ミライ × 知る = Active

歴史あるいは様々な領域の広範な知識を生あるいは芸術表現活動への教養とし、生きることの意味とミライを提示する。

セカイ セカイ × 考える = Peaceful

国や地域の文明文化を尊重し、共通する生への理解と新しい思想の構築が新しいセカイを創造することを提示する。

教育 ジブン ジブン × 表す = Creative

個人の概念と集団・社会の概念との関係性の理解が、新しいジブンの表現となることを提示する。

友情 アソビ アソビ × 広げる = Soulful

求める答や方向を一点にしばられることなく、アソビをもった広い視野から思索する想像力の必要性を提示する。

キズナ キズナ × 結ぶ = Friendly 共通する理解を前提とすることの意味と、人を尊重することで生まれるキズナを提示する。

#### 版画コース

学問 ミライ ミライ × 知る = Active

様々な表現方法から基礎をしっかりと学び、学生一人ひとりがのびやかに自分の表現と可能性を発展させていく授業運営を行います。

セカイ セカイ × 考える = Peaceful

自分の世界を探求しながら、将来の自分を見据え各自が方向をしぼっていきます。アーティストとして、伝統文化を誇りに思う京都の職人として、またデザイナーとしてなど、各自が得意分野で力を発揮することができる社会の場を考え、学びから実践へ行動します。

教育 ジブン ジブン × 表す = Creative

作品制作や講評会を通して、作品展示の手順や要領を学ぶことで、自己の作品を効果的にプレゼンテーションする方法と、自分から対外的な世界へ向かって表現する力を高める方法を学びます。

友情 アソビ アソビ × 広げる = Soulful

各自がそれぞれのメッセージを持って表現した作品を学外で発表することによって、個人の表現力は社会とつながっていきます。また、それらの発表過程において様々な人と対話することによって、制作表現するだけでは学べないものを体験し、表現と社会の関係性を感じとります。

キズナ キズナ × 結ぶ = Friendly

小部数出版を前提とした作品制作における共同作業や、学生の制作現場である工房施設を共同使用することで、コミュニケーション能力を広げ、共通意識を持つ事によって、互いの作品から新たな作品発想を思考していけるようにします。

#### 映像コース

学問 ミライ ミライ × 知る = Active

芸術の歴史とその背景となる社会との関係や、その意味を知り、またその問題点を現在的な視点から思考する講義科目を用意します。現在の情報社会を支えてきたメディアやテクノロジーの持つ意味や機能を考え、そこから着想を得て、創造的な表現に結びつけるトレーニングをする実習・演習科目を配置します。日進月歩の情報メディア環境やテクノロジーを理解して利用できる能力と、それらを用いて表現する能力（リテラシー）を身につけるために、映像だけでなく、プログラミングや電子工学、サウンドデザインを含んだ実習・演習内容とします。

セカイ セカイ × 考える = Peaceful

単に知識として世界の問題を知るだけではなく、国際交流を通じて、直に異なる世界の多くの人々との出会いを図る機会や授業を配置します。交換留学制度による外国人学生との交流、招聘講師や芸術家などによる講演・シンポジウム・作品紹介、国際展への参加など、実践的な教育の中で、それぞれの学生が、より広い視野から人間関係や、芸術のあり方を考える能力を身につけることを目指します。世界の芸術や、芸術批評と触れ合うことで世界の人々の考え方を学ぶ機会とします。

教育 ジブン ジブン × 表す = Creative

情報メディア社会に対応できるリテラシーを身につけるカリキュラムと併せて、表現する試みを行う実習・演習科目を配置します。芸術的な表現に社会性をもたせるために、ギャラリー、美術館、公共施設等

での展示、情報ネットワークでの公開をおこないます。また、国内外のフェスティバルへ積極的に参加するための指導プログラムをカリキュラムの一部に組み込む授業を配置します。

友情 アソビ アソビ × 広げる = Soulful

遊び心をもったインタラクティブ（双方向的）なメディアアートなどの企画・制作をおこない、それらを実際の公共空間に展示し、鑑賞者の反応を確かめるプログラムを盛り込んだ演習科目を配置します。さらに、作品制作だけでなく、企画運営や広報活動まで学生たちで行うことにより、さまざまな形で社会との接点をつくりだし、社会への発信の方法や、卒業後の社会活動へとつなげていきます。

キズナ キズナ × 結ぶ = Friendly

多くの芸術系大学や専門の教育機関で制作された作品を一堂に会して開催される映像メディアフェスティバル、講演、シンポジウム、交流会等への積極的な参加を前提にした表現実習を配置します。同時代性を生きる同世代の学生の作品や意識と触れ合うことによって、それぞれの学生の意識の違いや表現の違いを知る機会となります。交換留学生を含めた、他者との協同制作を行う実習・演習科目を配置することにより、国際感覚を高めるとともに交流を深める機会とします。

### <3>デザイン学部

デザイン学部および学部内の各コースでは、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下のように定めている。

#### デザイン学部

デザイン全般や隣接諸領域に関わる基礎的な知識を学び、それぞれの専門メディアに固有の知識・技術・表現を自分のものとして獲得した上で、領域にとらわれない自由な発想を具現化できる能力を引き出すようなカリキュラムを配置する。

教員との交流、学生同士の共同作業、企業や地域／社会との協働を通じて他者とのコミュニケーション力を高め、自らのデザインを社会に対して発信していくためのスキルを磨く教育を目指す。

また、国際的に通用するデザイナーを育成するため、基礎的な語学教育を推進し、海外への作品発表や留学の機会をサポートする。

#### グラフィックデザインコース

グラフィックデザインはあらゆる視覚情報を表現・可視化するプロセスととらえ、文

字や図像（画・写真・文様など）を可視化する際の「定着力」や深く考察された「表現力」、それらをまとめる「編集力」「伝達力」に重きを置いたカリキュラムを配置する。

デザインやアートの歴史観に立脚しつつ、京都という立地をいかし「ジャパン・グラフィック」ともいべき独自の視覚伝達の研究・制作について意識的に取り組む。

#### イラストレーションコース

「描く」と「伝える」ことをイラストの本質とし、様々なメディアにおけるビジュアルコミュニケーションも「描く」行為の延長ととらえ、カリキュラムを配置する。単なる作品制作に留まらず、自らの表現を言葉で説明する機会を持たせることで、言葉に対する知識、感性を養うと共に、メディアの特性を理解し、他者に伝えること（コミュニケーション）の重要性を意識させる課題を設定する。

#### デジタルクリエイションコース

デジタルクリエイションが取り扱う領域は、メディアの変遷やグローバル化によって拡張の一途をたどっている。

とくにウェブや写真やムービーなど個々の表現・制作が習得できる科目群を一方に配置し、他方ではグループ制作や共同作業におけるコミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成の習得できる科目群を配置する。

#### プロダクトコミュニケーションコース

ビジネスとして時代が必要とする製品を創出し、社会に貢献するプロダクトデザイナーを育む。

地球環境の変化に敏感に反応し、サステイナブルな社会と豊かな人間性を育むものづくりと、京都に立地する大学として「伝統」「先進」「環境」のDNAをデザインという行為の中に息づかせ、世界に発信する質の高い教育を目指す。

イノベーションを支えるインタラクション発想、マネージメント・プロデュース能力向上にも力を注ぐ。

先端企業及び公機関との産官学連携授業には積極的に力を注ぎ、グローバルな視点からの知恵を具体的なカタチへ可視化する活きた教育に重点を置いた科目群を配置する。

#### ライフクリエイションコース

「デザインする」ことの楽しみを知り、「住まいと暮らし（インテリアデザインと生活クリエイト）」のデザインを学ぶ。

平面と立体を繋ぐ事の特徴とし、京都に立地する大学として、「伝統」「先進」「環境」

のDNAをデザインという行為の中に息づかせ、世界に発信する質の高い教育を目指す。

高いコミュニケーション力をクリエーション出来ること、空間や環境改善提案に加え、プロデュースやコーディネート能力を有する人材育成を目指す。

先端企業及び公機関との産官学連携授業に積極的に力を注ぎ、グローバルな視点からの知恵を具体的なカタチへ可視化する活きた教育に重点を置いた科目群を配置する。

#### 建築コース

以下の内容を主体的かつ実践的、段階的に習得する。

1. 美観上と技術上、双方の要求を満たす建築デザインを創造する能力
2. 人間と空間、建物、周辺環境の関係を理解し適切な尺度を与える能力
3. 都市のデザイン、および計画プロセスの理解
4. 建築家の職能と社会的使命の理解
5. 建物の設計にともなう構造計画、施工、環境工学、持続可能性に関する知識
6. 建築の歴史と理論、ならびに関連する芸術、工学および人文科学に関する知識
7. デザイン・コンセプトを建物に反映させ全体計画にまとめる際の法令、手続きに関する知識

#### <4>マンガ学部

マンガ学部および学部内の各コースでは、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下のように定めている。

##### マンガ学部

マンガを学ぶことが知識や技術の修得だけでなく、実践性を持ち、しっかりした精神を持った技術として各学生の身につくように指導する。

マンガ・アニメーションを学ぶことで、現代社会の諸相や過去の歴史、また人間や異文化についても理解を深めることができる。

実作を通して技術を学ぶと同時に、マンガ・アニメーションを研究対象として正対し、理論的にもアプローチして学習することができる。

第一線の表現者、実作者、プロデューサー等からの直接指導により、最前線の現場の実際を教育内容に取り入れる。

共通言語としてのマンガ表現を通じて、多くの学生との交流できる機会をカリキュラムの中で設定する。

##### カートゥーンコース

観察力を磨き、的確にモノを見る力と表現力を身につける。

社会の動きや世界の動向などひろく外に対する視点を獲得する理論学習を重視する。

創造したアイデアを作品へと仕上げるができる技術を身につける。

#### ストーリーマンガコース

自らが作家である経験豊かな指導者から、技術だけでなくその精神をも学び取ることができる。

職業人としてのマンガ制作技術を基礎から応用まで修得することができる。

マンガを言語としてもとらえ、時代の変化に応じて理解し使える、使い手を目指す。

#### マンガプロデュースコース

マンガというコンテンツ総体を体系的かつ理論的に把握することを目指す。

物語をつくる力を鍛え、マンガ表現の基礎を学ぶ。

メディアの発達や変化をいち早くとらえ、教学内容に反映する。

#### アニメーションコース

速度、変形、軌跡で構成される「動き」をアニメーション表現を支える基盤として実践的に理解することができる。

理論的学習に根ざしながら、実践的表現能力を伸ばすことができる。

絵、声、音楽、動きといった様々な表現が複合的に連関する総合芸術としてアニメーションをとらえる。

### <5>人文学部

人文学部では、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、教育課程の編成・実施方針を以下のように定めている。

#### 人文学部

学問 ミライ ミライ × 知る = Active

「21世紀型市民」を養成すべく、専門性を有するだけでなく、幅広い教養を身につけることを目指します。またそれだけでなく、芸術や現代文化の諸相を理解したうえで、よりよい文化や社会の構築に寄与できる人材を育成するための教育を実施します。

セカイ セカイ × 考える = Peaceful

学部開設当初から掲げる「国際主義」の考えのもと、国家、宗教、民族の垣根を超えた多様な人間が共存できる社会の実現を目指すカリキュラムを提供します。また内外を問わず実際の現場に出向き、「本物」に触れる機会を多く与えます。

教育 ジブン ジブン × 表す = Creative

自らの力で課題に取り組み考える力を身につけるため、学生の主体性を重んじ、授業での体験や感動を通して自身の創造性を高め、また自身の表現方法を探求できる授業運営を行います。

友情 アソビ アソビ × 広げる = Soulful

頭だけでなく、心と体を用いる活動をふんだんに取り入れ、そこでの実体験をもとに学生の感性を磨き、創造力を育むことに繋がります。その結果として独創性あふれる表現方法を修得することを目指します。

キズナ キズナ × 結ぶ = Friendly

自己および自身の表現方法の確立を有意義に進めるため、カリキュラムの中にある様々な人やコトとの出会いを多く演出します。それに他者理解の精神で向き合い、理性と良心を育むことを目指します。

#### <6>芸術研究科

芸術研究科では、教育課程の編成・実施方針を定めていない。

#### <7>デザイン研究科

デザイン研究科では、教育課程の編成・実施方針を定めていない。

#### <8>マンガ研究科

マンガ研究科では、教育課程の編成・実施方針を定めていない。

#### <9>人文学研究科

人文学研究科では、教育課程の編成・実施方針を定めていない。

### (3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

#### <1>大学全体

京都精華大学の教育目的、大学全体の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、大学ホームページに掲載しており、大学構成員に周知され、社会に公表されている。

#### <2>芸術学部

芸術学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、学則に規定して大学ホームページに掲載しており、大学構成員に周知され、社会に公表している。また、学位授与方針および教育課程編成・実施方針も、大学ホームページに掲載し、大学



構成員に周知するとともに、社会に公表している。

### <3>デザイン学部

デザイン学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、学則に規定して大学ホームページに掲載しており、大学構成員に周知され、社会に公表している。また、学位授与方針および教育課程編成・実施方針も、大学ホームページに掲載し、大学構成員に周知するとともに、社会に公表している。

### <4>マンガ学部

マンガ学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、学則に規定して大学ホームページに掲載しており、大学構成員に周知され、社会に公表している。また、学位授与方針および教育課程編成・実施方針も、大学ホームページに掲載し、大学構成員に周知するとともに、社会に公表している。

### <5>人文学部

人文学部の学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、学則に規定して大学ホームページに掲載しており、大学構成員に周知され、社会に公表している。また、学位授与方針および教育課程編成・実施方針も、大学ホームページに掲載し、大学構成員に周知するとともに、社会に公表している。

### <6>芸術研究科

芸術研究科の研究科・専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、大学院学則に規定して、大学ホームページおよび「履修のてびき」に掲載しており、大学構成員に周知するとともに社会に公表している。また、学位授与方針は大学ホームページに掲載し、大学構成員に周知するとともに、社会に公表している。

### <7>デザイン研究科

デザイン研究科の研究科・専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、大学院学則に規定して、大学ホームページおよび「履修のてびき」に掲載しており、大学構成員に周知するとともに社会に公表している。また、学位授与方針は大学ホームページに掲載し、大学構成員に周知するとともに、社会に公表している。

### <8>マンガ研究科

マンガ研究科の研究科・専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、大学院学則に規定して、大学ホームページおよび「履修のてびき」に掲載しており、大学構成員に周知するとともに社会に公表している。また、学位授与方針は大学ホームページに掲載し、大学構成員に周知するとともに、社会に公表している。

### <9>人文学研究科

人文学研究科の研究科・専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、大

学院学則に規定して、大学ホームページおよび「履修のてびき」に掲載しており、大学構成員に周知するとともに社会に公表している。また、学位授与方針は大学ホームページに掲載し、大学構成員に周知するとともに、社会に公表している。

(4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、定期的に検証を行っているか。

<1>大学全体

2012年11月に開催の学長ミーティングで、各学部・研究科に対して、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の見直しを依頼し、それを受けて各単位で検証を実施した。

<2>芸術学部

芸術学部では、芸術学部教務委員会のもと、各コース教員からなる拡大教学委員会において検証し、2013年2月9日の芸術学部教務委員会において、芸術学部全体および各コースの学位授与方針が改定された。

<3>デザイン学部

デザイン学部では、毎月開催しているデザイン学部教務委員会において、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づいた適切な授業運営がなされているのかなど、学部内での教学上の課題などについて適宜審議を行っている。これらの会議で議論した結果、2012年度は学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の改定は行っていない。

<4>マンガ学部

マンガ学部では、毎月開催しているマンガ学部教務委員会において、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づいた適切な授業運営がなされているのかなど、学部内での教学上の課題などについて適宜審議を行っている。これらの会議で議論した結果、2012年度は学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の改定は行っていない。

2013年度よりマンガ学科にキャラクターデザインコース、ギャグマンガコースの2コースが新設する。また、カリキュラム構成を見直し、これまでコース毎に設置されていた専門科目に加え、学部全体に設置する学部共通科目を設置する。これらに伴い、学部共通科目の編成・実施方針を新たに策定した。また、学部の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について2013年度に見直しを行う。見直しを行うにあたり、2012年度に学部教員に対し、あるべき教育課程の編成・実施方針についてアンケート調査を行った。

<5>人文学部

人文学部では、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学位授与方針および教育課程編成・実施方針の見直しは、2013年1月11日および1月25日開催の人文学部教務委員会において行われ、その適切性が検証された。

<6>芸術研究科

芸術研究科では、毎月開催している研究科委員会において、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づいた適切な授業運営がなされているかなど、教学上の課題などについて審議を行っているが、学位授与方針の適切性について、直接の検証は行っていない。

#### <7>デザイン研究科

デザイン研究科では、毎月開催している常任委員会において、各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づいた適切な授業運営が実施されているかなどについて、深い議論がなされていないのが現状である。

#### <8>マンガ研究科

マンガ研究科では、教育課程の編成・実施方針を策定中で、2013年度に大学ホームページへの掲載を予定している。

#### <9>人文学研究科

修士論文最終審査会、判定研究科委員会等が研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学位授与方針の適切性について定期的に検証する場となっているが、十分な検証が行われていない。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

#### <1>学部

芸術学部では、2012年度に、7つのコース毎に学位授与方針の適切性について検証を行った際、各コースに細分して検証を行うことにより、学位授与方針に対する構成員一人ひとりの意識が更に高まった。

デザイン学部では、毎月開催している教務委員会において、学部・学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づいた適切な授業運営がなされているのかなど、学部内での教学上の課題について審議を行っており、この議論を踏まえて翌年度のカリキュラムを策定している。

学位授与方針や教育課程の編成・実施方針は、カリキュラム策定における重要事項を決定する際に大学構成員の拠り所となっている。

### ②改善すべき事項

#### <1>学部

各学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針について、学生の認知度が低いため、学生への更なる周知が必要である。

芸術学部では、2012年度に学位授与方針の改訂案をまとめたが、今後、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針との関連性についての検証が必要である。

#### <2>研究科

各研究科において、教育課程の編成・実施方針が明示されていないことと、学位授与方針の適切性についての検証が不十分である点は改善すべきである。

芸術研究科博士後期課程とマンガ研究科博士後期課程において、学位授与方針が明示されていない。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

##### <1>学部

芸術学部では、2012年度に学位授与方針の見直しについての議論が進むなど、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について検証を行う意識の向上が図られたので、各方針の精緻化に向けた更なる継続的改善を進める。

デザイン学部では、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の方針と、科目内容の整合性を図るとともに、2013年度に教育目標と科目の関連性を図示して指導できるカリキュラム・ツリー（教育課程の体系図）を作成する。

#### ②改善すべき事項

##### <1>学部

各学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を学生へ更に周知するために、2014年度の履修のてびきにこれらを掲載する。

芸術学部では、2013年度に学位授与方針と教育課程の編成・実施方針との関連性についての検証を実施する。

##### <2>研究科

2013年度中に、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づく教育課程の編成・実施方針の策定および明示を行うとともに、学位授与方針の適切性について検証を行う。

2013年度中に、芸術研究科博士後期課程とマンガ研究科博士後期課程において、学位授与方針の策定および大学構成員への周知と社会への公表を行う。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 2【教育課程・教育内容】

#### 1. 現状の説明

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

##### <1>大学全体

学士課程では、各学部の教育課程の編成・実施方針に基づいて、学則に定めた人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的の達成に必要な授業科目を学則に規定している。授業科目は、専門科目と教養科目に区分しており、順次性を確保するために、授業科目に配当年次を明示している。また、芸術・デザイン・マンガ学部では、各学年で履修すべき必修科目を配置しており、各年次で進級判定を実施している。

社会の国際化への対応として、全学部で外国語科目を必修化している。また、人文学部では、開講科目である「海外フィールドプログラム」や「プロジェクト演習」で学生を海外へ派遣している。

社会の情報化への対応としては、全学部で情報関連科目を設置しており、デザイン・人文学部では必修としている。また、導入教育科目やキャリア教育科目を配置して、高等学校から大学への学びへのスムーズな移行や、低年次からの就業意識の涵養に留意している。

修士・博士課程では、研究科・専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、学則にその達成に必要な授業科目を規定している。また、授業科目は、講義・演習科目のコースワークと作品や論文制作に繋がるリサーチワークを設置している。

##### <2>芸術学部

芸術学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、京都精華大学学則第10条別表Iの通りに授業科目を開設している。授業科目は、一般教養科目としての「基礎講義・演習科目」と、芸術領域の知見を広める「専門教育科目」に分けられ、これらを4年間に配当して編成している。

「基礎講義・演習科目」では、外国語、哲学、文学、経済学、自然科学、スポーツなど、人間や社会、自然に関する教養を広める科目や、情報関連科目、キャリア教育科目を配置しており、1年次に「英語」および「表現ナビ」の履修を必修としている。

「専門教育科目」は講義系科目と実技系科目に分かれており、各年次で必修科目を設けている。1、2年次では基礎的な表現力や物の見方を養い、3、4年次では各学生の個性に応じ、より深い表現力と表現テーマ・手法を発見させ、それに応じた思考力や実地調査・情報収集に関わる実践力を身に付けさせる科目を設置している。これらのほか、他学部の講義系科目を履修できる「他学部交流科目」を配置しており、他学部の専門領域についても学習できるように配慮している。

卒業要件は、外国語科目6単位以上を含む「基礎講義・演習科目」、「専門教育科目」および「他学部交流科目」から44単位以上、「卒業制作実習」9単位を含む「専門教育科目」80単位以上の、合計124単位以上としている。

なお、年次毎の教育課程の目標と科目構成や卒業要件等については、履修のてびきに記載し、履修ガイダンス等で学生に周知している。

### <3>デザイン学部

デザイン学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、京都精華大学学則第10条別表Ⅰの通りに授業科目を開設している。授業科目は、一般教養科目としての「基礎講義・演習科目」と、デザイン領域の知見を広める「専門教育科目」に分けられ、これらを4年間に配当して編成している。

「基礎講義・演習科目」では、外国語、哲学、文学、経済学、自然科学、スポーツなど、人間や社会、自然に関する教養を広める科目や、情報関連科目、キャリア教育科目を配置しており、1年次に「表現ナビ」、1、2年次において「デザイン専門英語」の履修を必修としている。また、デザイン分野における情報化に対応するため、各コースの専門科目で情報関連科目を必修としている。

「専門教育科目」は講義系科目と実技系科目に分かれており、デザインという行為が社会と密接に結びついた表現であるため、広く様々な理論や技術、手法に触れる機会を与えている。1年次にはデザイン実践の基礎となる画力、構成力、設計力、デジタル編集技能の基礎を養う学習を中心とし、2、3年次には各学生の個性に応じたさらなる専門分野・領域の技能や知識を養う学習、4年次には学習の集大成として卒業制作に取り組み、企画や展示を通じて社会に向け発信する学習へと発展するよう構成している。

各学年で履修すべき必修科目を設けており、各年次で進級判定を実施している。進級条件は、1年から2年では、各コースで指定された必修実技・演習科目の単位を全て修得し、かつ定められた単位数以上の選択必修実技・演習科目の単位を修得することとしている。2年から3年では、各コースで指定された必修実技・演習科目の単位を全て修得し、かつ定められた単位数以上の選択必修実技・演習科目の単位を修得することと、2年次終了時に総修得単位数(資格課程の単位を除く)が50単位に達していること。3年から4年では、各コースで指定された必修実技・演習科目の単位を全て修得し、かつ定められた単位数以上の選択必修実技・演習科目の単位を修得することとしている。

卒業要件は、外国語科目6単位以上を含む「基礎講義・演習科目」、「専門教育科目」および「他学部交流科目」から24～52単位以上、「卒業制作」4単位を含む「専門科目」72～90単位以上の、合計124単位以上としている。

なお、年次毎の教育課程の目標と科目構成や卒業要件等については、履修のてびきに記載し、履修ガイダンス等で学生に周知している。

### <4>マンガ学部

マンガ学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、京都精華大学学則第10条別表Ⅰの通りに授業科目を開設している。授業科目は、一般教養科目としての「基礎講義・演習科目」と、マンガ領域の知見を広める「専門教育科目」に分けられ、これらを4年間に配当して編成している。

「基礎講義・演習科目」では、外国語、哲学、文学、経済学、自然科学、スポーツなど、マンガを学ぶ学生に対し、人間や社会、自然に関する教養を広める科目や、情報関連科目、

キャリア教育科目を配置しており、1年次に「表現ナビ」、1、2年次において「マンガ専門英語」の履修を必修としている。

「専門教育科目」は講義系科目と実技系科目に分かれており、マンガ・アニメーションの表現者として必要不可欠な技術と知識を修得させる科目を設け、学年進行に応じて配置している。1、2年次では、作画、編集技術、デジタル技術等基礎スキルを指導する他、マンガ・アニメーションの歴史や概要を学ぶ講義科目を必修科目としている。3、4年次では各学生の個性に応じ、きめ細かな指導・ディスカッションや個人制作を通じ、より深い表現力と表現テーマ・手法を発見させ、それに応じた思考力・実地調査や情報収集に関わる実践力を身に付ける。講義系科目では、現代のマンガ・アニメーションの諸相や海外展開について学ぶ。また、4年次では、学修の集大成として卒業制作に取り組む。学生の個性に応じ、修得した技法や表現力を用いて実践的に制作し、卒業制作本の企画・編集・展示への参画を通じ、社会に向けた発信力を養う。

各学年で必修科目を設けており、各年次での進級判定の手続きは、各コースのコース会議で1月に進級判定評価に関する審議を行い、最終な成績評価が終了した3月の教務委員会での提案・承認を経て、3月に開催される教授会で承認を得ている。

卒業要件は、外国語科目6単位以上を含む「基礎講義・演習科目」、「専門講義科目」および「他学部交流科目」から40単位以上、「卒業制作実習」9単位を含む「専門教育科目」84単位以上の、合計124単位以上としている。

なお、年次毎の教育課程の目標と科目構成や卒業要件等については、履修のてびきに記載し、履修ガイダンス等で学生に周知している。

また、2013年度から開始する学部専門科目のカリキュラム編成見直しに着手している。コース毎に設置している専門教育科目の一部を専門共通科目としてマンガ学部全体に開講し、それに伴って卒業要件の見直しも行う予定である。

## <5>人文学部

人文学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、京都精華大学学則第10条別表Iの通りに授業科目を開設している。授業科目は、1年次以上を対象とする「基礎教育科目」と2年次生以上を対象とする「専門教育科目」に分類されており、これらを4年間に配当して編成している。

「基礎教育科目」は、教養科目、語学科目、情報基礎科目、情報リテラシー科目、そして、大学入門科目から構成される。教養科目にはキャリア教育科目を配置しており、1年次からのキャリア教育を導入している。語学科目は8単位必修としており、国際化に対応して英語（留学生は日本語）のほか、6カ国の言語を習得できる科目を設けている。情報基礎科目および情報リテラシー科目は、各2単位を必修としており、卒業までに情報化に関する知識と技術を修得させている。大学入門科目では、1年次に「大学ナビ」、「初年次演習」、「日本語リテラシー」を必修として、大学の学びへのスムーズな導入に配慮している。

「専門教育科目」は、コース専門科目、コース演習科目、表現技法・ワークショップ科目、および、地域研究科目から構成される。国際化に配慮した科目として、国際コミュニケーションコース専門科目として29科目が設置されており、当該コース以外の学生でも履

修することができる。これらの他に人文学部で履修可能な授業科目として、他学部が開設している学部交流科目がある。4年次には必修科目である「卒業プロジェクトⅠ」「卒業プロジェクトⅡ」を設け、それまでの学びの集大成としての役割を果たす。なお、特に単位修得状況が良好で、より高度な学習機会を求める学生には、担当する指導教員との相談の上で選択科目の「卒業論文・卒業制作」にあたらせ、高度な学習成果を得られる機会を用意している。2012年度は79名がこれに取り組み、うち59名が最終的に卒業論文または卒業制作を提出した。

卒業要件は、以下のような枠組みで、合計124単位以上としている。

- \*必修科目 8 単位を含め、36 単位以上を基礎教育科目の中から選択履修
- \*教養科目の中から 10 単位必修
- \*情報基礎科目の中から 2 単位必修
- \*情報リテラシー科目の中から 2 単位必修
- \*所属するコースが指定する科目から 24 単位および他コース専門科目から 12 単位を含め、40 単位以上を専門教育科目のうち、コース専門科目の中から選択履修
- \*コース演習科目の必修 6 単位、表現技法・ワークショップ科目と地域研究科目の選択必修 6 単位を含めた 20 単位以上を、専門教育科目のうちコース演習科目、表現技法・ワークショップ科目および地域研究科目の中から選択履修
- \*28単位以上を基礎教育科目、専門教育科目および他学部交流科目の中から自由選択単位として選択履修

なお、年次毎の教育課程の目標と科目構成や卒業要件等については、履修のてびきに記載し、履修ガイダンス等で学生に周知している。

また、2013年度に予定されているカリキュラム改革に向けて、コース演習科目の必修化の検討を行い、教育の更なる充実を図っている。

#### <6>芸術研究科

芸術研究科の教育課程は、京都精華大学大学院学則第5条の2に定めた人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、第22条別表第3-1に記載の通りに授業科目を開設している。

芸術研究科博士前期課程の授業科目は、「共通基盤科目」、「専門特講科目」、「専門研究科目」に分類されており、これらを2年間に配当して編成している。修了要件は学則第22条別表第3-1に30単位以上と規定している他、第27条により、修士論文または修士作品についての研究の成果の審査および最終試験に合格することで修了と認定している。

博士後期課程については、授業科目は「表現研究計画演習」「表現総合研究1～3」で構成され、これらを3年間に配当して編成している。修了要件は学則の別表第3-3に14単位以上と規定している他、第27条の2により、博士論文の審査および最終試験に合格することで修了と認定している。

#### <7>デザイン研究科

デザイン研究科の教育課程は、京都精華大学大学院学則第5条の2に定めた人材の養成に



関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、第22条別表第3-2に記載の通りに授業科目を開設している。

授業科目は、「共通基盤科目」、「専門特講科目」、「専門研究科目」に分類されており、これらを2年間に配当して編成している。現代の表現者には、従来の学問領域や専門分野の枠を越え、あらゆる異分野を融合させ、枠に捉われず新たに創造するための自由な発想が不可欠となっている。全研究科を横断する「共通基盤科目」では、表現の根本的な思想や哲学を学ぶ講義科目や、表現を社会に展開するためのプロジェクト科目を配置している。「専門特講科目」では、「デザイン理論特講」「創造領域特講」など、デザインの基礎やクリエイターとしてのあり方を学ぶ講義科目を配置している。「専門研究科目」では、実践的な応用力を養うための科目を配置している。

修了要件は学則第22条別表第3-2に30単位以上と規定している他、第27条より、修士論文または修士作品についての研究の成果の審査および最終試験に合格することで修了と認定している。

#### <8>マンガ研究科

マンガ研究科の教育課程は、京都精華大学大学院学則第5条の2に定めた人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、第22条別表第3-3に記載の通りに授業科目を開設している。

マンガ研究科博士前期課程の授業科目は、「共通基盤科目」、「専門特講科目」、「専門研究科目」に分類されており、これらを2年間に配当して編成している。「共通基盤科目」にはプロジェクト型の演習科目があり、他研究科の学生とともに、リサーチワークを行っている。「専門特講科目」では、専任教員を中心に、マンガ研究の理論的基盤となる領域について指導している。「専門研究科目」では、実技系と理論系の2分野に分けて運営しており、学生の自主的な研究を重視し、個別指導を中心に行っている。

修了要件は学則別表第3-3に30単位以上と規定している他、第27条により、修士論文または修士作品についての研究の成果の審査および最終試験に合格することで修了と認定している。

博士後期課程は2012年度に開設した。授業科目は、「マンガ研究計画演習」「マンガ総合研究1～4」で構成され、これらを3年間に配当して編成している。修了要件は学則別表第3-3に14単位以上と規定している他、第27条の2により、博士論文の審査および最終試験に合格することで修了と認定している。

#### <9>人文学研究科

人文学研究科の教育課程は、京都精華大学大学院学則第5条の2に定めた人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に基づき、第22条別表第3-4に記載の通りに授業科目を開設している。

人文学研究科の授業科目は、「共通基盤科目」、「専門特講科目」、「専門研究科目」に分類されており、これらを2年間に配当して編成している。「専門研究科目」に配置された必修科目の「人文学基礎演習」と「人文学合同演習」は、それぞれ1年次での履修が求められる。学生はこの時点で自身の指導教員を決め、2年次の学習と研究への基礎的な能力を

修得する。2年次では、必修科目の「人文学演習1」、「人文学演習2」は修士論文完成への指導科目で、個々の研究テーマに基づく指導教員の指導の下、修士論文をとりまとめる。修了要件は学則別表第3-4に30単位以上と規定している他、第27条により、修士論文または修士作品についての研究の成果の審査および最終試験に合格することで修了と認定している。

## (2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

### <1>大学全体

学士課程では、教養科目、専門科目、キャリア教育科目、導入教育科目のバランスに配慮した教育内容の提供に努めている。

修士・博士課程では、各課程で必要な知識や技法を習得する講義・演習科目と、個々の学生の研究・制作テーマに沿った個別指導とのバランスに配慮した教育内容の提供に努めている。

なお、各学部・研究科においては、翌年度に開講する授業科目は、前年度の秋から教務委員会や学部教授会、研究科委員会等において、それぞれの教育課程の編成・実施方針等に基づいて検証し、必要に応じて科目の見直しを実施している。

### <2>芸術学部

芸術学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、「基礎講義・演習科目」は、芸術学部における専門性の追求、制作表現に欠かせない幅広い視野と教養・知識の修得を実現するための科目が設置されている。また、「専門教育科目」における「専門講義科目」は、各コースにおいて展開される演習・実技系科目に対する理論的な支柱となるように、作品を制作するために必要な芸術の各専門領域に関する理論や歴史などを修得するための科目が設置されている。

「専門教育科目」における実技系科目には、各コースの高度な専門性に対応するとともに、「専門講義科目」で養った理論を実践的な制作活動につなげるべく、各コースとも1年次から2年次にかけては基礎的な考え方や技術、様々な素材について学び、3年次からは応用力を身につけ表現の幅を広げる指導を行い、4年次では4年間の学修の集大成である卒業制作に取り組み、作品を展示する展覧会を開催するなど、体系的に編成されており、それぞれの課程に相応しい教育内容を提供している。

### <3>デザイン学部

デザイン学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、「基礎講義・演習科目」は、社会の仕組みや常識といった教養を身に付けることができる科目が設置されている。「学部専門講義科目」「学科専門教育科目（講義系・実技系）」では、デジタル技術の発展にともなう著作権の取り扱い、環境に対する考え方、市場分析や調査から商品開発へ展開する手法の理解、専門的なパソコンスキルの向上など、専門的な理論や技術を修得するための科目が設置されている。また、初年次教育として「表現ナビ」を必修科目と位置付け、大学生として必要な知識、大学で学ぶことの意義などを講義やワークショップを通じて習得していくことを狙いとしている。

各学科では、学年毎にオリエンテーションを開催して、各学年で配置された授業科目の狙いや到達目標を提示し、学生に履修指導を行っている。

教育課程の適切性の検証については、定期的で開催している学科単位での教員会議において、授業運営の進捗状況や学生の履修状況などを共有し、次年度に向けた課題の検討を行っている。これらの検討結果を踏まえて、学部教務委員会で学部内での問題点や改善点を検証し、次年度の授業科目について学部教授会へ提案し決定している。

#### <4>マンガ学部

マンガ学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、「基礎講義・演習科目」は、社会の仕組みや常識といった教養を身に付けることができる科目が設置されている。「学科専門教育科目（講義系・実技系）」では、1年次から2年次にかけて、デッサン、クロッキー、デジタル基礎および各コースの専門領域の概論等を学び、基礎能力を身につけることを主眼にしている。3年次からは応用力を身につけ表現の幅を広げる指導を行い、4年次では4年間の学修の集大成である卒業制作に取り組み、作品を展示する展覧会を開催している。また、初年次教育として「表現ナビ」を必修としており、大学生として必要な知識、大学で学ぶことの意義などを講義やワークショップを通じて修得していくことをねらいとしている。

各コース、学年毎にオリエンテーションを開催して、必修科目を中心に各授業科目の教育内容や到達目標を提示し、学生に周知を図っている。

教育課程の適切性の検証については、月1回、コース毎に授業運営について検討するコース会議が開催され、授業運営の進捗状況、学生の履修状況を確認するほか、次年度に向けての課題の検討を行っている。これらの検討結果を踏まえ、学部教務委員会で教育課程の編成・実施方針に基づいた教育内容を行っているかを検証し、次年度の授業科目の見直しを行い、教授会へ提案し決定している。

#### <5>人文学部

人文学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、専門教育科目では、1年生の初年次演習や2年次以降の専門科目であるコース演習、プロジェクト演習、卒業プロジェクトにおいて少人数のクラスサイズを重視している。具体的には教員1人あたり15名以内になるよう開講しており、全てのクラスを学部所属の専任教員が担当している。コース演習、プロジェクト演習、卒業プロジェクトに関しては、その科目の履修登録ガイダンスを行い、学生への周知を図っている。

卒業要件に加えて、学修要件上重要なフレームとなる科目については特に履修指導に重点を置いている。基礎教育科目の「日本語リテラシーⅠ」「日本語リテラシーⅡ」は、卒業要件上は必修科目ではないが、1年生は全員をクラスに配属させ、自己内省と客観化を目的とした週2回の授業を専任教員1名と助手1名の体制で指導にあたっている。また、同様に卒業要件上必修科目ではないが、2年次、3年次の重要科目として位置づけられているコース演習、プロジェクト演習に関しては、ガイダンスを複数日設けたり登録のための研究室訪問期間を設けて、できる限り多くの学生が履修するようにし、継続的な少人数学習を受けられるように努めている。

各授業科目の教育内容は到達目標を明瞭に提示する科目概要を作成し、随時その精緻化

を進めるとともに、学生に対して周知を図っているほか、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーなども整備しており、2012年度履修のてびきに掲載している。

教育課程の適切性の検証については、毎月2回教務委員会が招集され、日常的にカリキュラムに関する適切性を検証しつつ運営している。また、翌年度のカリキュラム策定にあたっては教務委員会で個々の科目の適切性や教育内容に関する検証を行った後、カリキュラムを構築している。

#### <6>芸術研究科

博士前期課程は、実技系と理論系の2分野に分かれる。学生は、実技系、理論系とも必修科目である専門研究科目「芸術研究」の中で、修士作品・論文中間報告会および修士作品・論文最終発表会を目標に制作・執筆に取り組み、これらの成果も加味して学位審査が行われる。

博士後期課程は、初年次に1年間の研究成果を発表する「D1報告会」を公開形式で開催し、2年次の学位予備審査会、最終年次の学位審査会につなげるカリキュラムとなっている。

#### <7>デザイン研究科

1年次の講義系科目では、共通基盤科目である「知的創造特論」と、専門特講科目の「デザイン理論特講」を必修としており、芸術と社会との関わりやデザイン・工芸が社会でどのような役割を果たしているのかを学ぶ。専門研究科目においては、実技系では実践デザインの習得を、理論系では制作の構想の明確化と提案デザインの完成度を高度化することや、論文作成に必要な思考方法を身につける。

2年次の講義系科目では、修了要件として定めている共通基盤科目6単位以上、専門特講科目は他研究科の2単位を含む8単位以上を履修する。専門研究科目では修士作品・修士論文作成に向けて、各々の研究活動を進めていく。その過程において、他研究科と合同開催により中間報告会を実施し、様々な領域から幅広い視点での指導を受け、修士作品・修士論文の作成を行っている。これらの科目を履修し指導を受けたうえで、最終的に公開発表の形式で2年間の研究結果を発表する報告会を開催している。

#### <8>マンガ研究科

1年次の講義系科目では、共通基盤科目である「知的創造特論」と、専門特講科目の「マンガ理論特講」を必修としており、芸術と社会の関わりを学ぶほか、国内外におけるマンガ研究についての専門的知識を身につける。また、専門研究科目においては、実技系では基礎技術の修得と、自分の作品を客観視しプレゼンテーションできる能力を身につける。理論系では、マンガ・アニメーション研究の専門知識を身につけ、論文作成に必要な思考方法を身につける。

2年次の講義系科目では、修了要件として定めている共通基盤科目6単位以上、専門特講科目は他研究科の科目2単位を含む8単位以上を履修する。専門研究科目では修士作品・修士論文作成にむけて、各々の研究活動を進めていく。

実技系については修士作品構想報告会、修士作品中間報告会の発表を目標に制作に取り

組み、これらを経て、学位審査会を行っている。修士作品は展覧会およびウェブサイトで公開し、その内容も評価対象となっている。理論系については修士論文中間報告会を公開シンポジウムの形式で開催したのち、学位審査会を行っている。

博士後期課程（1年次のみ在籍）では、「マンガ研究計画演習」を必修としており、各々の研究範囲とその研究テーマに応じて、指導教員との面談を重ねながら、博士後期課程3年間における研究計画を立案する。総合的なマンガ表現の視点を獲得するため、研究方法に対する理解を深め、制作と理論のバランスがとれた調和ある研究計画の設定を行う。また、「マンガ総合研究1」も必修としており、広義のマンガ研究をめぐる方法論を学び、領域横断的問題意識を身につけることを目的としている。指導教員の個別指導のほか、全員が集まり、文献についてのディスカッション、共通テーマについての共同研究、自身の研究テーマの紹介などを行う。これらの科目を履修したうえで、研究計画に関する報告会、公開シンポジウムの形式での1年間の研究成果を発表する報告会を開催している

## <9>人文学研究科

全研究科を対象とする共通基盤科目並びに人文学研究科開講の専門特講科目、及び人文学特殊講義1～6を通じて、京都精華大学大学院学則第5条第2項に定めた人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的にある「人文諸科学を総合する学際的なアプローチ」を担保している。

これらの科目で修得した現代社会が直面する現実課題の探求を体系化し、実践的に社会に貢献できる高度な専門的技能を有した人材を養成するために、専門研究科目に配置された1年次前期の必修科目である人文学合同演習で、学生は個々の問題意識に基づいて指導教員の調整を演習担当教員と検討する。1年次後期履修の人文学基礎演習以降、2年次の人文学演習1、人文学演習2と同じ指導教員のもと、1対1または1対2の個別に近い指導体制で、学習と研究を行う。8月及び10月には個々の研究の進捗状況を共有し、指導教員以外の意見を得るため「中間報告会」を行い、2年生は全員が報告を行う。1月には指導教員及び査読者2名による審査を行うことで、学位授与に相応しいかを担保している。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

#### <1>学部

デザイン学部の教育課程は「基礎講義・演習科目」が全課程の30%という割合に対し、「学部専門講義科目」「学科専門教育科目（講義系・実技系）」が70%で編成されており、開講授業時間数、必修科目数、卒業要件に占める科目の割合から見ても専門教育科目による作品制作が主軸となっている。この専門教育は、実社会への制作発表などの機会と多く連携させる仕組みを持たせることで、より体験的な学習要素を持つ設計となっている。在学生や卒業生がデザイン領域に関わる様々なコンペティションにおいて受賞し、学内外から高い評価を得ていることより、現状の教育課程の編成において一定の効果が得られているといえる。

## <2>研究科

研究科では、各研究科独自の講義系科目、研究指導科目のほか、他研究科と共通で開設している共通基盤科目を設置している。共通基盤科目にはプロジェクト型の演習科目があり、他研究科の学生とともに、リサーチワークを行っており、一定の効果が上がっている。

デザイン研究科において、建築専攻では、通常教育課程に加えて指定科目を履修することにより、修士課程の2年間で1級建築士受験資格に必要とする実務認定期間として認定される。今までの卒業生で実務認定期間として認定された学生は全体で約9割であり、高い学習意欲が伺える。

## ②改善すべき事項

### <1>大学全体

幅広い教養を身につける「基礎講義・演習科目」と、専門性をより深めるための「専門教育科目」が、相互に関連性を保っているか検証を行う必要がある。今後、全学共通科目群の構成を検討するにあたり、「基礎講義・演習科目」と「専門教育科目」との関連性を、卒業要件も含めて検証し、教育課程の編成を見直していく必要がある。

### <2>学部

デザイン学部において、近年のデザイン領域は、Webの発展やSNSなど新たな技術革新により、社会のニーズや動向、消費形態が多様化してきている。つまり、単一の領域から生み出される作品等ではなく、かなり広範な領域までもカバーしたデザインや生活への提案が求められている。従って、学部での教育課程の編成・実施方針も、開設時の専門領域に特化したものから、学科・コース専門に留まることなく、領域をクロスオーバーした科目提供の必要性も踏まえ、再構築することが望まれる。

マンガ学部では、実技領域における専門的な教育と理論領域における幅広い教養を養う教育との体系性と整合性を取る必要がある。また、コース毎の専門性が高いので、学部全体からの俯瞰的な視点に基づいたカリキュラムも必要と考えられる。

### <3>研究科

「共通基盤科目」と「専門特講科目」および「専門研究科目」がうまく連携し合い、相互に関連性を保っているかについて検証が必要である。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

#### <1>学部

デザイン学部では、更なる教育課程の改善のために、以下の項目の実施を計画している。

- ・教育課程が現状の社会動向に即しているかについての点検
- ・カリキュラム・ツリーを策定し、授業科目の概要や位置付けを体系的に明示して、開講科目の整合性を点検する。
- ・カリキュラム・ツリーを学生指導の際に活用して、学生に科目の意義を理解させると

ともに学習意欲を向上させる。

## ②改善すべき事項

### <1>大学全体

全学教務委員会で教養教育科目のあり方について検討し、必要に応じて科目構成を見直す。また、教養教育科目の見直しに伴い、各学部で「専門教育科目」のあり方について検討し、必要に応じて科目構成を見直す。

### <2>学部

デザイン学部では、社会動向を踏まえた上で、各コースの専門領域を越えた学科共通科目の導入を検討する。

マンガ学部では、学科、コース、演習単位で「カリキュラム・ツリー」を策定する。

### <3>研究科

各研究科委員会において、「共通基盤科目」「専門特講科目」「専門研究科目」のあり方について検討し、必要に応じて科目構成を見直す。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 3【教育方法】

#### 1. 現状の説明

##### (1) 教育方法および学習指導は適切か。

###### <1>大学全体

各学部・研究科の設置科目は、教育内容に適した授業形態（講義・演習・実験等）を採用しており、各学部での1年間の履修科目登録の上限は、50単位未満に設定している。

###### <2>芸術学部

芸術学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目の形態については、講義科目、実技・実習科目、演習科目（講義系および実技系）をそれぞれ配置している。とりわけ各コースの実技・実習科目については、各科目とも課題テーマに基づいた作品制作を2コマないしは3コマの連続授業の中で行うとともに、授業時間外も施設・設備を開放して学生が自主的に授業外学習に取り組める環境を整備している。

実技・実習科目では、課題毎に作品プレゼンテーションおよび作品批評の形式による「合評」が行われ、学生の主体的な授業参加が達成されている。各学科には授業運営の支援を行う助手を配置させており、学生一人ひとりに細やかな指導を行えるように配慮している。

実技・実習科目や実技系演習科目では、複数名の教員が少人数の学生を個別に指導する体制をとっており、オフィスアワー等の制度は特に設けていないが、実質的には授業内はもとより、授業外においても随時学生を個別指導することが可能な体制となっている。

毎年度の入学者および進級者には履修ガイダンスを実施するとともに、実技・実習科目については学期始めにコース毎にガイダンスを実施、また授業開始時には当該授業に関するガイダンスを実施しており、学生が適切に学修を進められるよう支援している。全学生に配付する「履修のてびき」には卒業・進級要件および履修登録科目の上限（年間48単位）、単位制度に係る適切な学修量等を明記している。

###### <3>デザイン学部

デザイン学部の教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目の形態については、講義科目、実技・実習科目、演習科目（講義系および実技系）をそれぞれ配置している。とりわけ各コースの実技・実習科目については、各科目とも課題テーマに基づいた作品制作を2コマないしは3コマの連続授業の中で行うとともに、授業時間外も施設・設備を開放して学生が自主的に授業外学習に取り組める環境を整備している。

実技・実習科目では、課題毎に作品プレゼンテーションおよび作品批評の形式による「合評」や「ジュリー（建築講評会）」が行われ、学生の主体的な授業参加が達成されている。各学科には授業運営の支援を行う助手を配置させており、学生一人ひとりに細やかな指導を行えるように配慮している。

実技・実習科目や実技系演習科目では、複数名の教員が少人数の学生を個別に指導する体制をとっており、オフィスアワー等の制度は特に設けていないが、実質的には授業内は



もとより、授業外においても随時学生を個別指導することが可能な体制となっている。また、専任教員は、専門技術の指導のみならず、授業外時間でも課題制作への指導、学生生活やキャリア形成の相談に対応している。さらに、各領域の第一線で活躍するプロフェッショナルな実務家、外国人教員や海外で活躍する教員などを招聘し、学生に最先端の技法や知識に触れさせたり、グローバル化への対応力を身につけさせることに努めている。

毎年度の入学者および進級者に対する履修相談や履修ガイダンスを実施するとともに、実技・実習科目については学期始めにコース毎にカリキュラムポリシーに基づいた授業内容に関するガイダンスを実施し、学生が適切に学修を進められるよう支援している。全学生に配付する「履修のてびき」には卒業・進級要件および履修登録科目の上限（年間 44 単位）、単位制度に係る適切な学修量等を明記している。

#### <4>マンガ学部

マンガ学部の教育課程編成・実施方針に基づき、各授業科目の形態については、講義科目、実技・実習科目、演習科目（講義系および実技系）をそれぞれ配置している。とりわけ各コースの実技・実習科目については、各科目とも課題テーマに基づいた作品制作を 2 コマないしは 3 コマの連続授業の中で行うとともに、授業時間外も施設・設備を開放して学生が自主的に授業外学習に取り組める環境を整備している。また、これら実技・実習科目では、課題毎に作品プレゼンテーションを行う「合評」や、学年進級にあわせた作品集の制作を実施しており、学生の主体的な授業参加が達成されている。各コースでは授業運営の支援を行う助手（1～2 名）または実習アシスタントを配置しており、学生 1 人ひとりにきめ細やかな指導を行えるよう配慮している。

毎年度の入学者および進級者に対する履修ガイダンスを実施するとともに、実技・実習科目については学期始めにコース毎にガイダンスを実施、授業開始時には当該授業に関するガイダンスを実施し、学生が適切に学修を進められるよう支援している。全学生に配付する「履修のてびき」には卒業・進級要件および履修登録科目の上限、単位制度に係る適切な学修量等を明記している。なお、マンガ学部の履修登録単位の上限は半期 24 単位、年間 48 単位と定めている。

#### <5>人文学部

人文学部では、学則における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に定める「総合的な教養を備えた人材を養成」するため、基礎教育科目、専門教育科目それぞれに教養を獲得するための講義科目と、「自立した思考力によって現実の社会と文化に貢献する資質」を身につけるために演習科目を置き、教育内容に適した授業形態を採用している。

学生の主体的参加を促すために、学期ごとに学生に対する履修ガイダンス及び指導教員による個別の履修相談を実施しており、全ての学生に履修のてびきや関連資料を配付している。また、授業期間中には各教員はオフィスアワーを設置して、授業時間外の学習指導を行っている。

なお、各授業科目の予習・復習の時間が十分に確保され、自学自習を伴う履修ができるように、登録上限単位数を年間48単位に設定している。

#### <6>芸術研究科

大学院の特性から、基本的には学生は個々に自立して主体的に研究・制作を進めているが、実践的応用力を養うため、学部以上に密度の濃い指導がなされている。その結果、学生は単なる技法の修練だけでなく、多角的な視点と柔軟な創造力を養い、状況に応じた柔軟で応用力のある制作技術と理論構築力を獲得している。

博士前期課程においては、進級および修了判定と関連し、1年次の終わりに作品の展覧会（「M1展」）を開催し、1年間の研究成果を発表するとともに、2年次には修士作品・論文中間報告会、修士作品・論文最終発表会を経て「修了制作展」に臨むという研究指導計画に基づくスケジュール組んでいる。学生は、これらの展覧会に向けて作品制作に打ち込むことになる。

博士後期課程においても同様に、1年次に研究成果を発表する「D1報告会」を公開形式で行い、2年次の学位予備審査、3年次の学位審査につなげる方式をとっており、これらに向けて学生が研究に打ち込んでいる。

#### <7>デザイン研究科

大学院の特性から、基本的に学生は個々に自立して研究・制作を進めているが、実践的応用力を養うため、主となる指導教員からの的確な指導がなされている。その結果、学生は単なる技術だけでなく、「コミュニケーションを媒介する表現」としてのデザイン思想を獲得している。

1年次の終わりに作品の展覧会（「M1展」）を開催し、1年間の研究成果を発表するとともに、2年次には修士作品・論文中間報告会、修士作品・論文最終発表会を経て「修了制作展」に臨むという研究指導計画に基づくスケジュール組んでいる。学生は、これらの展覧会に向けて作品制作に打ち込むことになる。

#### <8>マンガ研究科

博士前期課程では実技系と理論系に分野を分けて指導している。実技系においては、学生の研究計画に基づき、1年次では年度末に進級制作作品集を制作することを目標に教員の個別指導を受けながら、作品制作に取り組む。また、博士前期課程担当教員によるリレー形式の演習を受講し、マンガ制作における様々な技法を学ぶ。2年次では、2012年度から新たに修士作品構想報告会を実施し、前期の早い段階で修士作品の制作コンセプトについて確認する機会を設けている。後期に修士作品の制作状況を発表する中間報告会を開催し、完成にむけた課題を認識する。後期末に学位審査会を開催し、最終評価を行う。

理論系については、1年次でマンガ・アニメーション研究の専門知識を身につけ、論文作成に必要な思考方法を身につけ、研究計画に従い、修士論文作成への取組を開始する。2年次前期に中間報告会を公開シンポジウム形式で開催し、構想段階で学内外の研究者からの講評を得る機会を与えている。以後、ゼミ形式の授業への参加や教員による個別指導を通じて、修士論文を作成していき、後期末に学位審査会を開催し、最終評価を行う。

2012年度に開設した博士後期課程においては、博士後期課程3年間における研究計画について発表する報告会と、1年間の研究成果を発表する報告会を公開シンポジウム形式で開催

し、学内外の研究者からの講評を得る場を設けている。また、毎週1年次生全員がゼミ形式で集まり、理論的な文献の講読、自らの作品の分析、あるいは研究に関する発表等を行い、各々にふさわしい指導を受けている。

#### <9>人文学研究科

人文学研究科では、個別指導または1対2による指導の形をとる1年次後期からの人文学基礎演習、人文学演習1・人文学演習2を中心にカリキュラムを構成している。同時に少人数で開講する講義形式の表象領域特講1～4、人文学特殊講義1～6によって、専門領域の講義を受ける。また全研究科を対象とした共通基盤科目においては、より多くの履修者が受講する形式で講義を行い、より学際的な課題を学ぶ機会を設けている。

前述の演習科目においては1対1または1対2の指導体制が組まれており、指導教員と学生の間では密な関係性をもって2年間の研究を進めることとなる。2年の前期末並びに後期中盤には「中間報告会」を開催しており、研究科内外からの参加者による率直な意見を得ながら研究を進めることができる。一方でこの中間報告会には1年生も参加することができ、1年後の自分の研究経過をイメージしやすい形をとっている。

### (2) シラバスに基づいて授業が展開されているか。

#### <1>大学全体

授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、冊子およびウェブで公開している。

また、単位制度の趣旨に則って、シラバスに「授業外学習の指示」の項目を設置し、科目担当者に、受講生に求める予習、復習、課題等の学習内容と学修時間の目安を記載させている。

#### <2>芸術学部

授業概要および目的、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、履修条件・留意点等を明記したシラバスを、統一書式を用いて作成し、「講義概要 シラバス」「履修のてびき」およびウェブを通じて学生に周知している。また、シラバスの位置づけと役割を確認するため、全学的にシラバス見本を作成し、非常勤講師を含む全ての授業科目担当者に周知している。

学生による授業アンケートの結果から、シラバスに沿って授業が行われていると判断できるが、実技・実習系科目については、制作の進み具合などによって授業計画を変更するなど柔軟な運用が行われる場合もある。

#### <3>デザイン学部

授業概要および目的、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、履修条件・留意点等を明記したシラバスを、統一書式を用いて作成し、「講義概要 シラバス」「履修のてびき」およびWebを通じて学生に周知している。全科目を対象に実施する、学生による「授業評価アンケート」の結果から、シラバスの授業計画に沿って授業は行われていると判断できる。

#### <4>マンガ学部

授業概要および目的、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、履修条件・留意点等を明記したシラバスを、統一書式を用いて作成し、「講義概要 シラバス」「履修のてびき」およびウェブを通じて学生に周知している。全科目を対象に前・後期に行う学生による授業アンケート結果から、シラバスに沿って授業は行われていると判断できる。

#### <5>人文学部

授業概要および目的、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、履修条件・留意点等を明記したシラバスを、統一書式を用いて作成し、「講義概要 シラバス」「履修のてびき」およびウェブを通じて学生に周知している。また、シラバスの位置づけと役割を確認するために、シラバス見本を作成して非常勤講師を含む全ての授業科目担当者に周知している。

毎年度実施している学生による授業アンケートでは、人文学部の講義系科目の「シラバスに沿って行われた」という設問に関する回答は、前・後期共に5点満点中4.2であった。また演習系科目の場合は、前期後期共に4.4であり、概ねシラバスに基づいて授業が展開しているといえる。

#### <6>芸術研究科

授業概要および目的、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、履修条件・留意点等を明記したシラバスを、統一書式を用いて作成し、「講義概要 シラバス」「履修のてびき」およびウェブを通じて学生に周知している。また、シラバスの位置づけと役割を確認するために、シラバス見本を作成して非常勤講師を含む全ての授業科目担当者に周知している。

学生による授業アンケートの結果から、シラバスに沿って授業は行われていると判断できるが、実技・実習系科目や少人数のクラスについては、授業計画は柔軟に変更される場合もある。

#### <7>デザイン研究科

授業概要および目的、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、履修条件・留意点等を明記したシラバスを、統一書式を用いて作成し、「講義概要 シラバス」「履修のてびき」およびウェブを通じて学生に周知している。

学生による授業アンケートの結果から、基本的にシラバスの授業計画に沿って授業は行われていると判断できる。

#### <8>マンガ研究科

授業概要および目的、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、履修条件・留意点等を明記したシラバスを、統一書式を用いて作成し、「講義概要 シラバス」「履修のてびき」およびウェブを通じて学生に周知している。

学生による授業アンケートの結果から、基本的にシラバスの授業計画に沿って授業は行われていると判断できる。

#### <9>人文学研究科

授業概要および目的、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、履修条件・留意点等を明

記したシラバスを、統一書式を用いて作成し、「講義概要 シラバス」「履修のてびき」およびウェブを通じて学生に周知している。

学生による授業アンケートの結果から、基本的にシラバスの授業計画に沿って授業は行われていると判断できる。

### (3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか。

#### <1>大学全体

評価方法・評価基準については、シラバスにおいて科目ごとに明示している。また、単位制度の趣旨に則って、シラバスの「授業外学習の指示」項目で、受講生に求める予習、復習、課題等の学習内容と学修時間の目安を記載している。

単位認定は、単位制度の趣旨に基づいて、講義系は15時間の授業時間および30時間の自習時間をもって1単位としており、外国語および実技系の演習科目は30時間の授業時間および15時間の自習時間をもって1単位としている。

既修得単位認定については、学則に、入学前の既習得単位等の認定について定めており、該当者が発生した場合は、各学部教授会で個別に審議されている。

#### <2>芸術学部

「履修のてびき」および「講義概要 シラバス」に科目毎に「評価方法・評価基準」を明記しており、各科目の評価基準に従って担当教員によって成績評価がなされている。

	合 格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	認定	59以下	評価対象外

※上記以外に「H（保留）」という評価を設けており、評定保留の状態を示し、然るべき課題を提出すれば合格評価を獲得しうるとしている。

定期試験やレポート受付についても、ルールに沿って適切に運用している。また、成績質問票により、学生からの成績評価に対する疑問に答える仕組みを設けている。

交換留学等で他大学において取得した単位認定については、各コースの拡大教学委員を責任者として行っている。

#### <3>デザイン学部

「履修のてびき」および「講義概要 シラバス」に科目毎に「評価方法・評価基準」を明記しており、以下の評価基準に従って担当教員によって成績評価がなされている。

	合 格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	認定	59以下	評価対象外

※上記以外に「H（保留）」という評価を設けており、評定保留の状態を示し、然るべき課題を提出すれば合格評価を獲得しうるとしている。

単位認定は、講義系の科目は週1回2時間の1セメスター授業で2単位として認定している。実技系の科目は週1回2時間の1セメスター授業で1単位と認定しており、ほとんどの科目が2～3コマ連続で実施している。また、GPA制度と履修中止制度を導入している。また、成績質問票により、学生からの成績評価に対する質疑に応える仕組みを設けている。

#### <4>マンガ学部

「履修のてびき」および「講義概要 シラバス」に科目毎に「評価方法・評価基準」を明記しており、以下の評価基準に従って担当教員によって成績評価がなされている。

	合 格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	認定	59以下	評価対象外

※上記以外に「H（保留）」という評価を設けており、評定保留の状態を示し、然るべき課題を提出すれば合格評価を獲得しうるとしている。

単位認定は、講義系の科目は週1回2時間の1セメスター授業で2単位として認定している。実技系の科目は週1回2時間の1セメスター授業で1単位と認定しており、ほとんどの科目が2～3コマ連続で実施している。また、GPA制度と履修中止制度を導入している。

また、成績質問票により、学生からの成績評価に対する質疑に応える仕組みを設けている。

#### <5>人文学部

「履修のてびき」および「講義概要 シラバス」に科目毎に「評価方法・評価基準」を明記しており、以下の評価基準に従って担当教員によって成績評価がなされている。

	合 格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	認定	59以下	評価対象外

※上記以外に「H（保留）」という評価を設けており、評定保留の状態を示し、然るべき課題を提出すれば合格評価を獲得しうるとしている。

また、成績質問票により、学生からの成績評価に対する質疑に応える仕組みを設けている。

#### <6>芸術研究科

「履修のてびき」および「講義概要 シラバス」に科目毎に「評価方法・評価基準」を明記しており、以下の評価基準に従って担当教員によって成績評価がなされている。

	合 格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	認定	59以下	評価対象外

※上記以外に「H（保留）」という評価を設けており、評定保留の状態を示し、然るべき課題を提出すれば合格評価を獲得しうるとしている。

学位論文・作品の審査基準および体制については、博士前期課程は「京都精華大学大学院博士前期課程および修士課程学位審査規則」に、博士後期課程は、「京都精華大学大学院芸術研究科学位（課程博士）審査規則」に明示している。

#### <7>デザイン研究科

「履修のてびき」および「講義概要 シラバス」に科目毎に「評価方法・評価基準」を明記しており、以下の評価基準に従って担当教員によって成績評価がなされている。

	合 格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	認定	59 以下	評価対象外

※上記以外に「H（保留）」という評価を設けており、評定保留の状態を示し、然るべき課題を提出すれば合格評価を獲得しうるとしている。

学位論文・作品の審査基準および体制については、「京都精華大学大学院博士前期課程および修士課程学位審査規則」に明示している。

#### <8>マンガ研究科

「履修のてびき」および「講義概要 シラバス」に科目毎に「評価方法・評価基準」を明記しており、以下の評価基準に従って担当教員によって成績評価がなされている。

	合 格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	認定	59 以下	評価対象外

※上記以外に「H（保留）」という評価を設けており、評定保留の状態を示し、然るべき課題を提出すれば合格評価を獲得しうるとしている。

学位論文・作品の審査基準および体制については、「京都精華大学大学院博士前期課程および修士課程学位審査規則」に明示している。

#### <9>人文学研究科

「履修のてびき」および「講義概要 シラバス」に科目毎に「評価方法・評価基準」を明記しており、以下の評価基準に従って担当教員によって成績評価がなされている。

	合 格					不合格	
評価	S	A	B	C	N	F	K
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	認定	59 以下	評価対象外

※上記以外に「H（保留）」という評価を設けており、評定保留の状態を示し、然るべき課題を提出すれば合格評価を獲得しうるとしている。

学位論文の審査基準および体制については、「京都精華大学大学院博士前期課程および修士課程学位審査規則」に明示している。

(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。

<1>大学全体

教育課程の見直しは、全学教務委員会や各学部の教務委員会で随時行われており、次年度開講科目の決定に反映される。また「セイカ・キャンパスライフ・アンケート」で、科目を履修して実力が身についたか、成果が上げられたか、や、教授陣、カリキュラム構成、授業内容の満足度等について尋ねており、その集計結果を基に各コースで教育内容・方法の改善に活用している。

全学FD委員会を定期的で開催して、学生による授業アンケートを実施している。その集計結果を担当教員および学部フィードバックしており、個々の授業の教育内容・方法の改善に活用している。

<2>芸術学部

授業アンケートを前・後期に実施しており、芸術学部FD委員会でアンケート結果の分析およびアンケート結果を踏まえた授業改善についての検証を行っている。特に実技系科目については記述式アンケートを実施し、より詳細な学生の声が把握ができるよう努めている。

各コースの実技系科目は、複数の教員が共同で担当している科目が多いことから、教員同士で教育内容や方法について検討する会議を定期的で開催しており、改善に結び付けている。また、学部全体で協議すべき課題については、月1回開催する教務委員会で協議している。

<3>デザイン学部

授業アンケートを前・後期に実施しており、デザイン学部FD委員会でアンケート結果の分析およびアンケート結果を踏まえた授業改善についての検証を行っている。特に実技系科目については記述式アンケートを実施し、より詳細な学生の声が把握できるよう努めている。その集計結果を基に、定期的で開催する学部教務委員会において、授業が適切に進められているかなどについて、教務主任を中心に検証を行い、必要な場合は担当教員に改善を促している。

1年次必修科目の「デザイン専門英語1・2」では、1年次の入学時と年度末に英語能力テスト（国際英検G-TELPテスト）を実施し、学生の学習成果を測定し、その結果を担当教員へフィードバックしている。

<4>マンガ学部

授業アンケートを前・後期に実施しており、マンガ学部FD委員会でアンケート結果の分析およびアンケート結果を踏まえた授業改善についての検証を行っている。特に実技系



科目については記述式アンケートを実施し、より詳細な学生の声が把握できるよう努めている。アンケート結果は学部FD委員会内で情報開示し、改善が必要な事項については、教務主任主導で調査した上で、該当事項の改善を担当教員に指導している。

各コースの実技系科目は、複数の教員が共同で担当している科目が多いことから、教員同士で教育内容や方法について検討する会議を定期的で開催しており、改善に結び付けている。また、学部全体で協議すべき課題については、月1回開催する教務委員会で協議している。

1年次必修科目の「マンガ専門英語1・2」では、1年次の入学時と年度末に英語能力テスト（国際英検G-T E L Pテスト）を実施し、学生の学習成果を測定し、その結果を担当教員へフィードバックしている。

#### <5>人文学部

全学FD委員会が実施した、学生による授業アンケートや「セイカ・キャンパスライフ・アンケート」の集計結果については、全学FD委員会で報告された後、教育改善のための組織的な取り組みに資する基礎データとして、2012年6月8日及び10月12日、2013年5月17日に開催した人文学部教務委員会で共有され、検証された。また、人文学部における教育の内容や方法の改善を推進するために、人文学部教務委員会において意見交換を実施している。

#### <6>芸術研究科

授業アンケートを後期に実施しており、FD委員会を芸術学部教務委員会の中で行い、アンケート結果の分析およびアンケート結果を踏まえた授業改善についての検証を行っている。

#### <7>デザイン研究科

学生各々の研究成果や進捗状況を発表する場として進級時に展覧会を開催しており、主となる指導教員のみならず、他者からの講評を受けることができる。また、修了論文・作品の提出に至るまでに、中間報告会を設け研究成果の進捗について、定期的な検証を行っている。

また、後期に学生による授業アンケートを実施しており、その集計結果を基に、定期的な開催する常任委員会において、授業が適切に進められているかなどについて研究科長を中心に検証を行い、必要な場合は担当教員に改善を促している。

#### <8>マンガ研究科

授業アンケートを後期に実施しており、FD委員会をマンガ学部教務委員会の中で行い、アンケート結果の分析およびアンケート結果を踏まえた授業改善についての検証を行っている。

#### <9>人文学研究科

全学FD委員会が実施した、学生による授業アンケートや「セイカ・キャンパスライフ・

アンケート」の集計結果については、全学FD委員会で報告された後、教育改善のための組織的な取り組みに資する基礎データとして、2012年6月8日及び10月12日、2013年5月17日に開催した人文学部教務委員会で共有され、検証された。また、人文学部における教育の内容や方法の改善を推進するために、人文学研究科委員会において意見交換を実施している。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

#### <1>学部

各学部では、学習指導について、オリエンテーション期間中に入学者および進級者に対して履修ガイダンスを実施している。また、学生の主体的参加が必須となる実技系科目の履修ガイダンスについては、各コースにおいても開催している。

シラバスに基づいた授業の実施については、全学教務委員会が中心となり、非常勤講師を含めた全科目担当教員に対して「シラバス見本」を配付するとともに、新たに「授業外学習の指示」という項目を追加した。

授業改善については、学生による授業アンケートを年2回実施し、全学および各学部・研究科FD委員会において内容把握や分析を行っており、学生の指摘に対して改善に努めている。

マンガ学部では順次性のある授業科目を体系的に設置するとともに、年次毎に進級判定を行っており、進級要件を定め運営している。学年毎の到達目標に応じた指導を行い、効果が上がっているといえる。また、1年次必修科目「マンガ専門英語1・2」において、授業アンケートおよび英語能力試験の結果を分析し、2013年度のクラス編成、教員体制、指導内容、シラバスの内容の改善に結びついた。

#### <2>研究科

マンガ研究科では、学生による授業アンケートにマンガ制作に関する技術指導の要望が複数あげられていたことから、2013年度はゼミ別の指導のほか、マンガ制作の実技指導を行うカリキュラムを新たに設けることとなり、授業改善に結びついた。

マンガ研究科博士後期課程では、計画的な研究指導を行うため、週1回授業形式のゼミを設置し、理論的な文献の講読、自らの作品の分析、あるいは研究に関する発表等を行っており、個々の学生にふさわしい理論的サポートを行う場を設定している。

### ②改善すべき事項

#### <1>大学全体

授業形態について、講義科目、実技・実習科目、演習科目（講義系、実技系）をそれぞれ配置しているが、それぞれの科目がどの授業形態にあたるか学生に明示していない。また、演習科目については、講義系、実技系の差異が明確でない部分もあり、今後整理をしていく必要がある。

実技・実習系科目について、シラバスの記載内容、とりわけ授業計画の記載内容が教員

によっては曖昧な表現になっているので、記載内容をより精緻化する必要がある。

#### <2>学部

デザイン学部では、学生による授業評価アンケートについて、実技系科目の場合は各学科長が主導でアンケート状況を把握の上、改善に努める体制が整っているが、講義系科目全般においては各担当教員による改善に任せており、アンケート結果に問題があった際には改善のフォローアップ体制が整っていないので、体制の整備が必要である。

マンガ学部では、シラバスの記述について、学部・学科・コースの教育目標に沿っていない記述や、記述されてない項目がある科目があり、改善の必要がある。また、専門実習科目において、1科目あたり3コマ・3単位を標準として設定しているが、授業内容に応じて、1科目あたりのコマ数・単位数の設定を見直すべきと考える。

#### <3>研究科

デザイン研究科では、現状は学生による授業評価アンケートを年度末に実施しているが、学部と同様に学期ごとに実施するなどして、問題点の把握を速やかにできるように改善する。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

##### <1>学部

シラバスに「授業外学習の指示」を記載しているが、実際の学生の授業外学習時間を調査して、シラバス記載の効果を検証する。

#### ②改善すべき事項

##### <1>大学全体

科目の授業形態をシラバス等で学生に明示する。また、演習科目については、講義系、実技系の差異を明確にしていく。

実技・実習系科目について、シラバスの授業計画の記載内容をより精緻化する。

##### <2>学部

デザイン学部では、講義系科目全般の授業評価アンケート結果について、教務主任を中心に、問題がある場合に改善のフォローアップをする体制を整える。

マンガ学部では、シラバスの記述で、学部・学科・コースの教育目標に沿っていない記述や、記述されてない項目がある科目について改善を指導する。また、専門実習科目において、授業内容に応じて1科目あたりのコマ数・単位数の設定の見直しを検討する。

##### <3>研究科

デザイン研究科では、学生による授業評価アンケートについて、学部と同様に学期ごとに実施できないか検討する。

## 第4章 教育内容・方法・成果

### 4【成果】

#### 1. 現状の説明

##### (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。

###### <1>大学全体

教育目標に沿った成果については、年度末に学生に実施した「セイカ・キャンパスライフ・アンケート」において、語学・教養・専門科目ごとに「科目を履修して、実力が身についた、あるいは成果を上げられたと思いますか」という質問をしており、学習成果についての学生の自己評価の把握に努めている。

回答の選択肢の「とてもそう思う」「少しはそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の中から、「とてもそう思う」と「少しはそう思う」を選択した学生の割合は、語学科目では 50.7%、教養科目では 74.5%、専門科目では 89.6%で、専門科目における成果達成感が顕著である。

なお、コースごとの集計結果を各コースの教員にフィードバックしており、教育内容の改善等に活用している。

###### <2>芸術学部

芸術学部の教育目標のもと、学生が現代アーティスト、クリエイターとして、社会や時代を読み解き、自己の表現を探る思考力を獲得し、作品を通じて自分の考えを他者や社会に伝える独自の表現を身に付けることが、芸術学部における教育の成果であるといえる。

4年間の総合的な学修成果を確認する科目として、4年次の必修科目として「卒業制作実習」がある。この科目では、コース毎の合評において共通の評価表を用いて詳細な評価を行っている。また、4年間の学修成果である卒業制作作品を展示する「卒業制作展」では、成績評価とは別に多くの学外からの観覧者があることから、社会の評価に晒されているといえる。

毎年、卒業制作展がきっかけとなって作家としてのデビューを果たす学生も少なからずおり、在学中から様々な展覧会やコンペで入賞を果たすなど、アーティストとしての実績を重ねる学生も多い。加えて、培った技能や感性を生かし、クリエイターとして就職する学生も多く、教育目標に沿って一定の成果が上がっていると考えられる。

###### <3>デザイン学部

デザイン学部の教育目標のもと、社会におけるデザインの有用性について多角的に学び、デザイン領域において高度な技法知識を習得し、グローバル社会および地域社会に現実的に貢献する資質を獲得して、世界中で活躍できるデザイナーを育成することがデザイン学部における教育の成果であるといえる。

総合的な学修成果を確認する科目として、4年次の必修科目として「卒業制作」がある。この科目では、コース毎の合評において1年次からの共通の評価指標を用いて、その作品が本学の教育目標に沿った成果に到達しているか否かの評価を行っている。4年間の学び

の集大成といえる卒業制作展では、多くの学外からの来場者から多面的な評価を得る機会を設定しており、展覧会がきっかけとなり作家としてのデビューを果たす学生も少なくない。また、培った技能や感性を生かし、クリエイターとして就職する学生も多く、教育目標に沿って一定の成果が上がっているものとする。

授業以外の取り組みでは、国内最大級のデザインイベントである TOKYO DESIGNERS WEEK やその他、様々なコンペティションなどで在学中より毎年多くの受賞者を輩出している。卒業生も国内外で多く活躍しているが、中でも 2011 年度には、卒業生がグッドデザイン賞（日本で唯一の総合的デザイン評価）を受賞し、教育目標である「グローバル社会および地域社会に現実的に貢献するよりよき社会人としての人間形成をおこなうこと」に対し、一定の成果が上がっているものとする。

#### <4>マンガ学部

マンガ学部の教育目標のもと、マンガやアニメーションの制作と理論について多角的に学び、マンガ文化の継承と発展に貢献する資質を獲得し、世界中で活躍できる作家を育成することがマンガ学部における教育の成果であるとする。総合的な学修成果を確認することを目的に、全コースに卒業制作を必修科目とし、また学部専門講義科目にコース毎に必修科目を設定している。これらの科目を履修することで、実技、理論の両面から教育目標に沿った成果が上がっているものとする。

また、卒業制作の成果を展示する卒業制作展を京都国際マンガミュージアムで開催するほか、作品集の出版や専用ウェブサイトの開設等を通じて、広く一般に教育成果を公開している。卒業制作がきっかけとなり作家としてのデビューを果たす学生も少なくない、在学中から様々なマンガ賞で入賞を果たすなど、マンガ家、アニメーション作家としての実績を重ねる学生も多い。加えて、培った技能や感性を生かし、クリエイターとして就職する学生も多く、教育目標に沿って一定の成果が上がっているものとする。

#### <5>人文学部

人文学部では、4年次に「卒業プロジェクトⅠ・Ⅱ」を前・後期に必修科目として設けており、学生が個々の研究目的に沿った学習ができるように、15人以下の少人数クラスで教員が指導にあっている。この科目では前期末及び後期末にそれぞれ報告会を開き、履修者のみならず他のクラスの教員や学生も自由に参加できるようにしている。この科目を履修することによって、学生は自身の積み重ねてきた学びを固め、複数の第三者からの評価を受けながら卒業に向けた最終的な自身の学びを結実させることができる。

#### <6>芸術研究科

修士作品・論文の学位審査では、共通の評価シートを用いて客観的な評価を行うことで、教育目標に沿った成果を測定している。また、修了発表会では学外からゲストコメンテーターを招いて講評をもらうなど、多面的な評価が行えるように努めている。修了後に作家や教育者としてのキャリアを積んでいく学生も多く、教育目標に沿って一定の成果が上がっているものとする。

博士後期課程においては、1年次に研究成果を発表する「D1 報告会」を公開形式で行い、2年次の学位予備審査、3年次の学位審査につなげる教育方法および学習指導方法をとっている。学位審査および学位予備審査に関しては「京都精華大学大学院芸術研究科学学位審査規則」に沿って実施されており、一定の成果をあげている。

#### <7>デザイン研究科

デザイン研究科の教育目標のもと、デザイン理論系ではデザイン分野の社会動向に広い視野と見識を備え、他分野に通じる根拠のある研究成果を発表していること、デザイン実技や建築系では、実践的に社会に貢献できる高度な専門的スキルを有していることがデザイン研究科における教育の成果であるといえる。

共通基盤科目（必修2単位）、専門講義科目（必修2単位）、専門研究科目（必修2単位）で、30単位以上修得および修士作品または修士論文の提出を修了要件と定めており、修了要件の単位数を獲得することで、教育目標に沿った成果が上がっていると判断できる。

また、履修のてびきに学位審査基準を明示しており、その基準に基づいて学位審査を行っている。

本研究科は2010年度開設であるが、教育目標となる「専門的スキルを有した人材の養成」が在学中におこなわれた成果例として、2012年5月に第一期修了生が修了作品として制作をした作品が、デザインを学ぶ学生らが創造力と感性を競う「毎日DAS学生デザイン賞」で最優秀賞を受賞した事が挙げられる

#### <8>マンガ研究科

マンガ研究科の教育目標のもと、博士前期課程理論系では国内外におけるマンガ・アニメ研究の知識とその分析力を持ち、他分野に通じる根拠のある研究成果を発表していること、博士前期課程実技系では、技能・表現 高度な技能と構想力に基づき、マンガ文化に貢献できる制作活動をしていることがマンガ研究科における教育の成果であるといえる。

共通基盤科目（必修2単位）、専門講義科目（必修2単位）、専門研究科目（必修2単位）で、30単位以上修得および修士作品または修士論文の提出を修了要件と定めており、修了要件の単位数を獲得することで、教育目標に沿った成果が上がっていると判断できる。

また、実技系において、履修のてびきに修士作品の学位審査基準を明示しており、その基準に基づいて学位審査を行っている。学位審査に合格した作品を、修了制作展として京都国際マンガミュージアムで展示、作品集の出版や専用ウェブサイトの開設等を行っており、広く一般に教育成果を開示している。1年生は1年間の制作の成果を内外に開示する冊子を「進級制作本」として制作している。

理論系では、履修のてびきに修士論文の学位審査基準を明示しており、その基準に基づいて学位審査を行っている。学位審査に合格した論文を論文集として発行するほか、京都国際マンガミュージアムで研究成果のパネル展示を行っている。2012年度修了生はさらに研究内容を深めるために博士後期課程に進学しており、教育目標に沿った成果が上がっていると判断できる。

博士後期課程1年生は、マンガ研究をめぐる方法論を学ぶとともに、公開シンポジウム形式で研究計画報告会を開催している。また、日本マンガ学会、ロシア、オーストラリア

で開催された国際会議等で研究成果を発表している。これらの成果は 2012 年度研究成果報告会で報告しており、教育目標にそった成果が上がっているといえる。

#### <9>人文学研究科

人文学研究科では、1 年後期より本人の研究テーマに沿った指導教員が割り当てられ、個別または 1 対 2 の指導を受けることとなる。1 年半にわたる研究期間において、学生が学習成果を得られているかを指導教員が日常的に確認し、研究の進行などの面においてアドバイスを行っている。また、2 年前期末・後期半ばに行われる中間報告会では、指導教員以外の教員による学生の研究進捗状況を確認する場となっており、学位授与に向けて学生の研究の経過が適切であるかを、複数教員による指導で行っている。

### (2) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

#### <1>大学全体

卒業要件、修了要件は学則に定めており、また履修のてびき等によって、あらかじめ学生に明示している。

修士・博士課程については、「京都精華大学大学院博士前期課程および修士課程学位審査規則」「京都精華大学大学院芸術研究科学位（課程博士）審査規則」「京都精華大学大学院マンガ研究科学位（課程博士）審査規則」を定めており、学位審査基準や学位授与手続きをあらかじめ学生に明示している。

#### <2>芸術学部

卒業に必要な修得科目・単位数の要件を学則に定め、この要件に沿って卒業判定を実施している。学生の成績が卒業要件を満たしているかどうかについて集計し、その結果を各コース内で確認のうえ、拡大教学委員会の審議結果を踏まえて教授会で判定する手続きを経て学位を授与している。

#### <3>デザイン学部

卒業に必要な修得科目・単位数の要件を学則に定め、この要件に沿って卒業判定を実施している。学位授与の一次判断は、各学科・コースで担当教員が行っている。さらに、教務委員会、教授会でその判断結果を諮り、二重、三重の議を経て学位を授与している。

#### <4>マンガ学部

卒業に必要な修得科目・単位数の要件を学則に定め、この要件に沿って卒業判定を実施している。年度末に成績通知書をもとに卒業要件を満たしているかどうか集計し、その結果に基づいて各コース内の会議で卒業判定について審議している。審議結果を踏まえて教務委員会、教授会で判定する手続きを経て学位を授与している。

#### <5>人文学部

人文学部では、学位授与方針に基づいて設置されたカリキュラムにおいて、規定の卒業要件を満たし、京都精華大学学則第 21 条の卒業に係る要件を満たした者について、学位

を授与している。

#### <6>芸術研究科

博士前期課程では、「京都精華大学大学院学則」に基づき、修了に必要な修得科目・単位等の要件を定めている。学位は、「京都精華大学学位規程」および「京都精華大学大学院博士前期課程および修士課程学位審査規則」に基づき、成績が共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目の修了要件を満たし、かつ学位審査に合格した学生を研究科委員会に諮り、課程修了の認定を行ったうえで学位を授与している。

学位審査は、当該学生の専任指導教員と2名以上の専任教員（研究科委員会が必要と認めた場合、原則として1名までの学外者も審査委員とすることができる）により構成される学位審査委員会によって、「京都精華大学大学院博士前期課程および修士課程学位審査規則」に定められた学位審査基準にもとづき行われる。採点は100点満点中60点以上を合格点とし、厳正に審査される。

#### <7>デザイン研究科

デザイン研究科では、「京都精華大学大学院学則」に基づき、修了に必要な修得科目・単位等の要件を定めている。学位は、「京都精華大学学位規程」および「京都精華大学大学院博士前期課程および修士課程学位審査規則」に基づいて学位審査会を開催し、主指導教員のみならず、時には外部指導教員も含めた多角的な審査員により評価を得る機会を設け、常任委員会、研究科委員会での判断結果を諮り、二重、三重の議を経て学位を授与している。

#### <8>マンガ研究科

博士前期課程では、「京都精華大学大学院学則」に基づき、修了に必要な修得科目・単位等の要件を定めている。学位審査会を開催し「京都精華大学学位規程」および「京都精華大学大学院博士前期課程および修士課程学位審査規則」に記載している審査基準に基づいて審査している。学位審査委員（主査1名、学外もしくは他研究領域の教員1名を含む2名）が審査基準に基づき、100点満点で評価し、学位審査委員の評点の平均60点以上を合格点としている。その審査結果を研究科委員会へ提出し、学位審査の判定を行っている。また、あわせて年度末に成績通知書を集計し、共通基盤科目、専門特講科目、専門研究科目の修了要件を満たしているかについて研究科委員会で判定している。学位審査および修了判定に合格した学生に学位を授与している。また、修士論文・修士作品提出までの手続きのフローチャートを作成の上、履修のてびき等で明示している。

#### <9>人文学研究科

人文学研究科では、京都精華大学大学院学則第5条の2に沿った教育目的に基づいた学位授与方針と、「京都精華大学学位規程」に基づいて、学位を授与している。特に「人文学演習1・2」を指導の基本とする修士論文に関して、学生は前・後期それぞれで「中間報告会」で自らの研究の進捗状況を報告すると共に、指導教員だけではなく他の研究科所属教員並びに他の院生や一般外部からの意見や指導を受けることとなる。その後提出された修



士論文は主査・副査の合計3名による査読と、口頭試問を受け、その内容の適切さを審査される。審査会後の研究科委員会においては、この審査の結果と、その他の科目の単位修得状況、学費納入状況が確認された後、学位授与の可否についての審査を行っている。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

#### <1>学部

芸術学部では、卒業判定の厳格な運用という点において、必修科目である「卒業制作実習」について、各コースの合評では共通の評価表を用いて詳細に評価を行っている。

デザイン学部の教育目標の1つに「自立した思考によってグローバル社会および地域社会に現実的に貢献するデザイナー・プランナーの資質」を備えた人間形成を行うことが挙げられているが、これに対し、特に産学連携、教員や学生同士の協働による展覧会の運営などを通じて、社会に出る前段階で実践的な経験を得、またデザイン力を養成することで、就職という進路のみならず、フリーデザイナーとしても活躍できる卒業生を輩出している。

マンガ学部では、卒業制作を広く一般に公開するウェブサイトを2011年度から開設し、学生の卒業制作への制作意欲が高まるとともに、本学部の広報効果も得ている。また、ウェブ公開に伴い、著作権に関する認識が向上した。

#### <2>研究科

芸術研究科では、学修成果の測定という点で、修士作品の学位審査評価シートによる厳密な評価に加えて、修了発表会では外部の講評者からの評価も取り入れており、成果測定が多面的に行われている。

マンガ研究科では、博士前期課程の完成年度である2011年度の修士論文・修士作品提出において浮き彫りになった問題点を改善し、2012年度は提出の流れをオリエンテーションで指導して履修のてびき等でも明示した。その結果、学位審査がスムーズに行われるようになった。

### ②改善すべき事項

#### <1>大学全体

個々の学生に対してよりきめ細かい対応を行って、教育目標に沿った成果を上げるために、学生の成績や授業への出席状況、アンケート類の回答、面談データ等について、情報の共有や活用が必要である。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

#### <1>学部

デザイン学部では、デザインという社会と密接に結びついた性質を踏まえて、学生と社

会との関わりを更に増やすために、産学連携を取り入れた科目や、業界で活躍しているデザイナー、建築家などをゲストに迎えた科目などを継続して開講する。

## ②改善すべき事項

### <1>大学全体

個々の学生に対してよりきめ細かい対応を行い、教育目標に沿った成果を上げるために、2013年度に事務システムをリプレースすることを契機に、データによる教育活動の検証や、個々の学生の様々な情報を一元管理して活用する方策について検討する。

## 第5章 学生の受け入れ

### 1. 現状の説明

#### (1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

##### <1> 大学全体

本学が求める学生像及び本学に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示するものとして、京都精華大学アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を設定し、大学ホームページで公表している。また、各学部・コースについてもアドミッション・ポリシーを定めて大学ホームページで公表している。

大学全体の学生の受け入れ方針は以下の通りである。

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ Alternative culture セカイ internationalism	現実社会の仕組みを理解し、その内側まで見通すことのできる人。  世界を一つの共同体として思い描くことのできる人。	基礎理解 課題発見能力
教育	ジブン originality	他人（ヒト）とは違う自分だけの表現を 探し求めている人。	描写力 観察力 自己プロデュース力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	インスピレーションに耳を傾け、自由な 発想を楽しめる人。  仲間と本音で語り合い、笑い合うことが 好きな人。	感性 ユーモアセンス コミュニケーション 力

また、当該課程に入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準については、入試案内「入試問題・合格作品」において、各学部・コースの入学にあたって必要な学力・実技水準とそれを培うための学習方法のアドバイスを明示している。

障がいのある学生受け入れについては、入試案内「入試日程・試験内容」「入試要項」において、受験時や入学後の学生生活において配慮を希望する場合は、試験日の1ヶ月前までに入試課へ連絡する旨を記載している。申し出があった場合は面談を実施し、個々の障がいの程度を把握した上で適切な処置をとっている。

##### <2> 芸術学部

芸術学部の学生の受け入れ方針は以下の通りである。

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	未知の領域に踏み込む情熱と意欲のある 人。	探究心 想像力
教育	ジブン	モノを造り、表現することに熱中できる	創造力

	originality	人。	集中力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	仲間と切磋琢磨しながら、喜びと苦しみを分かち合える人。	コミュニケーション力 思いやり

#### 洋画コース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	時間の蓄積としての歴史に想像力を働かせることのできる人。  「木を見て森も見る」ことのできる人。	探究心 想像力  探究心 想像力
教育	ジブン originality	「顕示」と「表現」の違いに「自己」を見出すことのできる人。	創造力 集中力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	躍動と沈思の往復に充実を感じることのできる人  仲間と認め合い、高め合い、助けあうことのできる人。	感性 好奇心  コミュニケーション力

#### 日本画コース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	向上心を持つ人。  広い視野を持ちチャレンジできる人。	探究心 創造力  好奇心 挑戦力
教育	ジブン originality	自然に対し謙虚である人。	理解力 感性
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	既成の概念にとらわれない人。  相手を思いやれる人。	想像力 発想力  コミュニケーション力

#### 立体造形コース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	闇の向こうの希望を探することができる人。  夢に見た場所を探することができる人。	探究心 創造力  柔軟性 視野の広さ

教育	ジブン originality	深く自在な心を持っている人。	発想力 集中力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	青空のように開かれた自分であろうとする人。  誰かを満たすほどの愛をもつことができる人。	感性 好奇心  思いやり 友愛

#### 陶芸コース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	時間軸を意識でき、自分の位置と未来を読める人。  世界を表現レベル、学術レベル、生活レベル等と多重にとらえて考えられる人。	基礎 歴史理解力 ポジショニング力 多重情報解読力
教育	ジブン originality	自分の能力を分析でき、自己開発できる人。	自己開発能力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	「理想と現実」「想像と現場」の「差異」を有効活用できる人。  人と接することで、その関係から自分の位置を確認できる人。	対応能力  GPS能力

#### テキスタイルコース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	専門的知識を理解し、その先にある謎を解明しようとする意欲を持っている人。  文明の来歴から新しい生への変化の相を想像できる人。	思索と思想  想像と創造
教育	ジブン originality	共通する意味を理解し内実を洞察できる人。	観察から洞察
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	現象を感覚する知性の営みから視野を獲得できる人。  互いの存在そのものを受け入れ理解しあえる心を持っている人。	感性と知覚  友愛と共生

#### 版画コース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture	自己を表現し、発見していくことに対する意欲を持っている人。	理解力 向上心

	セカイ internationalism	幅広い視野と柔軟性を持ち、自己の世界観を広げていける人。	観察力 柔軟性
教育	ジブン originality	学びの姿勢を大切に、物事を分析、理解しながら自己表現力を高められる人。	探求心 表現力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	好奇心とアンテナ力を持ち、楽しみながら感性を育てることができる人。 他者との交流を通して、ともに尊重し協力しあいながら、自己を形成できる人。	遊び心 感性 コミュニケーション 力

### 映像コース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	芸術の歴史的な意味と社会、文化との関係を批判的にとらえなおし、新たな創造的表現や理論の展開ができる人。 基礎的な理解力を有し、芸術表現への関心と意識を持っている人	基礎的な理解力 芸術表現への関心と意識 世界への関心と想像力 柔軟性
教育	ジブン originality	他者との関係を尊重し、同時に批判的な観点から問題意識を創造的表現に結びつけることができる人。	柔軟性 理解力 想像力 持続力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	遊びの中から創造的な着想や発見を得て、それを芸術的表現に結びつけることができる人。 率直で倫理観に裏打ちされた他者との意見の交換や、交流の楽しみを共感できる人。	遊び心 柔軟性 構想力 好奇心 コミュニケーション 能力 他者への思いやり 協調性

### <3> デザイン学部

デザイン学部の学生の受け入れ方針は以下の通りである。

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	現状に満足せず、つねに新しいことに興味を持つ人。 異文化を理解し、世界に向けた表現ができる人。	好奇心 探求力 理解力 表現力
教育	ジブン originality	自らの背景や基盤を認識することができる人。	認識力 判断力
友情	アソビ curiosity	既存の領域にとらわれない発想のできる人。	発想力 積極性

	キズナ humanism	他者との共同作業を楽しむことができる人。	コミュニケーション力
--	-----------------	----------------------	------------

#### イラストコース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	時代の感性に敏感である人。  世界を視野に入れた表現活動ができる人。	柔軟性 感性 時代性 ポップな感覚 軟性 コミュニケーション力 人間力
教育	ジブン originality	オリジナリティのある人。	想像力 創造力 表現力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	自分の時間と足を使って楽しむことの出来る人。  言葉に対する感性が豊かな人。	体力 観察力 インスピレーション力 文章力 コミュニケーション力

#### グラフィックデザインコース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	あらゆることにアンテナを張り、鋭い視点を持っている人。  世界に自己のデザインを発信していける人。	観察力 洞察力  知ること 知らせること
教育	ジブン originality	ニーズとシーズを抽出できる人。	分析力 想像力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	デザイン以外のあらゆるものごとに興味を持っている人。  自分の立ち位置をアピールでき、仲間のことも思いやる人。	好奇心 発想力  対話力 気配り

#### デジタルクリエイションコース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	未知の領域や、新しい事に興味がある人。  広い視野で社会をとらえる事ができる人。	探求力  識見力
教育	ジブン originality	受け手を想定してコミュニケーションできる人。	自己プロデュース力

友情	アソビ curiosity キズナ humanism	グループワークが好きな人。	機知力  コミュニケーション 力
----	-------------------------------------	---------------	---------------------------

#### プロダクトコミュニケーションコース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	海外を知り、かつ日本を知る、ユニバーサルな視野を持つ人。	斬新力 気づき力 アンテナ力 社会力
教育	ジブン originality	自分の意見を持ち、テーマを自己の感性で消化できる人。	独自力 直視力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	楽しさ・美しさなどに対して五感を澄まし、純粹に接することができる人。 偏見のない広い心を持ち、人を安心させる事ができる人。	豊かな感性 野次馬根性 暖かさ 優しさ

#### ライフクリエイションコース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	豊かな挑戦力を有し、未来を変えられると信じている人。 あらゆることに興味を持ちながら、京都で学びたいと思っている人。	気づき力 感動力  探求力 開拓力
教育	ジブン originality	専門性を追求しながらもオリジナリティーをもてる人。	斬新力 探求力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	何事にも積極的に臨み、表れない本質を発見できる人。 友人を多く持ち、他に貢献する余裕ある対応ができる人。	直視性 忍耐力  仲間力 柔和力

#### 建築コース

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture セカイ internationalism	社会や人間の課題を、空間の問題としてとらえることができる人。 世界の文化を理解し、その発展のために空間を考えることができる人。	問題受信力 問題分析力 情報受信力 構想力



教育	ジブン originality	自分の意見を他者に理解してもらうための努力ができる人。	問題提起力 表現力
友情	アソビ curiosity キズナ humanism	多様なジャンルや事柄に関心を持ち、積極的に関わろうとする人 他者と自分自身の両者に対して等しく強い関心を持つ人。	知的好奇心 積極性 責任感

#### <4>マンガ学部

マンガ学部の学生の受け入れ方針は以下の通りである。

創造力を働かせ、自分自身の未来について思い描ける人。  
新しい表現の可能性を信じ、切り開く夢がある人。  
他者に対して発信したりコミュニケーションしたい人。  
他者との共同作業を楽しむことができる人。

##### カートゥーンコース

純粹に絵を描くことが好きな人。

描いた絵で人々や世界を幸せにしたい人。

##### ストーリーマンガ

マンガ表現を通じて日本中および世界中に作品を発信したい人。

多くの人々との交流の中で自身の表現を磨きたい人。

##### マンガプロデュースコース

マンガのおもしろさを多くの人に知らせたい人。

いろいろな立場でマンガに関わっていきたい人。

アイデアをもとに物語を紡ぎだしたい人。

##### アニメーションコース

アニメーションや映画、マンガが好きで、創作してみたいと思う人。

「ものが動くこと」や「ものを動かすこと」をおもしろいと思う人。

アニメーション表現を使って世界へ発信したい人。

#### <5>人文学部

人文学部の学生の受け入れ方針は以下の通りである。

		志向 (vector)	素養 (range)
学問	ミライ alternative culture	人間的な地域社会の構築を構想できる人。	基礎理解 積極性

	セカイ internationalism	人類の共存を構想し、それに向かって行動できる人。	柔軟性 探求心
教育	ジブン originality	様々な体験と感動をもとに、自己の表現方法を求める人。	創造性 観察力
友情	アソビ curiosity  キズナ humanism	頭だけでなく、体や心で感じることのできる人。  自己を探求することで、他者との繋がりを追求できる人。	感性 好奇心  他者理解

<6>芸術研究科

学生の受け入れ方針はない。

<7>デザイン研究科

学生の受け入れ方針はない。

<8>マンガ研究科

学生の受け入れ方針はない。

<9>人文学研究科

学生の受け入れ方針はない。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

<1>大学全体

本学の入学者選抜方法については、各学部の入試委員会において、学生の受け入れ方針や近年の実績および内外の入試状況をふまえて内容の点検・評価を行いつつ、入学者選抜方法の枠組みや試験内容を審議した後、「京都精華大学入学者選抜規程」に基づいて各学部教授会の議を経て学長が決定する。

入試方式、募集人数、出願資格等を受験生に広く告知するために、決定された内容に従って「大学案内」「入試案内」「入試要項」等を作成し、これらを配布することによって試験内容を知らせることを基本にし、大学ホームページでも同様の内容を公表している。昨年度入試結果については、「入試問題・合格作品」冊子に「志願者」「受験者」「合格者」「倍率」「配点」等のデータを掲載している。

昨年度入試問題については、受験生が本学の多様な入試科目を理解しやすいように、学科試験の「試験問題」「設問毎の配点・解答」「解説」「講評」「学習のポイント」、実技試験の「前年度からの変更点」「試験問題」「試験で使用された実技モチーフの写真」「出題意図」「合格作品例」「作品評価」について詳細に掲載している。また、合否判定基準および合格

者数の配分については、入試要項で示している。

入学者選抜方法はどの学部もおおよそ、AO入試、公募制推薦入試、一般入試、特別入試（指定校推薦・帰国生徒・社会人）、大学入試センター試験利用入試、外国人留学生入試を行っている。実施内容はそれぞれ学部によって異なるが、複数の入試種別を設けているのは、異なった枠組みの中で多様な人材を確保するという質的側面と、機会を増やすことで受験者数の増加をめざすという量的側面からの、二つの意味合いを持たせていることは大学全体の方針である。

学生募集にあたっては、学部ごとに行うのではなく、大学全体として企画を提案、入試委員会で確認し、入試広報部および各コース教員が担当する入試委員が中心となって実行している。

学生募集における直接的な広報活動として、本学が主催する高等学校教員および予備校教員対象の入試説明会、全国各地の一般会場・高校内・予備校内で実施する進学相談会、本学および地方で行うオープンキャンパス、高校訪問、予備校訪問などを実施している。また間接的な広報活動として、受験雑誌、一般誌、新聞広告などの各種媒体を利用した学生募集活動を行っている。

入学試験実施にあたっては、「京都精華大学入学者選抜規程」に基づき設置される、学長、学生担当副学長、各学部長および入学部長からなる入試本部が統括し、事務に関しては入試広報部入試課が担当する。入試広報部入試課は、入学部長1名、入試課長1名、専任職員4名、嘱託職員1名の計7名で構成されている。問題作成については複数の教員および入試課職員で担当し、外部審査機関が問題チェックを行い、入試問題として不適切な部分がないか確認をしている。また、同じ試験科目では試験会場の採光も含め環境を出来る限り統一し、一教室に試験監督者を複数名配置して、試験の公平性を保てるようにしている。試験の採点・合否判定についても必ず2名以上で実施し、ペーパーテスト以外の実技等試験科目についても得点化し順位付けを行っている。入試の合否判定結果については、各学部教授会での承認を受け常務理事会へ報告することとなっている。受験生に対しては、合格発表日に郵送で入試結果を通知している。

入学予定者数については、「京都精華大学入学者選抜規程」に基づき、教育的効果および教育的配慮による方針、学園の財政状況および財政方針等に基づき、常務理事会の議を経て、理事長が決定する。

## <2>芸術学部

学生募集活動については、年3回（4月下旬、6月上旬、7月下旬）のオープンキャンパスにおいて、各コースでの個別相談やワークショップ、入試対策講座等を行っている。

また、芸術系コースを持つ高校6校と特別協力校関係を結び情報交換をするとともに、高大連携授業、ワークショップを積極的に実施し、本学の教学内容への理解を深める努力をしている。

入学者選抜方法については、学問領域の特性上、試験内容は実技試験や作品審査が中心となり、入学後の学修に困らない実技能力を見極めて選抜している。また、実技以外の基礎学力でも選抜できるように、大学入試センター試験利用入試を立体造形コース、陶芸コース、テキスタイルコース、映像コースで設定している。

### <3>デザイン学部

学生募集活動については、芸術学部と同様であるが、デザイン学部では特に画塾からの出張指導の要望が多いため、学部所属教員が積極的に行っている。

入学者選抜方法については、学科・コースにより求める能力が異なっているため、実技科目、学科科目、面接・作品審査、学科科目、大学入試センター試験利用入試等様々な試験内容を設け、多方面から受験生の適性を見極めて選抜している。

### <4>マンガ学部

学生募集活動については、芸術学部と同様であるが、マンガ学部は特に外国人留学生に人気があるため、海外の提携校で説明会を開催するとともに、海外の日本語学校・画塾の訪問や進学相談会にも参加して広報活動を行っている。

入学者選抜方法については、学問領域の特性上、試験内容は実技試験を中心とし、入学後の学修に困らない実技能力を見極め選抜している。また、必ずしも絵を描くことを求めないマンガプロデュースコースにおいては、論述形式を採用し、コースの内容にあった試験科目を採用している。

### <5>人文学部

学生募集活動については、年3回（4月下旬、6月上旬、7月下旬）のオープンキャンパスにおいて、個別相談や模擬授業、入試対策講座等を行っている。また、入試課員および人文学部教員が指定校を中心に高校訪問を行い、指定校推薦の依頼をするとともに高校からの要望等を聞くなどして、高校側のニーズに応えるための努力をしている。

入学者選抜方法については、基礎学力を問う学科試験と論述形式で理解力や表現力を問う小論文の試験科目を設定し、人文学部での学修が可能かどうかを判断している。AO入試は設定したテーマについて講義やディスカッションを行う「セミナー型」と、設定したテーマについて体験を通じて学ぶ「体験型」を実施している。いずれの方式も複数のテーマを設定し、受験生が自身の興味に沿ったテーマを選択できるように配慮している。他の入試種別と異なり受験生と教員の徹底した対話を基本に人文学部への適性を見極めていく。

### <6>芸術研究科

学生募集については、毎年度、芸術研究科委員会において学生募集要項を作成し、年間で複数回の入試説明会を開催している。

入学者選抜は、毎年度、芸術研究科委員会で試験科目や配点を多角的な視点から検討している。また、出題担当教員による問題作成と教務課による試験実施は、公正かつ適切に行っている。

### <7>デザイン研究科

学生募集は、毎年度、デザイン研究科委員会において学生募集要項およびパンフレットを発行し、年間で複数回の入試説明会を実施している。入試説明会では、入試制度の説明の他に、個別相談会も行っている。

入学者選抜は、毎年度、デザイン研究科委員会で試験科目や配点を検討している。また、入試担当教員による問題作成および研究科教員と教務課による試験実施は、公正かつ適切に行っている。

#### <8>マンガ研究科

学生募集は、毎年度、マンガ研究科委員会において学生募集要項およびパンフレットを発行し、年間で複数回の入試説明会を実施している。入試説明会では、入試制度の説明の他に、個別相談会も行っている。

入学者選抜は、毎年度、マンガ研究科委員会で試験科目や配点を検討している。また、入試担当教員による問題作成および研究科教員と教務課による試験実施は、公正かつ適切に行っている。

#### <9>人文学研究科

学生募集にあたっては、本学ホームページおよび学内掲示を通じて広く募集を行っている。

入学者選抜は、2期にわたり行っている。1期入試においては基礎的な学力を問う学科試験と、論述能力を問う論文試験、さらに複数人の教員による面談を行い、総合的な能力の審査を行っている。2期入試では、卒業論文またはそれに代わる論文の提出を求め、当該受験生の論理能力などの能力を確認し、さらに複数人による面談によって総合的な能力の審査を行っている。2期ともに研究計画書を提出させ、その内容を面接で確認することで、本人の能力だけではなく、人文学研究科で学び研究を行うにふさわしいかの資質も含めた選抜を行っている。

### (3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

#### <1>大学全体

18歳人口の減少に伴って定員を確保できていない学部・学科が発生しており、その状況は年々深刻になって来ている。これに対して本学では、まず当該学科・コースにおける教学内容の改善、入試方法や広報の見直しを行っている。学生や社会のニーズに合った教学内容であるかという視点で現状の教育目標やカリキュラム、教育方法を点検し、改善している。これらを実施しても回復が見込めない場合は、定員の見直し（削減）を検討し、学部改組を行っている。

研究科については定員未充足の課程・専攻が多いが、現在は学部的人的資源等を注力しており、研究科の定員を充足させるための最大限の努力ができていないのが現状である。

#### <2>芸術学部

2012年度収容定員と2012年5月1日現在の在籍学生数は以下の通りである。

	収容定員	在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率
--	------	-------	---------------------

造形学科	448	445	0.99
素材表現学科	256	194	0.76
メディア造形学科	256	254	0.99
合計	960	893	0.93

素材表現学科において、収容定員に対する在籍学生数比率が「0.8」を下回っている。この状況を改善すべく学部内で検討を重ねた結果、2013年度より素材表現学科陶芸コースで選択科目を他コースと合同化するとともに、芸術学部全体の共通科目を配置するなど、魅力のあるカリキュラムを構築して、学生募集につなげていくこととした。

### <3>デザイン学部

2012年度収容定員と2012年5月1日現在の在籍学生数は以下の通りである。

	収容定員	在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率
ビジュアルデザイン学科	384	408	1.06
プロダクトデザイン学科	256	221	0.86
建築学科	192	130	0.68
合計	832	759	0.91

デザイン学部では、ビジュアルデザイン学科のみが概ね適正な学生数管理ができています。プロダクトデザイン学科と建築学科では収容定員に対する在籍学生数比率が「1.00」を下回っており、それぞれの学科で教学内容の見直しが目下の急務である。

2009年度に、プロダクトデザイン学科では教学内容をより現代の生活デザインに近い領域へシフトさせ、産学連携プロジェクトも積極的に採り入れ、その教学内容を反映させたコース名称へと変更を行った。建築学科では3年次から教学の中心となるスタジオ制の中に、海外の大学とより連携を密にしたワークショップの開催などを積極に行ってきた。しかし、2010年度の入試結果では両学科とも定員数を確保するまでに回復しなかったため、2010年度より学部内にデザイン学部再編委員会を設置し、学部全体で定員確保に向けた議論を重ねた。その結果、2013年度より、募集状況が堅調であるビジュアルデザイン学科のイラストレーションコースをイラスト学科（定員64名）へと発展させ、プロダクトデザイン学科を定員64名から48名へ、建築学科を定員48名から32名へ変更することを決定した。

### <4>マンガ学部

2012年度収容定員と2012年5月1日現在の在籍学生数は以下の通りである。

	収容定員	在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率
マンガ学科	384	409	1.07
アニメーション学科	256	272	1.06

マンガプロデュース学科	160	145	0.91
合計	800	826	1.03

マンガ学部では、マンガプロデュース学科を除いて、概ね適正な学生数管理ができています。マンガプロデュース学科では、収容定員に対する在籍学生数比率が「1.00」を下回っているが、2013年度には適切な定員とするため、定員を32名から24名へ変更する。合わせて、マンガプロデュース学科を募集停止し、マンガプロデュース学科マンガプロデュースコースをマンガ学科マンガプロデュースコースに変更することを、マンガ学部再編委員会で決定した。委員会では、2013年度に学科・編成の見直しやカリキュラムの見直しを行うことを目標に、毎月1回開催している。マンガプロデュース学科はこれまで定員確保に向けて、時代のニーズにあわせたデジタル教育の強化、授業内容の改善などに取り組んできたが、抜本的な解決には至らず、2013年度より定員を見直すこととなった。

#### <5>人文学部

2010～2012年度収容定員と在籍学生数は以下の通りである。

	収容定員	在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率
2012年度	1,800	1,192	0.66
2011年度	1,824	1,297	0.71
2010年度	1,882	1,432	0.76

人文学部における2012年5月1日付の収容定員（1800人）に対する在籍学生数（1192人）の比率は0.66となっている。また、過去3年では、2011年度（1297人）で0.71、2010年度（1432人）で0.76、2009年度（1540人）で0.79であった。

人文学部では、2009年度に教学内容を見直して、従来の3学科から総合人文学科の1学科に再編したが、その後も定員充足率は年々減少している。適切な定員確保を目指して、2011年6月に学長からの諮問に基づいて、学部長を委員長とする「人文学部再編検討委員会」を立ち上げて再編に向けた検討を行った。また、2012年5月には「人文学部再編準備委員会」を設置し、メンバーは教学担当副学長を委員長に、教務主任、入試広報部長、学長室長等とした。この委員会より7月に、定員を現行の450名から300名に削減することを柱とした答申を学長に提出し、常務理事会での審議を経て、人文学部は2013年度より入学定員を300名に削減して運営することとなった。

#### <6>芸術研究科

2012年度収容定員と2012年5月1日現在の在籍学生数は以下の通りである。

	収容定員	在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率
博士前期課程	40	62	1.55
博士後期課程	15	14	0.93

博士前期課程の在籍学生がやや多いが、実習棟を同じくする芸術学部の在籍学生数が収容定員に満たないコースもあることから、学生の実習スペースの確保等、学修環境は適正に整備されている。

#### <7>デザイン研究科

2012 年度収容定員と 2012 年 5 月 1 日現在の在籍学生数は以下の通りである。

	収容定員	在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率
デザイン専攻	20	11	0.55
建築専攻	10	8	0.80
合計	30	19	0.63

デザイン研究科では、収容定員に対して在籍者数が下回っているため、定員の確保に努める必要がある。特に入学者の多くが海外からの留学生が占めており、学内進学者数が減少している。また、近年の経済状況により進学意欲があるものの学費面で諦めざるを得ない学生が多々見られる。

次年度にはデザイン研究科での教学内容や研究制度、修了生の研究成果を学内外問わず発表する機会を設け、教学内容を広く発信していくことが常任委員会で決定された。

#### <8>マンガ研究科

2012 年度収容定員と 2012 年 5 月 1 日現在の在籍学生数は以下の通りである。

	収容定員	在籍者数	収容定員に対する 在籍者数比率
博士前期課程	40	30	0.75
博士後期課程	4	3 (※)	0.75

(※) 博士後期課程は今年度開設のため、1 年次のみ在籍。

マンガ研究科博士前期課程で収容定員を下回っているが、その要因として、実技系、理論系の志願者数のうち、理論系の志願者数が少ないこと、また実技系においては合格基準を満たす学生が充分でないことが挙げられる。理論系では、京都国際マンガミュージアムで、国際マンガ研究センターと共同でシンポジウムを開催するなどして、研究成果を広報し、志願者増加に努めている。また、実技系においては、入試説明会を年 2 回開催して広報を行うほか、担当教員の志願者に対する個別アドバイスの場を設けている。

博士後期課程においては、本年度開設であり、博士前期課程と同様引き続き広報活動を行っていく予定である。

#### <9>人文学研究科

2010～2012 年度収容定員と在籍学生数は以下の通りである。



	収容定員	在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率
2012年度	20	12	0.60
2011年度	20	13	0.65
2010年度	20	14	0.70

人文学研究科ではこの3年間について、在籍学生数比率が0.60から0.70で推移をしており、定員比率が1.0を下回っている。これについて、2012年度はウェブサイトでの募集のみではなく、9月、10月、12月に説明会を開催して積極的な募集活動を実施した。

(4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

<1>大学全体

学生募集については、当年度募集活動がほぼ終了する11月頃から2月までの間に入試委員会および各学部入試委員会において、学生の受け入れ方針に基づき、オープンキャンパスなど大学主催イベントの参加実績やアンケート結果、外部主催の説明会での受験生参加実績等を踏まえて、現状の活動内容について検証を行い、次年度の計画に反映させている。

入学者選抜については、各試験終了後直近の入試委員会および各学部入試委員会において、学生の受け入れ方針に基づき、実施運営面の改善点や問題点等の検証が行われる。また、12月頃から3月までの間に、学生の受け入れ方針に基づいて、各入学試験の志願者数、併願率、手続者数などの結果を踏まえ、入試委員会および各学部入試委員会において、入試形態や入試科目等の検証を行い、必要に応じて学部教授会、常務理事会を経て次年度の入試実施に反映させている。また、入試制度別の入学者の実技レベル、成績などについては、各学部入試委員会等で随時報告され、指定校提携内容や入試制度別の募集定員等の検討に活用されている。

<2>芸術学部

学生募集については、毎年、次年度の指定校対象校について、出願実績等をもとに検討するが、2013年度より新たに四国の高校と指定校提携を行い、安定した志願者数確保を目指している。また、コースの特性を理解してもらえるように、オープンキャンパスの特別企画として教員作品の展示を行った。

入学者選抜については、学部共通の試験科目を他の学部に先駆けて導入しているが、2013年度入試では学部共通試験を2012年度より1科目増やして、受験生が芸術学部内で併願し易いように変更した。

<3>デザイン学部

学生募集については、各試験の出願実績や画塾などでの説明会および訪問した際のヒアリング内容をもとに、次年度のイベント内容や訪問すべき画塾等を検討する。また、イラ

ストコースは 2013 年 4 月よりビジュアルデザイン学科の 1 コースからイラスト学科となり募集定員が増加するので、広報活動に特に力点を置き、冊子作成や高校での説明会などを通じて受験生層への情報の浸透を図った。

入学者選抜については、2013 年度入試よりビジュアルデザイン学科の試験科目の名称を受験生にわかり易いように変更した。またプロダクトデザイン学科と建築学科を併願しやすいように共通試験科目を設けた。建築コースについては、試験科目を精査し、8 科目あった試験科目を 2 科目とした。

#### <4>マンガ学部

学生募集については、マンガ学部は留学生の希望者も多いため、国内外の留学生対象説明会の来場者実績や対費用効果を考慮して次年度の参加を決定している。

入学試験については、マンガ学部は台湾、韓国との提携校があり他学部より入試の種類が多いため、それぞれの入試において適切な人数を確保できるように、過年度の入試結果を踏まえて入試方法と募集人員配分等について慎重に議論し決定している。

#### <5>人文学部

学生募集については、過去数年間の志願者実績を踏まえて、指定校提携の解消や新規提携の検討を行っている。

入学者選抜については、他の学科と比較し定員が多いため、試験科目が適切か否かについて特に検討している。2013 年度より公募制推薦入試においては「小論文型+面接」「基礎能力型+面接」を「英語」または「国語」、「小論文」に変更し、一般入試 A 日程ではセンター併用方式を廃止するなどの変更を行った。

#### <6>芸術研究科

芸術研究科では、入学者受け入れに関するあらゆる事柄を芸術研究科委員会および、教務委員会にあたる常任委員会で審議しており、社会の情勢や学生の学修実態に応じて、学生募集や入学試験について検証・見直しを行う仕組みになっている。

#### <7>デザイン研究科

デザイン研究科委員会において、出願状況、入試日程、入試科目の設定と配点、定員などについて総合的に協議・評価を行っている。その P D C A サイクルに基づき常任委員会で次年度の入試方針を協議し、その内容を研究科委員会において意思決定している。

#### <8>マンガ研究科

毎年、当該年度の入試状況についてマンガ研究科委員会で検証され、次年度の入試要項や試験方法などについて検討を行っている。

#### <9>人文学研究科

人文学研究科委員会において、出願状況、入試日程、入試科目の設定と配点、定員などについて総合的に協議・評価を行っている。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

#### <1>大学全体

学生募集活動において、最も重視しているオープンキャンパスにおいて、コース毎の個別相談やワークショップ、模擬授業、入試対策講座等を実施して、来場者数の増加および来場者の満足度向上に努めた。その結果、2012年に実施したオープンキャンパスの延べ来場者数は、前年度比109%と増加している。満足度の点でも、最も来場者が多い7月のオープンキャンパスでのアンケートの結果、「大変満足」「満足」と答えた来場者が全体の89.7%と高い。

### ②改善すべき事項

#### <1>大学全体

学生の受け入れ方針については、大学ホームページで告知してきたが、入試要項には掲載していない。

外国人留学生入試については、日本人と異なり試験の機会が一度しかなく、コースの併願もできないため、不公平感がある。学費減免もなくなったため、入試制度を改善する必要がある。また、日本語能力については面接でのみ判断をしているが、十分ではない。

なお、定員を確保できていない学部・研究科においては、定員を確保することが最重要課題である。

#### <2>研究科

各研究科において、学生の受け入れ方針が策定されていない。

マンガ研究科博士前期課程では、理論系の志願者が2010年度11名であったのに対し、2011年度2名、2012年度3名、2013年度4名と低迷しているため、志願者増加対策が必要である。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

#### <1>大学全体

学生募集活動においては、最も重視しているオープンキャンパスの内容を更に充実させて、来場者数の増加および来場者の満足度向上に努める。関西圏外からの来場者を獲得のために、大学までの無料直通バスを運行しているが、これによる動員を積極的に推進し、2013年は動員数5パーセント増を図る。また、地方試験会場を設けているエリアにおいては、出張オープンキャンパスを実施し、独自イベントの充実を図る。

### ②改善すべき事項

#### <1>大学全体

学生の受け入れ方針については、大学ホームページで告知してきたが、2015年度入試要項にも掲載する。

外国人留学生入試に関しては、2014年度入試より受験機会を公募制推薦入試と一般入試A日程の2回に増やし、日本人と同様の試験問題で受験する入試制度に改善する。また、併願も3コースまで可能とする。日本語能力については日本留学試験（もしくは日本語能力試験）を受験（日本語能力試験はN2合格）することを出願資格に入れる。

定員を確保できていない学部・研究科においては、定員を確保するための方策を引き続いて検討し、改善策を迅速に実施して定員確保を目指す。

人文学部では、前述のとおり、定員未充足状態が続いていることから、2011年度より繰り返し再編についての検討を続けてきた。2012年度は、その検討の結果として、定員の適正化を図り、2013年度より入学定員を300名に削減することを決定した。学部のカリキュラムの改革については、入学者数の急激な落ち込みに伴い、現行の再編案では不十分であるとの理事会の判断から再編の検討が続いている。2013年度には理事会主導のもと、教学担当副学長を委員長とした新たな再編準備委員会が設立される予定である。この委員会では、カリキュラムや学修体制の抜本的な見直しを含めた再編について検討する。

## <2> 研究科

各研究科において、学生の受け入れ方針を2013年度中に策定し、ホームページ等で社会一般に公表する。

マンガ研究科博士前期課程では、理論系の志願者増加を目指して、国費留学生を中心にマンガ研究科理論系受験希望者を研究生として積極的に受け入れ、大学院入試に向けて指導を行う。

## 第6章 学生支援

### 1. 現状の説明

(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

本学の建学の理念である『教育の基本方針に関する覚書』の中で「教員の学生に対する愛情責任は、親の子に対するそれが無限であるように、無限でなければならない。職員もまた教員に準じて教室外教育の一斑の責任を負う。」とあり、これを修学支援、生活支援に関する方針としている。また、この方針は大学ホームページや学生手帳に掲載しており、学生・教職員に共有されている。なお、学生支援のあり方については、現在、学生担当副学長を中心に検討しており、2013年度中に策定する予定である。

上記方針に基づいて、学生課では以下の学生支援業務を実施している。

1. 学生への指導・助言・相談に関すること
2. 各種奨学金、アルバイト、下宿等学生の福利厚生に関すること
3. 健康診断、保健室、カウンセリング等学生の保健・衛生管理に関すること
4. 学生自治会・各種学生団体への指導・助言、学園祭の管理・監督等、学生の課外活動に関すること
5. 入学手続き・学籍異動、学生証・在学証明書等の発行等、学籍管理等に関すること
6. 外国人留学生の入学管理業務に関すること
7. 学生手帳の作成に関すること
8. 学生生活委員会他、学生課が管轄する会議に関すること
9. 学生関係の統計に関すること
10. 学生の渉外関係に関すること、その他学生生活一般に関すること

進路支援に関する方針については、2011年6月3日の第3回キャリアデザインセンター一会議において、京都精華大学のキャリア支援の基本方針を以下の通り定め、同月の常務理事会において報告し確認がなされた。

【基本方針】 京都精華大学の独自性・優位性を発揮できるキャリアモデルを構築し、学生の創造的でオルタナティブな進路の実現を支援する。

本学の進路支援においては、「好き」や「得意」を活かしワクワクする未来を提示することを基本コンセプトとしている。これは、①産業構造がめまぐるしいスピードで変化し、最早、企業に寄りかかり安定を享受することが極めて困難になっている社会情勢、②就職することや就職活動をすることを苦役としてしか捉えることが出来ず、進路決定のスタートラインに立てない学生の増加、③一方で描く、作る（創る）、書くといった表現活動に強い関心と拘りを持つ学生が多数存在する、等の状況を検討して、策定したものである。キャリアデザインセンターは「好き」や「得意」を卒業後のキャリアの中で磨き、そのスキルや発想力を武器に組織に頼らずとも自分自身の力で未来を切り拓いていく力を身につけ

させることを目的としている。

## (2) 学生への修学支援は適切に行われているか。

各学期のオリエンテーション期間に、教務課職員による「履修相談会」を実施するとともに、単位修得状況が思わしくない学生や休学を経て復学する学生には、教務課から履修相談の案内をするなど、個々の状況に応じて今後の修学が円滑に進むよう指導・支援している。履修相談に来ない学生についても、成績通知書に注意点などを記入して配付し、必要単位履修漏れの防止に努めている。また、メンタルヘルスに問題を抱えるなど、相談に来ること自体が困難である学生については、日々の出席状況調査から該当学生の状況把握をおこない、教員や、場合によっては保護者などとも連携を取りながら、問題の早期発見と解決に努めている。

各学部では教務委員会等において、学生の修学状況などについて教職員が連携し相互に確認をおこなっている。欠席の多い学生や履修登録がなされていない学生に対しては、教務課にて学生個々の状況把握を行うとともに必要に応じて教員同席の面談をおこない、該当学生が安定して修学できるよう個々の状況に合わせたフォローを教職員が協働で行っている。連絡に応じない学生に対しても、学費支弁者へ連絡を行うなど、修学に問題を抱える学生が持つ問題の早期発見、解決をすべく努めている。また、精神面など専門家によるサポートが必要だと思われる学生や、経済的な問題を抱えている学生については、学生課と連携して適切な支援に努めている。

休・退学者の状況把握と対処については、休・退学届を学生に手渡す際に、担当教員および学生課職員との面談を義務付けている。その面談において休・退学の理由や休学中の活動予定、退学後の進路、学費支弁者との家庭内における相談状況の確認を行っている。また、その際に面談担当者が休学中・復学時にも相談窓口となることを伝え、復学の際の心的障壁を低くするような環境を整えている。

学生が記入した休学・退学届の提出窓口は、学生課となっている。学生課では4名の専任職員が学生からの休・退学の相談を受ける体制をとっており、届出を受理した際は、学生課から担当教員及び各学部担当教務課員に連絡し、情報の確認と共有化を図っている。また、学生部長を委員長とし、各学部の学生生活委員、学生課員により構成される学生生活委員会を毎月一度定例で開催し、各月に発生する学籍異動を確認、承認するとともに、全学的な休・退学者の状況を把握している。なお、休学中に大学施設の利用制限を設けていないことで、大学との距離が遠くならないように配慮している。精神的な疾病等の理由によって休学する学生については、カウンセリングルームや情報館等が利用できることを案内し、休学中でも大学が相談窓口になりえるよう努めている。休学中の学生には、復学予定日の約2ヶ月前に文書で学籍に関する意思確認（予定通り復学・休学延長・退学）を行っており、必要に応じて学生課員と担当教員で面談を行っている。

長期欠席者については、休・退学に至る学生が大半ではあるが、教職協働のフォローによって、一部の長期欠席者については安定した修学を行うまで修学状況の改善が見られている。修学意欲をなくすなどの理由で休学した学生についても、復学してかつてよりも意欲的に学業に取り組むようになるケースが見られるなど、一定の効果が得られている。また、現状の履修指導により、学生の進級・卒業要件単位の取りこぼしを一定数防いでいる。

授業開始1ヶ月後には長期欠席学生やその学費支弁者へ連絡を行っており、早期に対応することで留年を免れる学生もおり、一定の効果が上がっていると考えます。

補習・補充教育については、学修効果の思わしくない学生、例えば成績評価において合格評価に達しないが、然るべき課題を提出すれば合格評価を獲得しうる学生に対し、別途課題を設定して授業時間外に個別指導にあたるなどしている。また、入学前に入学予定者を対象にスクーリングを実施し、入学後にスムーズに授業に入っていけるよう教学面の支援を行っている。

障がいのある学生に対する修学支援措置は、学生課に障がい学生支援室が設置されており、支援室は要支援の申し出がある学生の具体的な支援について、授業担当教員や関係各課の担当者が連携して支援を実施している。

2012年度の在籍障がい学生数は、聴覚障害3名、上下肢機能障害2名、運動機能障害1名、内部障害2名、発達障害7名、その他の障害1名である。

障がい学生支援室での具体的な支援業務は、①障がい学生の授業支援、②支援学生の募集・養成・派遣、③入学志願者の対応、④障害理解・啓発、⑤障がい学生の就職活動支援、⑥設備・備品である。

本学における奨学金等の経済的支援措置については、全学生の40%を超える学生が利用している貸与型奨学金である「日本学生支援機構奨学金」を柱としている一方、大学独自の奨学金制度として返済の必要のない「給付型奨学金」の充実にウエイトを置いている。

奨学金等の種類	種別	金額	2012年度 対象人数	対象学生
京都精華大学 給付奨学金	給付	300,000円	60名	一定水準以上の成績を修めながら経済的理由で就学困難な学部学生
京都精華大学 学修奨励奨学金	給付	半期分学費	31名	2年～4年生で前年度の成績が優秀な学部学生
京都精華大学 入学時給付奨学金	給付	入学年度の 後期分学費	39名	指定した入試において優秀な成績を修めた学部一年生
下宿費補助 給付奨学金	給付	月額10,000円 (入学年度の み)	18名	本学が指定する共同下宿に入居を希望し、入試において優秀な成績を修めた学部一年生
自然災害等の被災者に対する学費減免	減免	半期分学費	4名	自然災害等により災害救助法等の適用地域を受けた地域に本人もしくは学費支弁者が居住し、就学継続が著しく困難となった被災学生
京都精華大学 私費留学生給付奨学金	給付	学部生： 月額50,000円 を限度 院生： 月額60,000円	83名	正規留学生として在籍する私費外国人留学生の中から一定基準以上の成績を修めたもの

		を限度		
京都精華大学 外国人留学生授業料減免	減 免	授業料の30% 相当額	107名	正規留学生として在籍する私費外国人留 学生の経済的理由により就学が困難なも の

さらに、多くの学生にとって利用しやすく、また受験生にとっても解かりやすい奨学金として「京都精華大学給付奨学金（経済支援型）」を2014年度入学者より採用することを決定した。これは、各学年100名程度を基準に合計400名に25万円を給付する奨学金で、1年生については、入学試験出願時に奨学金給付を希望し、収入状況や家族構成などの書類をもって審査・採否決定し、合格発表時に奨学金の採否も合わせて発表する。これにより入学者の経済的負担を軽くする狙いがある。また、毎年出願可能であることから在学中の4年間で最高100万円の奨学金受給が可能となる。

また、2010年度に教育後援会の協力で「家計急変学生のための給付奨学金」制度を設けた。出願時から過去2年以内に、学費支弁者の死亡や会社の倒産等予期せぬ家計状況の急変が起きた学生を対象に、最高で1名当たり50万円、計2000万円を給付する奨学金制度である。

その他、「貸与型奨学金」として、就学上、緊急または不時の出費を要する学生に対して3万円までの救急的な援助・貸付ができる「京都精華大学短期奨学貸付金」、大学院生の経済的支援、研究支援を目的とした「京都精華大学大学院貸与奨学金」制度がある。

奨学金以外での経済的支援として学費の分納制度が整備されている。半期分の学費を5回（5ヶ月）に分けて納付できる制度で、在学生のうち約15%の学生が利用している。

学資ローンについては、従来より提携していたみずほ銀行に加え、2012年度後期より（株）オリエントコーポレーションと「学費サポートプラン」の提携を締結し、学費支弁者の一時的経済負担を軽減するとともに卒業までの継続的な経済的サポートを行っている。

学生の生活を支えるアルバイトについて大きく二種類の職種に分けて紹介を行っている。一つは事務や販売などの一般的な職種のアルバイトを、ナジック・アイ・サポートが運営する学生求人ネットワークより、本学学生に適した勤務地・勤務時間帯の求人に絞り込んで情報提供している。もう一つは本学の教育領域である芸術・デザイン等に関連するアルバイトを、学生課が窓口となり情報提供しており、2012年度は、49件の求人があった。

### (3) 学生への生活支援は適切に行われているか。

学生の心身の健康保持・増進については主として保健室とカウンセリングルームが対応している。

保健室では、学生の保健管理をおこなっており、4月のオリエンテーション期間中に実施する全学生を対象にした健康診断は約86%の在学生在が受診し、異常が認められる場合は校医と学生課が連携し、再検査受診を勧めるなど事後相談にも応じている。相談内容は、内科的、外科的相談・手当てはもちろんのこと精神的悩みを相談に来る学生も多い。保健室の体制は2名の看護師が交代で月～金曜日は10:00～17:00、土曜日は10:00～14:30で常駐し、健康相談や応急措置に当たっている。

カウンセリングルームについては、健全な学生生活の支援を目的として、就学上・健康



上・その他の諸問題についての助言指導を行っている。カウンセリングルーム開室時間数として、月～土曜日の 31 時間（31 名分）を確保し、非常勤カウンセラー5 名が交代で相談に応じている。

また、2012 年度実施の在学生アンケート「セイカ・キャンパスライフ・アンケート 2012」において約 45%の学生が“カウンセリングルームの存在を知らない”と回答していることを受けて、2013 年度新入生全員を対象とした必修授業「表現ナビ」において、カウンセラーの講演会を実施し、カウンセリングルームの周知を図ると共に、新入生に起こりがちな心のトラブルの対処法などを教授する予定である。

過去 3 年間のカウンセリングルーム利用者は以下の通りである。

2010 年度	延べ 610 名
2011 年度	延べ 584 名
2012 年度	延べ 603 名

また、2011 年度に学生からの要望を受けて、大学内の更なる“居場所”として本館 1 階に学生ラウンジを設置した。設置以来取えて細かな使用ルールは設けずに、始発のスクールバスが大学に到着する 8：00 から終発バスが発車する 21：40 まで開室し、学生同士の歓談場所や食事場所、学生イベントの開催スペースとして活用されている。

さらに 2013 年には、本学学生食堂の一つ「れあた」を、全学生のうち 7 割を超える女子学生にとって利用しやすく落ち着ける場所となることを狙い、従来のいわゆる“食堂”から“カフェ”にリニューアルさせる。メニューはもちろんのこと、テーブルやソファなども全て入れ替え、学生にとって心地よい場所となることを目指す。

学生の課外活動は主に学生課が支援を担当している。学内公認団体が 28 団体のほか 30 を超える非公認サークルが活動を行っている。課外活動の施設面での支援は、部室の貸与・機材の貸与の他、活動場所として黎明館・春秋館を学生の申請によって月～土曜日は 22：00 まで、日曜日は 17：00 まで使用可能としている。また、2010 年には近年学生に人気のスポーツであるフットサル同好会の支援としてフットサル専用コートを設置した。

課外活動への経済的支援としては、学生自治会費が当てられているが、ボランティアもしくは地域貢献に資する活動に対しては、大学負担で活動を支援している。最近支援した活動として「三条商店街シャッターアートプロジェクト」や本学の学外施設が所在する高島市朽木での「朽木まつり」などがある。いずれも本学学生が専門領域とするアート等の表現を通して地域住民と協力し行ったイベントであった。

また、スポーツ系クラブ員が任意で加入するスポーツ安全保険の加入費用を全額大学負担で加入し、万一の事故に備えている。

下宿・アパート斡旋会社は 3 業者あるが、今まで各社にあった相談窓口を、2010 年より代表の 1 社に集約した。メリットとして、学生が下宿等を探す際に 1 つの窓口で全ての物件を閲覧することができ、マッチングが容易になったことや、トラブル発生時の相談窓口も 1 つになり、スムーズな情報のやり取りができるようになったことがあげられる。また、4 月から 7 月の間、隔週で一日「一人暮らし相談会」を学内で開催し、入居後のトラブルの相談、住み替えの相談、新規の下宿探しの相談に応じている。

セクシュアルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント等は、学

生の大学における学習研究意欲や学習研究環境を著しく侵害し、また教職員等の就労意欲を阻害し、学内環境を悪化させ重大な人権侵害を引き起こす危険性がある。

2007年5月に、新たに「学校法人京都精華大学ハラスメントの防止・対策に関する規程」を制定し、「ハラスメント防止・対策委員会」を設置した。委員会は学生担当副学長、総務部長、学生部長、教員2名、事務職員2名、ならびに弁護士1名で構成し、具体的な活動としては、①被害者救済体制の確立および相談窓口の充実、②学生及び教職員の継続的な意識向上のための研修等の実施、③相談員等の統括管理及び監督、④ハラスメントの公表に関する事項、⑤ハラスメントに関するパンフレット発行等を行っている。

なお、学生・教職員等からのハラスメントの相談や救済の要請が寄せられた場合には、訴え者および相談者に二次被害が及ばないことを最優先として、「ハラスメント防止・対策委員会」が必要に応じて「ハラスメント調査委員会」もしくは「ハラスメント調停委員会」を設置し、事実確認を丁寧に行い解決にあたっている。

また、学生・教職員への情報発信および情報共有をするとともに、学外の専門知識を有する講師を招いてのハラスメントに関する講演会の実施や、小冊子やリーフレットの作成、ハラスメント研修会への積極的な参加を促す等、できるだけ多くの学生・教職員等に啓蒙活動を展開し、快適な学習研究環境及び就労環境を形成することに努めている。

学生に配付している小冊子は、『ストップハラスメント』と題し、何がハラスメント行為に当たるかをマンガでわかりやすく説明している。また、「セクシャル・ハラスメント」、「アカデミック・ハラスメント」、「パワー・ハラスメント」の事例を掲載し、学生へのハラスメントに関する啓蒙と注意喚起を行っている。この小冊子は教職員にも配付しており、教職員から学生等へのハラスメント行為を未然に防止する効果もある。

また、相談窓口を学生課と総務課に置くだけでなく、相談者がより相談しやすいように、学外相談窓口を2ヶ所設置し、必要な措置を迅速にとれるよう配慮している。

#### (4) 学生への進路支援は適切に行われているか。

まず、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施状況について説明する。

##### ①正課でのキャリア教育

本学では、1年次において必修科目である「表現ナビ」（芸術、デザイン、マンガ学部開講）と「大学ナビ」（人文学部開講）の一部をキャリア教育に充て、それぞれが目指すキャリアの方向性とそのスタート地点を確認する。2年次より「キャリアデザイン」「クリエイティブキャリア基礎演習」「クリエイティブキャリア実践演習」「キャリアのためのデッサン」「作品ポートフォリオ演習」「クリエイティブの現場」のキャリア関連科目や「インターンシップ」を開講しており、自己と職業に対する理解、コミュニケーション力と自己ブランディング力の醸成、描写力やプレゼン能力等の表現者として必要なスキルの向上を図っている。

中核的な位置づけとなる「キャリアデザイン」においては、定期的にキャリア支援室と科目担当者間で授業方針や方法を確認するとともにキャリア支援室の専任職員が授業参加、ゲストコーディネーターを行うなどして、授業内容の改善・見直しを図っている。キャリア関連科目全般については、履修登録時に履修のてびきに加えて、学生の状況や志望する進路と履修すべき科目の一覧表の配布を行った結果、受講者が飛躍的に増加した（表2）。

さらに、キャリア関連科目以外においても「京都の伝統産業実習」（芸術・デザイン・マンガ学部対象科目）では染、織、陶芸、漆器、香等の伝統産業を支える職人の手技を学び、「制作実習」「表現技法」（共にストーリーマンガコース開講科目）では、大手コミック誌の編集者を招き作品講評会を実施するなどして、伝統工芸職人やマンガ家への一歩を踏み込む機会を設けている。

## ②正課外でのキャリア支援

本学での正課外でのキャリア支援の内容は、表1の通りとなっている。学年表記のないものは全て3年生/院1年生対象。

表1 実施ガイダンス一覧

実施月	進路・就職ガイダンス（3年生/院1年生対象）	その他の支援プログラム
4月		企業説明会（随時：4年生）
5月	1回：「好き」や得意を仕事につなげよう	企業説明会（随時：4年生）
6月	2回：自己分析 自分の「好き」と「得意」を見つけよう 3回：業界・職種研究	
7月	4回：クリエイティブ職希望者の為の業界研究	作品ポートフォリオ講座 合同企業説明会（4年生）
8月		資格取得講座（イラストレーター、フォトショップ、WEBクリエイター、色彩検定等）
9月	5回：履歴書・エントリーシート講座	作品プレゼンテーションキャラバン
10月	6回：志望動機の書き方 7回：B to B等知られざる優良企業の見つけ方 8回：クリエイティブ企業・求人の探し方	筆記模擬試験 業界・企業研究会
11月		筆記試験対策講座 業界・企業研究会
12月	9回：就活スタート時の最終チェック	合同企業説明会（4年生） 業界・企業研究会
1月		マナー・メイクアップ講座
2月		面接・グループディスカッション講座
3月		合同企業説明会（4年生） 資格取得講座（8月時と同内容）

キャリア関連科目は選択科目であるため、重要な事項については意識的に内容を重複・リンクさせている。基本コンセプトに掲げる「好き」「得意」とは特定の領域・ジャンルや固有名詞ではなくコンピテンシーに関連するものを指している。

特にクリエイティブ業界を視野に入れた取り組みは本学の特徴的な支援プログラムであ

る。中でも3年生の夏期休暇中に実施する「作品プレゼンテーションキャラバン 京都北山からの熱い風」は、ゲーム、広告、アニメーション、インテリア、キャラクターデザイン等クリエイティブ系職を有する在京の企業や個人事業主を直接訪問し、職場見学、事業説明を受けた上で、自身の作品ポートフォリオを一線で活躍するクリエイターを前にプレゼンテーションし、講評を受けるものである。参加学生においては、未来を切り拓くモチベーションの向上、職業理解、今後のスキルアップにおける課題の発見等にプラスになると大変好評である。何よりも就職や就職活動に対するイメージが恐怖から楽しみへ転換されることが大きな収穫である。参加企業にとっても、該当業界・企業に関心を持つ意欲的な学生と接触出来る貴重な機会であると評価が高い。参加学生は30名、参加企業等は約15社である。

進路・就職ガイダンスにおいては9回中4回を専任教職員が担当している。外部に依頼する場合でも、内容については全面的な委託は避けて主体的に係わり、本学の学生にとって有益なものとなる様、学生のニーズとのマッチングを心掛けている。また、掲示ポスターや配布資料、メール、SNS等多くのツールを用いて告知に努め、ガイダンス受講者を一人でも増やすよう注力した結果、受講者数は大幅に増加した(表2)。

多くの学生が疑問や不安に思う内容は、授業やガイダンス等の1対マス場で問題を共有した上で、多くの考え方や選択肢を示唆している。一方、1対1の窓口相談については個別的な案件に十分時間が割けるように2012年4月から予約制を導入した。予約する際に具体的な相談内容を書かせることにより、学生も何が相談したいのか整理が出来、職員も事前に適切な対応が準備出来ることから、解決までに要する延べ時間が減少した。

待ちの姿勢から、授業やガイダンスの機会に主体的に出て行く能動的なスタンスをとることで、窓口相談者は科目履修者やガイダンス受講者とは逆に大幅に減少し(表3)、時間・マンパワー対効果が向上した。また、少数のスタッフで手厚いフォローが可能となり、授業やガイダンスのブラッシュアップが同時に図れるという相乗効果があった。

学生の履修状況、ガイダンス参加・窓口相談・履歴書購入履歴はシステムで管理している。一定期間活動が確認出来ない学生については、所属学科・コースの教員に状況確認した上で個別連絡するなどのサポートを実施している。

表2 キャリア関連科目の履修者数及びガイダンスの受講者数(数は延べ数)

	キャリア関連科目履修者数	ガイダンス受講者数
2011年度	692名	1032名
2012年度	1194名	1536名
増減	+502名(172.5%)	+504名(148.8%)

表3 キャリア支援課利用者数

	実数	延べ数(相談回数)
2011年度	1019名	3039名
2012年度	660名	1576名
増減	-359名(-35.2%)	-1463名(-49.5%)

キャリア支援に関する組織体制の整備については、2011年3月に「京都精華大学キャリアデザインセンター規程」が制定され、学生の生涯を通じたキャリア形成、社会的実践力の育成を推進することにより、本学独自の卒業後の職業的自立および表現者育成支援を目的とするキャリアデザインセンターが設置された。同時に、本学では学部構成の特質上、卒業生の10%強の学生が卒業後の進路に美術作家、漫画家、イラストレーター等企業就職以外の進路を選択する状況ということもあり、従来の就職部を広義のキャリア支援室（専任4名、派遣スタッフ2名）に改称した。

キャリアデザインセンターはキャリア支援室が核となり、学長室、教務部、企画室、教員からなる全学連携型のセンターで、正課及び正課外のプログラムの構築および推進に係わっている。キャリアデザインセンターで進路支援に係わる計画を検討・策定し、キャリア支援室が中心となりその実務を遂行する仕組みである。年に2回、進捗状況を報告し新たな目標・課題を設定し、PDCAサイクルの中での解決を図っている。

また、各学科・コースには就職担当教員を置き、ガイダンス等の開催情報と求人情報の伝達や学生の状況把握を委ねている。キャリア関連科目の柱となる「キャリアデザイン」については、定期的に授業担当者とキャリア支援室で方針・内容の確認を行っている。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

障がい学生へのノートテイク・パソコンノートテイク・字幕制作の支援は全て学生が行っているが、更なる支援技術の向上や適正な支援内容を目指して、支援学生のリーダー学生制度を設けた。その結果、リーダー学生は自分自身の振り返りができ、支援に対する意識も向上した。

ノートテイクとノートテイクを利用している聴覚障がい学生とのミーティングを年4～5回行っているが、支援学生同士がノートテイクについて話し合うことで、ノートテイクのコツや不安の解消が出来ると共に学生の絆が深まっている。

また、発達障がい学生や高次脳機能障がい学生で要支援の申し出がある場合は、講義での困難（教員の話とノートを取ることを同時に出来にくい特性がある）な部分に記録ノートテイク（授業の大まかな流れや試験・休講情報を書く）1名を配置して修学のサポートを行っている。

学生の進路支援では、2009年度に、本学の「クリエイターデビューを目指す表現者のキャリア育成支援」が文部科学省の「学生支援推進プログラム」に採択された。2011年度までの3年間、自己点検及び外部評価の機会を設けて継続した。「作品プレゼンテーションキャラバン 京都北山からの熱い風」、教員との連携支援体制、セイカメディアスクール、ワンストップ型の窓口相談体制等が高く評価され、2013年1月に文部科学省より優秀校として選定された。このプログラムは現在の支援のベースになっている。

### ②改善すべき事項

学生への修学支援では、学習意欲の低下から留年、休学、退学まで至る学生が少なくな

い。このような学生の問題について、現状では個々の教員による対応に頼っており、学部として具体的な対応策が打ち出せていない。また、留年者へのフォローが組織的にできていない。留年が決定した学生が即退学するといったケースも見られ、留年決定時に心的なケアや就学継続のための経済的背景の把握などができていない。また、休学を数期繰り返して退学に至るケースでは、最終的な退学理由の把握が困難になる場合がある。

学生の生活支援では、最近学内外において、大学生が関わる LINE、Facebook、Twitter などのソーシャルネットワーキングサービス (SNS) 上のトラブルが多数報告されている。手軽に利用できるコミュニケーションツールとして多くの学生が利用しているが、安易な発言、書き込みが友人や家族のプライバシーを侵害したり、企業に多大な損害を与える事例が発生しており、大学としては SNS に関する情報リテラシー教育に遅れをとっている。また、キャッシュカードの利用や契約に関する消費者トラブルへの指導も十分ではない

学生の進路支援では、2011年6月3日の第3回キャリアデザインセンター会議にて定められたキャリア支援の基本方針は、同月の常務理事会での報告・確認がなされた後、キャリアデザインセンターの教職員が各コースの進路担当教員を訪問し、コース毎の現状確認や要望等のヒアリングも兼ねて、共有を図った。しかし、人文学部では進路担当教員から他の教員へ情報が拡散・共有される仕組みが十分でない。また、今後、全学的な連携の下にキャリア支援を強力に推し進めていくには、ゼミ単位、即ち全専任教員へ周知する機会が必要である。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

聴覚障がい学生支援は、近年のテクノロジーの進歩により大きく変化しつつある。2013年度以降は、支援業界の最新情報を得て、支援技術の向上につながる機器類を積極的に導入する。

また、日常の支援で障がい学生や親と関わっているが、2014年度から更に定期的な情報交換の機会を設けて、障がい学生からの意見やニーズを引き出し、関係教員・関係各課と連携し、情報交換や情報共有を行う。特に、最近支援の申し出が増加傾向にある発達障がい学生は、入学時から修学・進路・カウンセリングと多くの関係者と関わることが多いので、2014年度中に専門家による支援講習を開催し、教職員個々の支援技術を向上させる。

学生の進路支援では、「クリエイターデビューを目指す表現者のキャリア育成支援」を今後も有効に機能させるために、内容の強化を図る。「作品プレゼンテーションキャラバン 京都北山からの熱い風」については、事前の学生の志望調査に加えて、変化の著しい社会を見据えた上で、参画を求める企業を見直す。業界研究会においても同様で、企業だけでなく伝統産業に携わる職人やフリーランスで活躍する作家(マンガ家、イラストレーター、デザイナー)等の招聘も視野に入れ、産業構造や仕事の内容に留まらず、卒業後の生き方の選択肢を多く提示したい。

#### ②改善すべき事項

修学支援では、2013年度より留年者への履修登録後のフォローを、学生課と教務課との

連携を更に密にして行う。現状では履修登録後は担当教員にフォローを任せており、事務局との接触が途切れてしまいがちである。特に休学明けの学生についてはクラス（ゼミ）に馴染めず再度休学もしくは退学してしまうことがあり、教員以外の相談相手として事務局がフォロー体制を構築する。また、2013年度中に休・退学の届出用紙のフォームを見直す。現在の休退学の届出用紙の理由記入欄は自由記述となっており、郵送で届けを受け取った際に最低限の情報さえ得られないことが多い。そこで休・退学の理由として特に多い8項目から選択させ、その他の理由や追記がある場合は自由記述させる。この見直しでより具体的な休・退学者の傾向を掴むことができ、対応策を講じる際の手立てとする。

生活支援では、大学生にとって必要な情報リテラシーや法律知識を入学時の早い段階で教育する。2013年度より、入学時のオリエンテーションや必修科目の中で情報提供と注意喚起して、最低限の知識を持った上で大学生活をスタートさせることによりトラブルを未然に防ぐ。また、具体的事例などを挙げながら説明ができる専門機関との連携も不可欠であり、相談窓口の本学教職員と連携・補完し合えるような体制を2014年度中に構築する。

進路支援では、キャリアデザインセンターの基本方針を含め、キャリアデザインセンター会議で確認、承認された事項を学部教授会等の場を利用して発信・共有していく。芸術、デザイン、マンガ学部においては、進路担当教員との接触の場をより多く持つように努める。人文学部においては、進路関連の情報が学部内で流通する仕組みづくりから、教員と共に構築していく必要がある。また、2013年度に新設されるポピュラーカルチャー学部やキャラクターデザインコース、ギャグマンガコースについては、進路担当の教員の設置と役割の確認を明確にしていく。

## 第7章 教育研究等環境

### 1. 現状の説明

#### (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

本学の教育研究環境をより高度で専門的なものに充実させるために、キャンパス整備計画を常務理事会で立案している。この内容は理事会で承認された後、教職員向けに説明会を開いて周知している。現在は第4期施設整備事業(新整備計画)が進行中である。当初の計画には明窓館、悠々館、5号館、7号館の建て替えが含まれていたが、2013年4月の新学部(ポピュラーカルチャー学部)開設に伴って一部計画を変更し、駐輪場を移設した跡地に新学部棟を建設することとした。今後、当初の新整備計画に基づき、現行法による新耐震設計基準に適合できていない、老朽化の進む明窓館、5号・7号館の順次建て替えを計画している。

また本学では、2000年に日本の大学では初めて全キャンパスを対象に、教職員のみならず、学生・常駐委託業者も構成員に含めて、ISO14001認証を取得し、「環境方針」を定めて、環境の取り組み(環境マネジメントシステム、以下EMSと略す)を進めている。2012年からは自主的な運用に切り替えたが、学長をトップとした環境委員会を設置し、2ヶ月に1度、30部門の委員が集まって、環境委員会を開催している。ここでは、学内の環境問題全般(省エネ、排水管理、廃棄物管理、薬品管理(毒劇物・危険物含む))などの情報交換や環境法令等の遵守事項などについてアナウンスを行い、各環境委員から部門内の教員・学生へ伝達する仕組みとなっており、学内の環境整備・安全管理の徹底につながっている。

#### (2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

京都精華大学は比叡山の麓、京都市左京区岩倉に位置し、4学部4研究科の授業は全てこのひとつのキャンパスで行われている。

1968年開学当時、わずか3棟だった校舎施設はその後整備、拡充が重ねられ、現在22棟となっている。対峰館、光彩館、自在館、5号館、7号館、風光館、究明館、新学部棟(名称未定)は芸術学部、デザイン学部、マンガ学部、ポピュラーカルチャー学部の実習棟である。各コース教員の研究室や一部講義教室も含まれるが、基本的に実習室と専門機器・設備をそなえた工房で構成されている。黎明館、清風館、春秋館は講義棟である。

明窓館には本学最大の600名収容教室の他、ギャラリー、学生ホールを備えている。

流溪館は講義・理論系教員の研究室棟である。運動場やテニスコート・フットサルコートもあり、トレーニングジムもそなえた体育館、総合メディアセンターである情報館もある。学生中心の建物としては、食堂やコンビニエンスストアが入る悠々館、クラブボックス棟の遠友館で構成される。キャンパス内中心に位置する本館には事務組織と保健室・カウンセリングルーム、購買部、またマンガ学部の一部実習室と教員研究室を備えている。他に24時間体制で警備員が常駐する警備棟等がある。

本学は大学設置基準に基づき、学生収容定員から算出される校地面積46,620 m<sup>2</sup>(収容定員4,660名×10 m<sup>2</sup>)に対し、現有の校地面積は202624.75 m<sup>2</sup>(うち借用面積2773.85



m<sup>2</sup>)である。この敷地面積には、キャンパス隣接地に設置する第二学生食堂 491 m<sup>2</sup>、左京区八瀬近衛町所在の伝統工芸施設予定地 1514.15 m<sup>2</sup>が含まれている。

同じく大学設置基準において求められる校舎面積は 34,096 m<sup>2</sup>に対して、現有校舎面積は 61,259.69 m<sup>2</sup>である。この校舎面積には、キャンパス外の第二学生食堂 169.33 m<sup>2</sup>、叡山閣 2,684.48 m<sup>2</sup>、学生寮 1,795.08 m<sup>2</sup>、伝統工芸施設予定地 117.35 m<sup>2</sup>が含まれている。

その他、学外にセミナーハウスとして京都府京丹後市に海水浴場に隣接する丹後学舎、滋賀県高島市に登り窯をもつ朽木学舎を有している。

キャンパスへは、叡山電車「京都精華大前」駅で下車し、駅構内から階段と陸橋を利用する方法と、近隣の木野町道路から学内へ坂道を 40mほど入る 2 箇所がある。「京都精華大前」駅構内からの設備は大学敷地へ続く階段に手摺の取り付け、車を利用する身体障がい者には、春秋館下に身体障がい者用の駐車スペースを設けている。建物の殆どにエレベーターを配備し車椅子利用者、また校内各所に点字ブロックを整備し視覚障がい者にも配慮している。これらのキャンパス内は用務員・清掃業者による毎日の清掃に加え、年 2 回（前期・後期）学生の休暇期間に普段出来ない、高所窓ガラス清掃や、実習室床面洗浄ワックス塗布などの定期清掃を実施し、キャンパス内の美化維持に常に努めている。

また、本学では京都精華大学消防計画に基づき、防火防災委員会(委員長＝総務部長)を組織し、年 1 回の消防・防災訓練を行うことで万一の緊急事態時に大学構成員（学生・教職員）を安全に避難誘導させることに備えている。さらに学内には警備棟・情報館・体育館に、学外施設では丹後学舎・朽木学舎に AED(自動体外式除細動器)も設置している。

本学の特色として、山々に囲まれた本学のキャンパス内には緑も多く、自然が豊かなこともあげられる。鹿を放し飼いにした「鹿野苑」、孔雀、鶴などを飼育している「禽舎」も配置され、学生のデッサンの対象になるとともに、憩いの場になっている。究明館から黎明館にかけて全長約 500mの小川がキャンパス内を流れ、行き着く池には水上ステージが設置され学生達のパフォーマンス発表の場ともなっている。

これら内外のキャンパスアメニティ形成に際し、本学では年 1 回全学生を対象に実施される「セイカキャンパスライフアンケート」を基に学生の声を反映させ、学外食堂のリニューアル、築 20 年を超える風光館のトイレ全面改修を実施した。続いて学内食堂のリニューアルや、築 10 年以上経過している建物全てのトイレを年次計画に基づきリニューアルする。また、本館の学生ラウンジと同様に学生が自由に集えるスペースを悠々館横の広場に設置することを予定している。

### (3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

図書館とメディアセンターが融合した情報館が1997年に開館し、2013年3月31日現在の蔵書数は、図書232,011冊（2008年度と比較して6%増）、雑誌1,173タイトル（2008年度と比較して16%減）、電子ジャーナル495タイトル（2008年度と比較して1,833%増）、視聴覚資料23,612点（2008年度と比較して18%増）である。また、データベース18タイトル（2008年度と比較して29%増）を契約している。これらのことから、従来の紙媒体の資料から、電子媒体へ移行していることが顕著にとれる。これら電子媒体は、館内にいなくとも学内LANを通じて24時間利用可能で、利用者の利便性の向上に貢献している。

蔵書構成については、本学の教育・研究分野にふさわしいバランスと特徴あるものをめ

ざしている。2012年度に図書館で購入した3,455冊のうち、日本十進分類法での割合は、0類（総記）5%、1類（哲学）3%、2類（歴史）5%、3類（社会科学）16%、4類（自然科学）1%、5類（技術・工学・工業）14%、6類（産業）3%、7類（芸術）46%、8類（言語）2%、9類（文学）5%となっており、芸術・デザイン・マンガ学部を擁する大学ということを反映して、芸術系の図書が占める割合は50%にも及んでいる。学生・教職員からのリクエスト図書の購入にも積極的である。また、マンガ学部を設置している大学として、最新のコミック雑誌を100タイトル以上配架している。

表 2011年度の図書館集計（『日本の図書館2012』より抜粋）

	学生数	蔵書冊数	所蔵雑誌 タイトル数	資料費
京都の芸術系4校の平均	2,193	153,750	1,183	15,199,000
京都精華大学	3,810	231,000	974	34,223,000

情報館は、総面積 4,746 m<sup>2</sup>（サービススペース 3,151 m<sup>2</sup>、管理スペース 987 m<sup>2</sup>、その他 608 m<sup>2</sup>）あり、4フロアで構成されている。収容可能冊数、255,000 冊、棚板延長は実に 9 km 以上におよぶ。閲覧席数 654 席（収容定員比 14.9%）、パソコン設置台数 68 台（貸出ノートパソコン 27 台含む）である。設置しているパソコンは、一般的な Windows をはじめ、芸術系大学として不可欠な Macintosh 製のパソコンも用意している。デザインソフトの扱いにも長けた技術スタッフ 5 名程が常駐し、学生達の作品制作等をサポートしている。また、メディアホールやスタジオを備えている。

2012 年度の年間開館日数は 260 日に留まった。これは、情報館の基幹システムを更新させるために休館して作業する必要が生じたためである。開館時間は、平日が午前 8 時 30 分から 20 時 30 分まで、土曜日が 8 時 30 分から 18 時までとしており、授業開始 30 分前から、終了後 1 時間開館している。なお、日曜・祝日は基本的に休館している。

これら情報館を運営するスタッフは 22 名（専任職員 3 名、嘱託職員 1 名、業務委託職員 18 名）である。そのうち、司書の資格を保有するスタッフは 11 名（専任職員 1 名、業務委託職員 10 名）で、年間延べ 20 万人にも及ぶ入館者に対応している。

本学では、20 年ほど前から学内 LAN を積極的に敷設している。現在では、無線・有線を問わず、学内 LAN に接続する全てのパソコンから、高速で電子媒体の学術情報にアクセスできる環境を整備し、非来館型のサービスにも注力している。さらに情報検索については、学内はもちろんのこと、学外からでも情報館のホームページにアクセスすれば、所蔵する全ての資料検索が可能である。今後は、ディスカバリー・サービスシステムを導入し、これまで以上に利用者が求める学術情報にアクセスしやすい環境を整備したいと考えている。

また現在、情報館ポータルシステム「マイライブラリ」を構築しており、情報館からのお知らせや、予約状況の確認、貸出延長の手续、借用中資料の状況を確認することが可能である。さらには今後、マイライブラリ上で資料の貸出予約ができるようにシステムを構築中である。

非来館型のサービスに注力する一方で、開館型サービスを向上させるため、2010 年度

には館内の大規模リニューアルを図った。これまで漠然としていたフロア構成を、それぞれのフロアに機能分化させ、資料を閲覧するフロア、闊達な議論ができるコミュニケーションフロア等、機能を明確化した。閲覧のためのフロアには、自習用キャレル 157 席、閲覧・自習座席 162 席を設けた。また、コミュニケーションフロアには、ラーニングコモンズにも対応できる情報交流用座席 137 席を設けた。

表 2011年度の図書館集計（『日本の図書館2012』より抜粋）

	学生数	入館者数	開館日数	学生貸出点数
京都の芸術系4大学の平均	2,193	101,000	254	33
京都精華大学	3,810	206,000	274	77

本学では、1990 年度より国立情報学研究所（以下「N I I」）に加入している。既に、情報館の全所蔵データ登録は完了しており O P A C で検索可能である。また、本学の所蔵資料は、N I I の総合目録所在情報データベースに存在する所蔵情報へも全件登録している。これにより、国内の教育・研究機関と学術情報の相互提供を可能としている。また、文献複写や図書貸借などの相互利用については、非常に活発に実施している。

2010 年には、国立国会図書館が運営するレファレンス協同データベース事業において、1 万件を超えるアクセス数があり表彰された。

また、本学は、大学コンソーシアム京都の「図書館共通閲覧システム」にも加盟しており、京都市内の 34 の大学図書館が利用できる。

(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

本学では、様々なサイズの講義室やゼミ等の少人数で使用する演習室、語学教育用の CALL 教室、全学で使用する PC ルームの他に、芸術・デザイン・マンガ学部で実施する様々な実技教育のために、各コースで特徴的な施設・設備を備えている。全国でトップレベルの施設もあり、また個々の学生の実習スペースが確保されている。

芸術学部では、立体造形コースでは扱う素材ごとに工房が分かれており、鉄工室、木工室、モデリングスタジオ、ブロンズ鋳造を行う可傾炉、蝋型やシリコン型をつくる工房などがある。陶芸コースでは、4 基のガス窯と 6 基の電気窯を備えた窯場や、30 台の電動ロクロ室、釉薬実験室、乾燥室などがある。テキスタイルコースでは、型染め、ろうけつ染め、シルクスクリーンのための実習室や、25 台の織機がある織実習室などがある。版画コースでは、木版画・シルクスクリーン工房、銅・石版画工房、紙すき工房、写真の現像室に、リトグラフプレス機、エッチングプレス機などがある。映像コースでは、ビデオ編集や CG 制作のためのデジタル機器やインスタレーションのための実験工房がある。

デザイン学部については、現代のデザイン教育にはパーソナルコンピュータを利用したデジタルツールの修得は必要不可欠な要素となっているため、ビジュアルデザイン学科グラフィックデザインコースおよびデジタルクリエイションコースでは、全学生が各 1 台のノートパソコンを入学時から所有し、大学や自宅などユビキタスな学習環境の中でデザインの基礎やデジタルツールの使い方を学べる環境を整えている。ビジュアルデザイン学科イラストレーションコースでは、学内の専用パソコンルームを利用し、イラストレーター

やフォトショップといったデザイン領域には欠かせない専用ソフトの実習を行っている。プロダクトデザイン学科でも、学内の専用パソコンルームを利用し、立体と平面の幅広い専門デザインワークを習得するための基本的なデザインツールに加え、CADや3次元CGなどを修得している。建築学科では、建築CAD、3次元CG、プレゼンテーションのためのデザインツールの実習を行っている。また、全学的に学内のパソコンルームを一定時間開放し、パソコンを所有していない学生も自学自習できる環境を整えている。デジタル環境以外にも様々な施設・設備があり、例えば、プロダクトデザイン学科では伝統工芸実習のために漆工房を、建築学科では建築工房を所有している。

マンガ学部は、アニメーションコースでは高性能な機器を配備したストップモーション・アニメーションスタジオと音響制作スタジオを、カートゥーンコースでは、作品展示ができるギャラリーを所有している。また、アニメーションコースとマンガプロデュースコースでは、学生は全員指定機種のパソコンを個人購入することとなっている。そのため、実習室はOAフロアでLANが配備され、学生所有パソコンが接続できるようになっている。なお、全てのコースに総合研究室があり、助手が機材の貸し出し等の制作支援を行っている。

人文学部では、自習空間として清風館 C-307 を開放している。ここには情報館メディアセンターのスタッフが待機し、原則的に全学学生を対象としているが主に人文学部生の学習空間として機能している。各10台ずつのWindows、Macintosh双方のマシンを設置しており、学生は開放時間中自身の学修や製作のために利用することができる。またデジタルカメラやビデオカメラ、録音機材などの機材貸し出しも行っており、学生の学内外での自習活動も支援している。

教育支援体制として、各学部・研究科ごとに専任職員の教務課員を配置しており、学部・研究科の事務サポートや学生サポート、教授会・学科長会議・各種委員会等の支援業務を行っている。これに加えて、芸術・デザイン・マンガ学部では各コースに助手を配置して、コース事務や授業や学生のフォローを行っている。また、実技授業実施のために機器操作等の専門技術を有する実習アシスタントを配置しているコースもある。

人文学部では、明窓館1階の日本語リテラシー教育スタッフの研究室及び清風館地下の共通教育センターに学生の自習スペースがあり、学生の学習を支援する文献を自由に閲覧できる。双方に助手が常駐しており、学生の相談窓口として学生に適切な指導を行っている。また、「京都精華大学人文学部ティーチング・アシスタント雇用細則」に基づき、大学院生の指導にあたっている人文学部教員の授業には、授業の教育補助や受講生に対する学習上の相談・指導等を行うためにティーチング・アシスタントを配置することが出来る。また、人文学部の学習支援や授業の運営補助のために、学習補助員や授業補助員を配置することが出来る。

履修者が200名を越える科目には、スタッフ(SA)がつき、授業の補助を行う態勢が整備されている。

研究支援体制については、専任教員には個人研究費として年間50万円を予算化している。研究室は、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部については各実習棟内に個人研究室を設けている。人文学部及び各学部専門講義科目担当の専任教員は、流溪館に個人研究室を設けている。研究室にはパソコンと学内LAN、無線LAN等を整備している。

教員の研究活動を全学的に支援する組織として、「京都精華大学全学研究センター規程」

を制定し、2009年度に全学研究センターを開設した。全学研究センターでは、共同研究プロジェクトの推進、科学研究費補助金等外部研究資金の獲得支援、「京都精華大学紀要」の刊行、出版助成等の研究支援事業を展開しており、この中で共同研究費や出版助成金の支給を行っている。事務所管部署は学術振興課である。

また、マンガ分野に特化した研究を遂行する国際マンガ研究センターを2006年4月に設置しており、研究プロジェクトの展開や国際学会議の開催、研究成果の展示公開や研究論文集の刊行等を行っている。

その他の研究支援体制として、学外研究員制度がある。これは本学の資金で半年、1年等の一定期間、研究・調査に専念できる制度で、毎年度数名の教員が利用している。教員はこの期間は授業等の業務が免除される。また、学会補助制度があり、教員が本学を会場として学会を開催する場合、本学から補助金の交付を受けることができる。

#### (5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づいて、本学における科学研究費補助金をはじめとする公的研究費の適正な運営・管理について整備し、2011年9月にその体制について大学ホームページで公開している。また、研究倫理については、「京都精華大学研究倫理規程」「学校法人京都精華大学における研究活動上の不正行為に関する規程」「京都精華大学研究費執行における不正防止規程」等で定めている。そして、科学研究費補助金の学内公募説明会や科研費受給教員には個別に、学術振興課より研究倫理や研究費執行ルールについての説明を行っている。

2012年に行われた会計検査院の検査で、農林水産省および近畿農政局の助成事業の補助金執行において不適切な支出が指摘され、補助金を返還する事態となった。本学ではこのことを重く受けとめ、学内で再発防止のための委員会を設置して討議を重ねた。その結果、公的資金による事業執行のみならず一般事業執行においても不正行為が発生しないように、双方について教職員の行動指針となるように「学校法人京都精華大学における事業執行に関する規程」を2013年3月に制定した。この中で、全教職員が遵守しなければならない事項や事業執行管理体制、各担当者の責務等について定めている。この後、業務執行における正しい運用方法について理解を深めるリーフレットを作成し、それを基に教職員対象に学内説明会を開催している。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

EMS活動の一環として、毎年、全部門対象に内部環境監査を実施しており、問題があれば指摘を受け、改善を要求される。内部環境監査には、学生も監査員として参加（授業）している点が本学の特徴である。環境に関する法令等の遵守についても、定期的にチェックしており、環境法令違反などは発生していない。また年度当初には学生への環境教育の時間を設けているため、省エネ、特に照明やエアコンの消し忘れやごみの分別などに対する学生の意識は高い。

## ②改善すべき事項

デザイン学部では、木工室、金工室、写真スタジオなどの特殊な工房は、特定の学科のみが利用可能となっており、他学科の学生が使用できない。

マンガ学部では、基礎画力向上を目的とした科目を各コースに設置しているが、デッサン、クロッキーに適した教室が不足しているため、やむを得ず講義室で行っており、整備が必要である。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

EMS 活動は、2012 年から自主的な運用に切り替えたが、「環境方針」を見直した結果、「自然環境と共生し、人間を含めた生物にとって健康かつ安全で快適なキャンパス空間の創造につとめる。」という内容を新しく追記した。これに基づいて、2012 年度からキャンパス内の自動車乗り入れ制限を実施した。2013 年度はキャンパス内の美化整備、特に煙草の分煙、歩き煙草の禁止など学内の火気の取扱いについてもルール化する予定である。

### ②改善すべき事項

デザイン学部では、施設開放について写真スタジオなど、全学的に利用できる状況を整備することで、学生へより良い学習環境を提供できるよう改善を計画中である。

マンガ学部では、現在の大学全体の施設状況からは、デッサン専用室を新規に設置する余裕がないため、できる限りそれに近い仕様の教室を配当することで授業運営に支障がないよう配慮する。

## 第8章 社会連携・社会貢献

### 1. 現状の説明

#### (1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

社会連携・社会貢献の方針については、初代学長 岡本清一が提示した建学理念の継承と再生を図るために 2003 年に中尾ハジメ学長（当時）によって作成された「京都精華大学の使命」の中で、「京都精華大学は、社会に責任を負う自立した人間の形成という目的のために、恒に現実の社会的視点を維持し、広く社会に貢献する活動を行う」と定めている。

この使命を果たすべく、本学の教育研究活動を社会と連携・協力し、その成果を社会に還元する取り組みを実施する組織として、社会連携センター、京都国際マンガミュージアム、国際マンガ研究センター、情報館、ギャラリーフロール等がある。

また、国際社会への協力、貢献、交流については、『教育の基本方針に関する覚書』に「かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。」と記されている。これを受けて、『京都精華大学の基本理念』の中に、「京都精華大学は、広く国内外に開かれた教育を行う。人間が国家、宗教、民族の対立を乗り越えて共に生きるためには、その価値観の違いを超えて人間的な信頼関係を創出しなければならず、国家、宗教、民族を超えた人間的な交流の体験が必須である。」、また、「その教育は、共生を目指し、なお自立する人間の形成を目的とするために、現実の人間の問題を扱う学問・芸術の探求に基づき行わなければならない。」と定められている。この方針に基づいて、各学部・研究科や国際課等において国際協力等への積極的な対応を行っている。

#### (2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

##### <社会連携センター>

社会連携センターは 2009 年度に設置された。本センターの目的は、「京都精華大学社会連携センター規程」において「大学と社会とのつながりの中で本学の活動を社会に発信し、同時に社会の活動を本学に導引することにより、教育・研究活動の向上と発展に寄与することを目的とする」と定められている。「本学における社会との連携プログラムの推進」、「公開講座等社会に向けた各種プログラムの推進」、「産官学連携事業の推進」を主な取り組みの柱として、積極的に大学の資源を社会に発信している。

##### ①公開講座

本学では文化・芸術の教育研究活動を社会へ発信することを目的とし、公開講座を行っている。公開講座には講演会形式の「アセンブリーアワー講演会」と、ワークショップ形式の「公開講座ガーデン」の二つの事業を実施している。

1968 年の開学年から続く「アセンブリーアワー講演会」は、芸術・文化・社会に関する幅広い領域から、その時代の第一線で活躍する表現者を講師に迎えることにより、文化資源の創造的活用を図り、「知」を一般市民および地域に開放する機会として実施している。

2012年度のアセンブリーアワー講演会のゲスト講師等は以下のとおり。

講師	テーマ	参加者
志賀 理江子 (写真家)	いまださめぬー写真の儀式	180名
栗野 宏文 (ユナイテッドアローズ クリエイティブアドバイザー)	今、そこにあるファッション	185名
Bose [スチャダラパー] (ミュージシャン) × 大宮 エリー (映画監督・脚本家・演出家・CMプランナー)	どうして音楽だったのか どうして映画だったのか	242名
角田 光代 (作家)	小説を書くということ	246名
植原亮輔 (クリエイティブディレクター、アートディレクター) + 渡邊良重 (アートディレクター)	木はクリエイティブの象徴。一本ずつ丁寧に木々を育てやがて森にしていきたい	220名
坂元 裕二 (脚本家)	人が二人いて会話すると物語になる	151名
宇野 常寛 (評論家)	現代ポップカルチャーの論点	128名
Chim ↑ Pom (アーティスト集団)	Chim ↑ Pom 講演会	218名
有賀 昌男 (エルメスジャパン代表取締役社長)、竹宮 恵子 (京都精華大学マンガ学部 教授)	エルメス製作ドキュメンタリー映画上映会『ハート&クラフト』	162名
来場者数		1,732名

#### 2007年度～2011年度までの来場者数

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
開催数 (回)	10	9	10	10	10
来場者数 (人)	2,263	1,914	2,316	1,769	2,095

「公開講座ガーデン」は、工房などの本学施設を活用し、ものづくりを中心としたワークショップ形式の講座を行っている。広く一般市民を対象とし多様な表現活動を通して、文化芸術の知識や思考に触れることを目的としている。

また、大人だけでなく小学生などの子どもを対象にした講座「子ども楽々塾」も每期開講している。参加者は特に近隣地域住民が多く、地域住民が気軽に大学を訪問してもらえる機会を提供している。

2012年度の公開講座ガーデンおよび子ども楽々塾は以下のとおり。

講座名	回数	定員	受講者
公開講座ガーデン (前期)			
紙漉き講座	5	15名	13名
京表具講座	3	30名	25名



写真表現技法	5	10名	10名
木皿泉のシナリオ講座	4	15名	15名
T シャツリメイク講座	2	20名	16名
公開講座ガーデン（後期）			
ガラス工芸講座	5	15名	9名
ポリマー版画講座	5	15名	9名
祖父江慎のブックデザイン講座	2	20名	20名
テキスタイル講座	1	12名	8名
手摺り木版講座	1	20名	10名
合計	33	172名	135名
こども楽々塾（前期）			
マンガ原稿用紙にマンガを描こう！	1	20名	16名
道ばたのアート「まちくさ」を描こう！	1	12名	5名
井上信太のアート教室「大きな魚を作ろう」	1	20名	13名
井上信太のアート教室「なんでもドローイング」	1	20名	16名
家族や友だちをマンガで描こう！	1	20名	17名
井上信太のアート教室「タイコを作って鼓笛隊」	1	20名	22名
井上信太のアート教室「オリジナルの服を作ってみよう」	1	20名	21名
こども楽々塾（後期）			
マンガ教室「人物をうまく描くコツ」	1	20名	14名
井上信太のアート教室「ハンモックを作ってお昼寝しよう」	1	15名	15名
井上信太のアート教室「楽器とモバイルを作ってピクニック」	1	15名	13名
マンガ教室「ペンでマンガを描いてみよう」	1	20名	20名
合計	11	202名	172名

#### 2007年度～2011年度までの来場者数

公開講座ガーデン					
	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
開講数（本）	29	31	34	36	10
受講者数（人）	649	571	554	553	167
子ども楽々塾					
開講数（本）	15	11	14	9	10
受講者数（人）	428	257	181	185	151

#### ②学外施設での事業

2005年より京都の中心地である四条烏丸の商業施設にて運営を開始したアートスペース「shin-bi（シンビ）」は、産官学連携事業の成果発表、あるいは教育研究活動の成果を広く社会へ発表するスペースへと発展させるため「京都精華大学 kara-S（カラス）」とし

て 2010 年にリニューアルを行った。

スペースはギャラリーとショップエリアで構成され、ギャラリーでは、在学生や卒業生の絵画や映像などの作品展示、外部との連携事業により生まれたプロジェクトの発表会などを実施。ショップでは卒業生、在学生、教員によるアートグッズや書籍などの販売を行っている。

学外組織との連携協力による教育研究の推進については、社会連携センターでは産官学連携事業「クリエイティブ・コラボレーション」を実施している。本事業は本学が培ってきた文化・芸術の教育研究活動と社会とを結び、学生が実社会から与えられる課題に取り組む実践的な教育活動を通じて、教育研究活動の向上と創造的資源の活用を目的として活動している。

2012 年度の社会連携センターで取り組んだ主なプロジェクトは以下のとおり。

企業とのコラボレーション		
プロジェクト名	成果物	担当学部
福井県勝山市「恐竜イラストコンテスト」プロジェクト	恐竜キャラクターイラスト (246 点)	マンガ学部
朝日新聞 京都府内版 正月企画「コトウタ」ロゴ・年表デザイン制作	ロゴ、年表デザイン	デザイン学部
難波宮「子ども向けマンガパンフレット」制作	マンガパンフレット	マンガ学部
瀬田光泉幼稚園「漢字教育のための絵本」制作	教材用絵本	デザイン学部
他大学とのコラボレーション		
京都大学生存圏研究所 『生存圏だより』掲載マンガ制作	マンガ作品	マンガ学部

#### <京都国際マンガミュージアム>

京都精華大学では 40 年にわたるマンガ領域の教育・研究活動によって国内外のマンガ研究をリードしてきた。京都国際マンガミュージアムは、その本学の多方面なマンガ教育・研究活動の成果を社会に発信するために設置された。

マンガミュージアムは、京都市と京都精華大学の共同事業で 2006 年 11 月に京都市中京区烏丸御池に開館。博物館機能と図書館機能を併せ持った新しい文化施設で、マンガの収集・保管・展示及びマンガ文化に関する調査・研究や関連事業を行っている。明治の雑誌や戦後の貸本などの貴重な歴史資料から現在の人気作品・海外のものまで約 30 万点を所蔵し閲覧に供している他、これらの資料をもとに進められる調査研究の成果は、展示という形で発表＝公開している。

その基本的機能として、開館以来、京都国際マンガ研究センターと共に、国際レベルでのマンガの歴史・文化の調査・研究から博物館・図書館の展開、研究者・専門家の育成、そして産・学・公連携によるビジネスモデルの研究・開発に注力してきた。

また「生涯学習・文化の創造」に向けて、マンガを通じた国際文化交流、幼児・児童を対象にした学習プログラムなどの開発、地域社会に向けたワークショップや各種

講座などの開講も進めている。

本学の国際マンガ研究センターと連携し、研究の成果を基にした展覧会・イベントの主なものを以下に挙げる。

2011 年度：「ベルサイユのばら」「赤塚不二夫マンガ大学」展ほか、4 回の特別展に加え「メディア芸術祭～歴史エ展」ほか 12 回の企画展を開催。

「ネオ狂言・赤塚不二夫の世界」ほか講演会等イベント数も 36 回を数えた。

2012 年度：「絵師 100 人展 京都篇」「寺田克也ココ 10 年展」ほか 3 回の特別展に加え、「世界のコミック作家がみた 3.11」ほか 15 回の企画展を開催。

「Kyoto Magic ファッションショー」ほか講演会等イベント数は 33 回であった。

その他、通年にわたり展覧会と連動したワークショップを実施。マンガ学部の卒業生による似顔絵・マンガ工房コーナー運営に加え、自治体や民間企業から、実用マンガ・アニメ制作を安定受注している。

地域交流については、マンガミュージアムは開館以来、地域住民の方々の深いご理解と積極的なご協力の下、閉校された元龍池小学校の跡地を活用し、館運営を実施してきた。これは開館時の公民協働というコンセプトが貫かれてきた証でもある。

生涯学習・観光誘致・人材育成や新産業創出等への活用を通じ、その成果を地域社会の文化活動に対して還元・貢献することを旨とし、京都市とは、「KYOTO CMEX」事業や「京都マンガガールズコレクション」事業、「ニュー・ブランシュ」イベント等を継続して実施している。また館内には、地元・龍池学区自治連合会、消防団の専従スペースがあり、平日を中心に各サークルが活動しており、閉館後もグラウンド・多目的映像ホール等で多岐にわたり活発に活動している。地域の夏祭り・体育祭・選挙時の投票所としても定着している。

#### <国際マンガ研究センター>

大学の教育研究の成果を社会に還元する取り組みは、本学が日本で唯一マンガ学部を有する大学として、2006 年 4 月に国際マンガ研究センターを設置し、また同年 11 月には京都市との共同事業として京都国際マンガミュージアムを開館し、現在までその教育研究成果を国内外に発信し続けている。

国際マンガ研究センターは、マンガに関する国際的かつ先端的研究拠点の形成を目的に、2 つの研究プロジェクト (1)「マンガ研究に関する国際学術会議を毎年開催すること」、(2)「マンガミュージアムを活用した研究成果公開とその成果の国際展開活動」を継続的に行っている。

構成員である正・副センター長各 1 名、研究顧問 2 名およびプロジェクト研究員 21 名の組織をマンガミュージアム内に置き、具体的には、下記に挙げる活動に取り組んできた。

#### (1)「マンガ研究に関する国際学術会議を毎年開催すること」

- ① 2009 年度：実施国 日本
- ② 2010 年度：実施国 ドイツ
- ③ 2011 年度：実施国 韓国、連携先： 韓国漫画映像振興院
- ④ 2012 年度：実施国 日本、連携先： 神戸大学

- ⑤ 2013 年度（予定）：実施国 インドネシア、連携先：バンドン工科大学  
いずれの会議にも各国のマンガ研究者が参集するグローバルな研究活動となっていると同時に、人的・組織的ネットワークの形成を促進している。また、その研究成果は、「国際学術会議論集」にまとめられ、広く社会に公開されている。

(2) 「マンガミュージアムを活用した研究成果公開とその成果の国際展開活動」

- ① 国内外の漫画家またその作品を扱った研究成果の展示公開を開設以来 15 回実施した。  
② 2009～2011 年度で、合計 14 回の学術講演会、小規模研究会を 46 回実施。  
③ マンガ関連ワークショップについては、マンガミュージアム内を中心として国内では通算 280 回、国外でも約 30 回実施した。  
④ 複製原画＝原画’（ダッシュ）プロジェクトの推進では、2009～2011 年度で、約 100 点の作品制作と海外巡回展 3 回を実施した。

<情報館>

情報館では 1997 年の開館以来、学生・教職員以外に学外の利用者を受け入れている。学外者は、図書・雑誌の閲覧や映像・音声資料の視聴は利用証なしで利用でき、年間利用登録料 1000 円を支払って利用証をつくると、図書、雑誌、録音資料の館外貸出ができる。

学外利用者の利用状況は、以下の通りである。

入館者数

- ・ 2010 年度 14,638 人
- ・ 2011 年度 15,899 人
- ・ 2012 年度 14,780 人

貸出数（人数・件数）

- ・ 2010 年度 2,210 人・8,429 件
- ・ 2011 年度 2,205 人・8,552 件
- ・ 2012 年度 2,179 人・8,459 件

<ギャラリーフロール>

①設置の趣旨・目的

京都精華大学ギャラリーフロールは、京都精華大学情報館が運営する大学ギャラリーで、情報館の情報発信機能を担う。所蔵資料の収集・保存を行うとともに、これらをギャラリーにて公開し、学内のみならず広く社会に対して美術品鑑賞の機会を提供するとともに、作品の研究、および教育資料としての活用に供している。

また所蔵品や学内外の作品をテーマに沿って紹介する企画展、在学生および教職員による申請展、テーマを設けて所蔵品を紹介する所蔵品展などを開催している。

特に申請展は学生自身の作品発表の場として、また展覧会実施の実体験教育として有効に機能している。

②沿革

- 1997年10月 「京都精華大学ギャラリーフロール」開館  
施設は明窓館の旧図書館移転後の施設を改装
- 1998年3月 博物館相当施設の指定を受ける  
エントランス部分の増設ならびに常設展示室整備
- 2009年 展示室のレイアウト変更を行う

③2012年度事業【展覧会実績】：

- ・企画展「Domestic and Abroad-国境を越えて見えるもの」展を開催した。
- ・所蔵品展[福井勇特別展示]を開催した。
- ・申請展7件を開催。また常設展示を4回に分けて開催した。
- ・オープンキャンパス関連の展覧会を4件開催した。

\*開館日 113日（オープンキャンパス関連展覧会を除く）

\*総入場者数 7,866名（オープンキャンパス関連展覧会を除く）

<国際化への対応>

学部・研究科において外国人正規留学生を、2012年度は162名（学部118名、博士前期36名、博士後期8名）受け入れている。また、海外協定校（23大学）との間で実施する「交換留学」（派遣20名、受入26名）や、人文学部が開講する「海外フィールドプログラム」や「プロジェクト演習」（派遣78名）を通じたカリキュラムの中での派遣・受入を実施している。それ以外に、国内外の機関が実施する国際交流事業への参加を通じた学生の派遣や、海外協定校等が本学を拠点に実施するプログラムの受入などを行っている。

国際交流事業への参加としては、2012年度は以下の実績が挙げられる。

- ・アスタナ国際アクション映画祭への参加  
カザフスタンの首都アスタナで行われた国際アクション映画祭の招待を受け、教職員5名と学生11名、卒業生4名を派遣した。日本（本学）、中国（北京電影学院）、韓国（国立映画アカデミー）ならびにカザフスタン国内で選抜された学生が参加し現地において共同制作を行なったほか、教員がレクチャーを行った。（2012年7月）
- ・フランスのブルターニュ地方で開催されたアーティストインレジデンスへの参加  
ブルターニュ地方の自治体が実施する「Cités d'Art de Bretagne」へ大学院生（日本画）2名と卒業生（カートゥーン）2名を派遣した。現地において各地方都市を訪問しながら、その風景を日本独自の表現技法を用いて制作・発表した。（2012年8～9月、2013年現地において巡回展を開催中）

プログラムの受入

- ・カリフォルニア州立大学デービス校 「Quarter Abroad プログラム」  
カリフォルニア州立大学デービス校がカリキュラムの一環として京都を拠点に実施する日本語・日本文化研修の受入（4月～6月）を通じて、28名の学生を受け入れた。  
日本語会話セッションなどに本学学生74名がボランティアとして協力。

- ・静宣大学 「京都研修プログラム」

静宣大学の日本語学科がカリキュラムの一環として京都を拠点に実施するフィールドワークの受入（8月末～9月初旬）を通じて、14名の学生を受入れた。人文学部の学生を中心にフィールドワークのサポートを行った。

- ・ロードアイランド・デザイン大学 「Winter Session プログラム」

ロードアイランド・デザイン大学がカリキュラムの一貫として実施する日本文化芸術研修プログラムの京都における拠点として、21名の学生を受入れた。（2013年1月）

- ・タイ国立電子コンピューター・センター 「訪日プログラム」

タイ国立電子コンピューター・センターが実施するアニメーションを専攻する学生を対象とした訪日プログラムの参加者 19名の訪問を受入れた。本学アニメーションコースの学生との交流を実施。（2012年12月）

教職員の派遣・受入については、学外研究員制度による本学教職員の在外研究や、客員研究員制度による海外からの研究者の受入を行うほか、本学が加盟する国際的な芸術・デザイン系大学のネットワーク「CUMULUS（クムルス）」が主催する国際会議への教職員の派遣などを行っている。2012年度の実績は以下の通り。

- ・学外研究員

芸術学部の教員1名が海外協定校のロードアイランド・デザイン大学において1学期間在外研究を行った。

- ・客員研究員

人文学部においてマサチューセッツ大学ボストン校の教員1名を客員研究員として受入れた。

- ・CUMULUS 国際会議

CUMULUS が主催した「Northern World Mandate」会議に教員1名を派遣した。

海外協定校等の共同プロジェクトを通じて、社会に対して教育研究活動の成果の発信を行っており、2012年度の実績は以下の通り。

- ・版画の未来図とグローバルビジョン展

海外協定校（ロンドン芸術大学キャンバウエル・カレッジ・オブ・アート、ロードアイランド・デザイン大学、ユトレヒト芸術大学、弘益大学）ならびにロイヤル・カレッジ・オブ・アートの学生の作品を含む展覧会を実施。開催にあわせて弘益大学の学生一行が本学を訪問し交流を行った。（2012年10月）

- ・岩倉と上水展

海外協定校の弘益大学芸術研究科の学生と本学芸術研究科（立体造形）の学生による共同展覧会を行った。展覧会に先駆けて弘益大学の学生は本学に滞在しながら制作を

行い、本学学生との交流を行った。(2013年2月)

海外の大学との一般協定の締結については、2011年度より学生の派遣・受入を行っていた静宣大学と本学人文学部の間で一般協定を締結した。(2012年12月)

#### <教育研究成果の社会への公開>

全般的な大学情報の公開は大学ウェブサイト等で行っているが、教育研究成果の社会への公開については、全学研究センターで年2回刊行している「京都精華大学紀要」や国際マンガ研究センターで年1回刊行の「国際学術会議論集」で行っている。また、全学研究センターや国際マンガ研究センターでは独自のウェブサイトを開設しており、全学研究センターのウェブサイトでは、共同研究プロジェクトや科学研究費助成事業プロジェクトの内容紹介や研究成果レポート、「京都精華大学紀要」の和・英論文等を掲載している。国際マンガ研究センターでは英文サイトも開設しており、「国際学術会議論集」は英訳版も刊行している。

## 2. 点検・評価

### ① 効果が上がっている事項

#### <社会連携センター>

##### ・公開講座

2012年度の来場者・参加者アンケートの集計結果によれば、参加者の中での「とても良かった」、「良かった」の回答率が、アSEMBリーアワー講演会では平均88%、公開講座ガーデンでは平均98%、子ども楽々塾では平均95%であった。この結果から、参加者にとって非常に高い満足度の講座を実施することができたと言える。

##### ・産官学連携事業

産官学連携事業の大学窓口として社会連携センターを開設し、連携事業に関する方針や取り組みの流れと実績、相談依頼書式などの整備、ウェブサイトでの公開を図ったことにより、大学への相談件数が増加した。

#### <京都国際マンガミュージアム>

##### ・入場者数の増加

入場者数は、2011年度は震災と不況の影響により、対前年比約2割減であったが、2012年度は有料入場者も増え、海外からの入場者も震災前レベルまで戻ってきた。

2013年3月末現在の累積入場者数は、1,647,406人となっている。更に、年間約25万人の入場者数を目標として、集客のための実施計画、各展覧会の結果評価、改善項目の抽出等の業務改善に加え、ミュージアムカフェの業務委託を実施している。

##### ・産・学・公連携による事業の継続的实施

大学としての教育的視野に立ちつつも、産・学・公連携事業を継続的に実施している。

①京都市産業観光局との連携事業「KYOTO CMEX」（2009年～）では、研究テーマと連携しつつ、斬新で当館オリジナルな展示会の内容が、集客力・取材記事等でも評価された。

2011年度 特別展「赤塚不二夫マンガ大学展ゲージツ篇」（10/29～12/25）

（\*併設「赤塚不二夫マンガ大学展ケンキュー篇」は、「第26回国民文化祭京都」事業として、二条城会場(11/1～6)も含め、京都市文化市民局より受託。）

\*期間中、計 39,993 人を集客。（特別展入場料なし）

2012年度 特別展「ガイナックス流アニメ作法」（9/22～12/24）

\*期間中、計 7,647 人を集客。（特別展入場料あり）

②京都市産業観光局との新産業創出にむけてのプロジェクト「Kyoto Manga Girls Collection」

2011年度 中原淳一・高橋真琴作品を、(ショー3/25・展示会 3/30～7/1)

公募の上、京都市の企業「SOU・SOU」「VERONA」へ委託し、11点の衣類を制作。

2012年度 安野モヨコ作品「シュガシュガルーン」を、(ショー3/3・展示会 3/20～6/9)

公募の上、京都市の「(株) 亀田富染工場」「ロマンス」へ委託し、16点の衣類を制作。

③京都市国際化推進室との連携事業「ニュイ・ブランシュ京都 白夜祭への架け橋」

屋外グラウンドでの、映像ショーとライブコンサートを実施。

集客数 2011年度 2,500名 2012年度 3,000名

④2012年度に受託した、旧庁舎活用例「東京都立川市マンガパーク」オープンに関してのコンサル依頼や、「とっとりマンガ博」でのブース出展協力依頼など自治体からの依頼も続いている。

⑤ミュージアムにはマンガビジネス全般を手掛ける「事業推進室」があり、民間企業他から、その受注規模は拡大しており、卒業生の活用・人材育成という機能も重要である。

実用マンガからアニメ制作へ発展する大型受託も増加してきた。

2011年度 受託件数 52件 (産:30件 公:19件 学:3件)

動員学卒生数 延74名

2012年度 受託件数 60件 (産:35件 公:19件 学:6件)

動員学卒生数 延74名

#### <国際マンガ研究センター>

国際マンガ研究センターは、2006年度に文科省「オープン・リサーチ・センター」事業として開設され5年間の国庫補助を受けて活動した結果、最終年度報告書に対して、評価「A・A」を取得している。また、2011年度からは、文科省「戦略的研究基盤形成支援事業」に採択されて、現在その活動が継続中である。いずれも本研究センターが掲げる活動目的・意義が社会的に認知され評価された結果であり、その主たる理由は、多くの研究成



果が京都国際マンガミュージアムという施設を通して、目に見える形で広く社会に公開されている点が挙げられる。

マンガミュージアムにおける各種統計的数値（入館者数推移、視察・見学者数推移、各種メディア取材件数等）によっても、本研究センターの各種取り組みが一定の効果を継続して挙げているといえる。

#### ・産・学・官等との連携

マンガ分野の研究においては、出版業界各社との協力関係なしに活動を進めることは出来ない。これまでの研究活動を通して大手出版社（集英社・小学館・講談社・秋田書店等）とは、展覧会開催に際しての資料提供、テキスト作成、全体監修等の受託研究を実施してきた連携実績があり、同時に 2013 年度の展覧会開催計画に関しての協力要請等を受けている。

また、複製原画＝原画’（ダッシュ）プロジェクトの実施に際しては、複製技術の開発・品質向上が必要とされることから、研究当初より大手印刷会社と技術契約を交わすことで本研究活動を継続することができた。

海外を含む他大学との連携状況については、国際会議・シンポジウム等での共催でケルン大学、韓国富川大学、韓国世宗大学、韓国カトリック大学、神戸大学、展示会・講演会等の共催では、オーストラリアモナシュ大学、その他共同研究分野でも国内外の多くの大学教員との連携活動を実施することができた。

官との連携に関しては、2007 年より経済産業省が主導して開催する日本のエンタテインメントコンテンツを国内外に幅広く紹介する総合イベント「JAPAN 国際コンテンツフェスティバル（＝通称コ・フェスタ）」における京都オフィシャルイベント「KYOTO CMEX」の実行委員会に過去 4 年間積極的に参画するなど、他団体にはない本研究センター独自の研究資源の提供に努めている。

#### ・地域社会との連携と還元

本研究センターは、京都市との共同事業であるマンガミュージアムを拠点に活動していることから、とりわけ市行政各部署との連携事業も多く、その中でも京都市が毎年開催する「京都マンガ・アニメフェスティバル」においては、各種イベントの企画立案段階で専門研究員が業界ノウハウについてさまざまなアドバイスを行ってきた実績がある。

また、マンガミュージアムの前身である旧龍池小学校の地域学区民に向けては、各種イベントへの優待制度を適用するなど、地域社会への還元も実施している。

#### ・国際社会との連携

マンガ研究領域においては初めてと言える国際学術会議を主催し、過去 5 年間計画に沿ってこれを開催し、その成果として「国際学術会議論集」を定期刊行している。これらの蓄積によって、マンガ研究者のグローバルネットワーク基盤を形成することに成功している。

また、海外関連機関からの講演依頼・研究発表、その他、展示・ワークショップ等の開催要請を数多く受託してきた実績がある。今後も、より多くの国々において本センターの

学術活動を広く社会に展開していく。

#### <ギャラリーフロール>

申請展を開催する際、準備から実施にいたる過程をスケジュールを示して指導した結果、申請者（主に学生）は展覧会実施のノウハウを実践的に体験することができた。

### ② 改善すべき事項

#### <社会連携センター>

##### ・産官学連携事業

学外からの相談件数は増加したが、依頼内容とカリキュラムとの接続が困難な点や、教員担当者の偏り、スタッフの人的不足などの要因によって、取り組み実施に至る案件が相談件数と比べて低い。

#### <京都国際マンガミュージアム>

開館から 7 年を経て、マンガ・アニメを取り巻く環境の変化やコンテンツ産業の隆盛に対応すべく、より効率的な研究組織のあり方が求められる。

#### <国際マンガ研究センター>

グローバルなマンガ研究の確立に向けた国際学術会議の研究成果として刊行される「国際学術会議論集」の編集作業に際しては、言語翻訳家（日本語・英語・韓国語・中国語）および校閲スタッフ、レイアウトデザイン担当者と海外執筆者間との調整がしばしば難航することが顕在化してきた。

ワークショップを担当する指導員には、マンガ作画力と指導力の両方が求められるが、両立できる人材は限られる。

現在、本研究センターのホームページの英訳作業が追いついていない状況にある。

#### <ギャラリーフロール>

改装による開館から年月を経て施設の劣化（建物本体、照明設備、壁面、床など）が甚だしく、早急かつ本格的な改装が必要である。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ① 効果が上がっている事項

#### <社会連携センター>

##### ・公開講座

アセンブリーアワー講演会、公開講座ガーデン、子ども楽々塾については、現在の水準を維持すべく、本学の教育研究内容と関連した魅力的ある企画の検討を進めていく。また、より多くの一般市民にも参加してもらえるよう、引き続き広く広報活動を推進していく。

- ・産官学連携事業

学外からの相談依頼者に対して、一般的な大学の産学連携事業とは異なる、文化・芸術領域での産官学連携事業の具体的なイメージを持ってもらえるよう、取り組み実績の紹介や、相談依頼書式の見直しなどを適宜図っていく。

#### <京都国際マンガミュージアム>

- ・入場者数の増加

入場者数を維持・増加させるには、研究成果を継続的かつタイムリーに魅力的な展覧会やイベントとして公開していく事が重要である。そのために、2013年度中に企画・運営基盤を支える総務・経理部門とミュージアムショップ部門を業務委託化する。業務委託を導入することによって、業務のマニュアル化や高水準での業務の安定化を目指す。

- ・産・学・公連携による事業の継続的实施

産・学・公連携事業を更に活発化させるためには、マンガ・アニメに関する多岐にわたる文化的・産業的要求に応えられる人材と組織の確保が重要である。また、今後も需要が予測される国内外を含めた関連施設の開設・運営コンサルティング業務など、様々なプロジェクトに対応できる体制づくりのために、2014年度中に展示・設営、図書データベース構築を業務委託化する。

#### <国際マンガ研究センター>

本センターの研究成果を一般市民に向けてよりわかりやすく、目に見える形で社会へ向けて継続的に公開していくことを方針とする。そのためにも、各種メディアを活用して時代の要請に応えたきめ細やかな情報発信を行っていく。

- ・産・学・官等との連携

これまで築いてきた出版業界各社・大手印刷会社等との共同研究に加え、マンガ・アニメ関連施設等の設立構想を有する地方自治体との連携を深めて、学術的調査・研究活動を促進する。また、マンガ・アニメのコンテンツ振興を図る文化庁を始めとする各省庁とは、情報交換を積極的に行い、国との連携をより密にしていく。

- ・地域社会との連携と還元

京都市が主催する「京都マンガ・アニメフェスティバル」においては、イベント企画・立案等に関する継続的な助言を実施していくことにより、地域行政との連携を維持する。また、将来に向けては、マンガ資料の扱いに関する資格取得講座等の開設を計画することにより、社会との交流機会をさらに増やして、他機関にはない特色ある研究成果を地域社会に還元していく。

- ・国際社会との連携

2015年度は補助対象期間の最終年度にあたることから、5年間の集大成として、「国際学術会議」を京都で開催し、この会議の存在意義をさらに国際的に発信するとともに、継

続開催のためにもその体制整備を進めていく。

グローバルなマンガ研究をさらに国内外に発信する必要性から、日本マンガの歴史を通覧する研究展示の必要性が確認されているので、今後は、幕末から明治の戯画・風刺画などのコレクションを体系的に収集し、その研究に着手する。

#### <ギャラリーフロール>

将来的には、従来の申請展の枠を広げ、学生が企画内容を提案して担当職員とともに実施するような手法を取る事によって、実技学生以外の運営参画が可能となる。

### ③ 改善すべき事項

#### <社会連携センター>

##### ・産官学連携事業

学外からの相談内容を取り組み実施に結び付けられるように、教員との協力体制を含めた運営体制の見直しを図っていく。

#### <京都国際マンガミュージアム>

学芸室・運営統括室・事業推進室の3室で構成されるマンガミュージアムの組織構成は7年目を迎え、年齢構成の高齢化や契約形態の偏りの是正が必須となっている。研究担当に関しては、2015年度中を目標に、学芸室と国際マンガ研究センターを融合するなど、新しい研究体制を構築する。

#### <国際マンガ研究センター>

2013年度の「国際学術会議論集」編集過程においては、作業スタッフの増員および編集スケジュールの前倒しなど、編集体制全体を見直すことでより安定的な刊行を目指す。

マンガワークショップの運営や文化講演会・マンガレクチャー等の開催については、今後さらに国内外からの需要増が予測されることから、2014年度より複数指導員の人材育成を進める。

本研究センターのホームページを海外からも閲覧しやすいように環境整備するために、2014年度に、英文テキストをより充実させるとともに、中国語・韓国語への多言語対策を検討する。

#### <ギャラリーフロール>

改装工事の実施が必要である。

## 第9章 管理運営・財務

### 1【管理運営】

#### 1. 現状の説明

##### (1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。

「京都精華大学の基本理念」の中に、「4. そのように現実社会に対する建設的批判と貢献を目指す、京都精華大学の教育と研究の活動は、また恒に現実と対峙し社会的視点を維持する大学の経営によって保障されねばならない。」と謳われており、本学における教育・研究活動と経営との関係について記されている。また、「学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則」第3条第1項において、「学園の経営計画を審議し、決定するために、理事会を置く」と規定している。これに基づいて、理事会では中期経営方針を策定しており、次年度の事業計画案とともに教職員に周知している。2012年度は、9月13日に開催された2012年度リーダーズ・ミーティングにおいて、現在進行中の「中期方針2011-2014」の進捗状況や、次年度以降の事業計画について説明があった。その際の配付資料や理事会において審議・報告された内容は、教職員専用サイトを通して教職員に周知されている。

本学における意思決定プロセスには、議決機関への付議を伴うものと、文書による決裁を要するものとしての稟議書制度がある。議決（審議）を行う組織は、大きくは教授会と理事会とに区分される。

教授会においては、学生の入退学・教育課程の編成・教員人事・学則の変更・学部長の選出等について審議を行うこととなっている。一方、学園の最高意思決定機関として、理事会がある。理事会では、寄附行為の変更、理事長・学長・理事・評議員の決定、予算編成・決算等、学園にとっての重要事項ならびにそれらに関連する諸規程の改廃等について審議され、通常年4回開催される。理事会の下に、理事会の決定に基づいて日常業務を執行するために常務理事会を置いており、基本的に週一回開催されている。常務理事会は理事長、専務理事、学長、常務理事3名の計6名で構成される。これらについては、「学校法人京都精華大学寄附行為」、「学校法人京都精華大学寄附行為施行細則」、「学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則」で定められている。また、教育・研究活動や学生生活に関すること並びに事務局各部署の運営方針等を審議する各種委員会においても審議機能が備わっているが、主に部局長クラスが委員長となって会議を行い、いずれも会議の議事録を作成し担当理事に報告する義務が課されており、学生生活委員会のように年度末に委員長が年度の委員会活動を学長に報告する義務が課されているものもある。

次に文書による決裁制度である稟議書により決裁を得る必要のある事項および手続きについては、「学校法人京都精華大学業務決裁規則」第4条に規定されている。同規則第2条では、予算の執行に伴い必要となるのみならず、金銭の支出を伴わない決裁案をも対象とする旨を定めており、決裁を要する業務については、同規則別表に「決裁基準」として定めている。

教学組織（大学）は、学長、副学長、教学執行機関、教学支援機関、研究執行機関から構成されている。教学執行機関として、現在4学部4研究科と、社会連携センター、キャリアデザインセンターを置いている。また、教学支援機関として、学長室、教務部、入学

部、情報館、キャリア支援室を、研究執行機関として、全学研究センターと国際マンガ研究センターを置いている。法人組織は、法人本部長および経営支援機関から構成されている。経営支援機関として、企画室、総務部、入試広報部を置いている。これらの各組織は、学部長、研究科長、教務主任、学科長、部長、センター長、事務部長、次長、課長等の職制を置いており、各組織はこれらの職制によって管理・運営されている。

教学組織（大学）では、学長、教学担当副学長、学生担当副学長が、教学執行機関、教学支援機関、研究執行機関を統括している。法人組織では、法人本部長が経営支援機関を統括している。教学における重要事項は、教学執行機関、教学支援機関、研究執行機関の各組織の職制から、学長および教学・学生担当副学長に提案・報告がある。教学組織のトップである学長と2名の副学長は、常務理事会に常務理事として出席しており、教学事項の提案・報告を行うとともに、経営面の意思決定にも関わっており、理事会に教学組織の意見を反映できる。また、大学部門と法人部門の調整もその場で行われ、迅速な意思決定が図れる。

学園における経営上の課題と教学上の課題の調整および大学部門と法人本部との調整について協議するために部局長会議が置かれている。また、業務の進捗状況、執行上の問題点等を学園全体の観点から調整するために課長会議が置かれている。これらについては、「学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則」や「学校法人京都精華大学役職者の職位および職務規程」に規定されている。

教授会、研究科委員会の権限と責任については、「京都精華大学教授会規程」、「京都精華大学大学院研究科委員会規程」に規定されている。教授会での審議事項の中で、学生の入退学など教授会の審議のみで決定するものもあるが、その他の多くは常務理事会での審議を要することとしている。また、教授会の下に、教務委員会、入試委員会、学生生活委員会等の委員会を設置して、各委員会規程に基づいて一定事項の権限と責任を委嘱している。

## (2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。

本学は、明文化された『学校法人京都精華大学 諸規程集』を持っており、管理運営に関する規程は以下の通り定めている。

- 学校法人京都精華大学寄附行為
- 学校法人京都精華大学2号理事（2号評議員を兼ねる）の選挙および選出に関する規程
- 学校法人京都精華大学2号評議員の選挙および選出に関する規程
- 京都精華大学長の選挙および選任に関する規程
- 京都精華大学学部長選出規程
- 京都精華大学大学院研究科長選出規程
- 京都精華大学教授会規程
- 京都精華大学大学院研究科委員会規程
- 京都精華大学教務委員会規程
- 学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則

本学の管理運営が学内諸規程に基づいて行われることの重要性に鑑み、規程の制定・改

廃は理事会もしくは常務理事会において審議し決定している。

なお、規程の制定・改定があった場合は、毎週開催される課長会議において総務課より報告され、課長を通して他の職員に周知されている。

また、これらの諸規程は事務局各部署に規程集として配付すると共に、教職員専用サイトで閲覧が可能である。規程集およびウェブともに年一回最新のものに更新している。

学長の権限と責任は、「学校法人京都精華大学寄附行為施行細則」の第3条第7項に「学長は、常務理事として、大学に関する日常業務を総括執行する。」と規定されている。また、「学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則」第4条第6項に「学長は、大学に関する日常業務を総括執行する。」、第7条に「学長は、大学を代表し、大学の学務を総括することを本務とする。」と規定されている。

教学担当常務理事の権限と責任は、「学校法人京都精華大学寄附行為施行細則」の第3条第8項に「教学担当常務理事は、教学担当副学長として学長を補佐し、主として教学に関する日常業務を総括執行する。」と規定されている。また、「学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則」第4条第7項に「教学担当常務理事は、学長を補佐し、主として教学に関する日常業務を総括執行する。」と規定されている。

学部長の権限と責任は、「学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則」第42条、「学校法人京都精華大学役職者の職位および職務規則」第6条に「学部長は、学部を統括し、学部に関する事項について学長を補佐する。」と規定されている。

研究科長の権限と責任は、「学校法人京都精華大学組織および運営に関する規則」第41条、「学校法人京都精華大学役職者の職位および職務規則」第10条に「研究科長は、研究科を統括し、研究科に関する事項について学長を補佐する。」と規定されている。

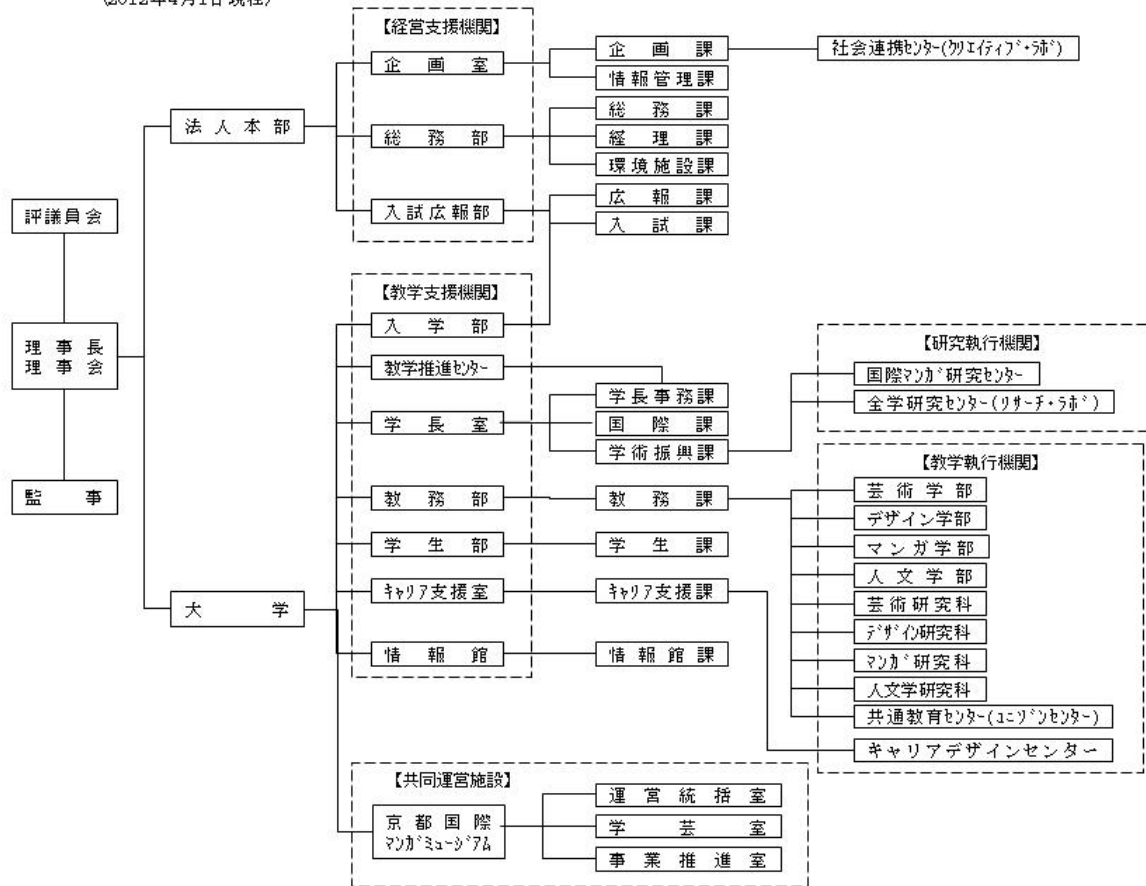
学長および学部長・研究科長の選考については、それぞれ「京都精華大学長の選挙および選任に関する規程」、「京都精華大学学部長選出規程」、「京都精華大学大学院研究科長選出規程」に規定されており、いずれも構成員による直接選挙で選出している。学長選挙については、選挙実施前に、選挙に関する事務を管轄するために理事長が選挙管理委員会の委員長および委員を教職員の中から任命し、適正な選挙の実施を行わせる。選挙管理委員会は、次期学長が決定するまで規程に基づいて選挙の実施に当たる。万一、規程に存在しない事態が生じた時には、委員会にて審議を行った後理事長に報告し、最終的に理事長が決定を行う。また、次回開催時の参考とするために、選挙管理委員会は選挙終了後に実施報告をまとめて理事長に報告を行っている。また本学では、理事のうち2人を専任教職員の互選により選出しており、構成員の意向が学園経営に反映される民主的な仕組みを採用している。

### (3) 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。

事務組織の構成は、法人本部のもとに3部(室)7課、大学部門のもとに6部(室)7課を設置している。

学校法人京都精華大学 事務組織図

(2012年4月1日現在)



事務局における日常業務については、「学校法人京都精華大学事務分掌規程」によって、各課に担当する業務内容が規程化されている。

事務組織の人員配置については、法人の財政状況や今後の大学における教学改革の展開、および在職者の年齢構成バランス等を見据えながら行っている。2012年度は前年度に引き続き嘱託職員の契約期間満了による退職後の補充要員を必要最小限にとどめるとともに、若年層の専任職員を採用して専任比率を上げ、これまで以上に専任職員が中心となって主体的かつ効率的に業務を遂行する体制を強化した。

また、事務局各部署において業務の整理を行うことを決定した。2013年度からは、業務内容が多様化しつつある現状にあって、事務局各部署において業務の棚卸し・整理を行い、定型業務を中心に、安定的な業務運営を目指してアウトソーシングをより導入する方針を立案した。各部署における人員配置が適正であるかどうかの判断を客観的に行うためには、各部署に配置された職員が業務の総量を定量的に捉えたうえで、見定める必要がある。また業務の見直しを行うことによって、本来専任職員が本来行うべき課題がクローズアップされてくるとともに、無駄な業務を洗い出すという効果も期待される。

専任職員の採用については、総務部において採用計画が策定された後、常務理事会で総務担当常務理事から採用枠について提案がなされ、その承認を受けて採用活動に入る。一連の採用活動については「学校法人京都精華大学事務職員採用に関する規程」で規定化さ



れており、人事委員会を立ち上げて募集活動から選考までの任務を委嘱している。2012年度は人事委員会のもと採用活動を実施し、2名の専任職員を採用した。

専任職員の昇格については、「すべての職員は、指揮系統にかかわらず、相互に平等である。」との理念の下、昇格に関する規程は設けず、各職員もその理念を共有共有しながら日々業務にあたることを前提としている。しかし事務局の効率的運営の観点から、職制としては部長（次長）・課長を置き、その選任に当たっては、総務部長が各職員の職務経験や適性ならびに本人の意向等を総合的に判断して作成する人件案をもって総務担当理事と検討を行い、最終的に常務理事会において審議のうえ決定している。

#### (4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

本学では、職員が理念を実現していくための労働に従事している以上平等であり、その労働は等価として評価されなければならないとの考えのもと、人事考課は行わず、各職員はその担当する業務について必要に応じ自己研鑽に励みながら業務にあたっている。ただし、業務の遂行状況や遂行上の問題点、今後の希望等について記載する自己申告書の提出を毎年度義務付けている。職員の業務遂行状況を客観的に判断するツールとして人事考課制度は大変有効であることを否定するものではない。しかし本学の場合、基本理念として教職員は年齢給制を採用していることが表すように、個人の業績を他者が評価するという土俵が存在してこなかった。また将来的に人事考課の導入を決定した場合においても、考課者が客観的な判断を行うためには、そのスキルを身につけねばならない、という課題がある。従って本学においては人事考課制度の導入は今しばらくの時間を要すると言わざるを得ない。

スタッフ・ディベロップメントについては、入職1～3年目の職員を対象に「プロジェクト型研修」を実施している。これは職員をチームに分け、それぞれのチーム毎に本学の歴史や現状の諸課題等のテーマを決めて、教職員や学生、卒業生等への聞き取りや文献調査等を行わせ、現状と課題およびその解決方法の提案等を行うことを目的に、半年から1年間かけて行うグループワーク型の研修である。最終的には、新入生対象の導入教育の一環として開講している「大学ナビ」の中で、調査・検討結果のプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション能力の向上と、大学職員として欠かせない、学生の前での直接説明の機会を新入職員に与えると同時に、学生にも本学の特徴を伝えることができた。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

事務局業務のアウトソーシング化活用推進策として、業務委託の導入を図ることとした。まず総務部総務課の一部業務から着手することとし、2013年春以降の導入を前提として準備期間を設け、スタッフの育成に取り組んだ。

2012年度の専任職員採用では、総務担当常務理事を委員長とする人事委員会が、従来の書類・面接を重視したオーソドックスな選考から、本学の理念や学部構成を強く意識した内容の選考方法に改めたことで、これまでになかった視点で人材の発掘ができた。

## ②改善すべき事項

諸規程は、事務局を構成する各部署が業務を管理・運営していくための指針となるものであるが、日常の諸活動を行っていく過程で現状に即さないものとなってしまう可能性がある。こうした場合にあっては、改廃や新規制定の要請が、各部署から集約部署である総務課に上ってくることは稀である。そのために、各部署の日常の活動が、規程と齟齬をきたしたまま行われている状況にあっては、そのことを総務課で把握できていないケースがあり得る。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

事務局業務のアウトソーシング化活用推進策としての業務委託導入については、引き続き教学支援部門、学生支援部門の一部業務を中心に2014年春以降の実施に向けて準備を進める。また、これと合わせて対象となる部課の業務の洗い出しを行い、これまでの業務内容を細かく精査して、専任職員がなすべき業務とアウトソーシング化が可能な業務を分類することで、事務局業務の効率化にも役立てたい。

今後、本学を取り巻く財政状況はますます厳しさを増すことが予想されることから、その時々専任職員がなすべき業務の質量や在職者の年齢構成バランス等を見据えながら、慎重に採用活動を行う必要があるといえる。

今後の課題としては、これまで中途採用が中心であった採用を、事務局全体の年齢構成の適正化も踏まえ、新卒も含めた若年層の採用へと方針を転換していきたいと考えている。その場合、社会人としての基礎的能力を身につけてもらうとともに、配置部署におけるOJTの実施の重要性に鑑み、所属長と総務課との連携が重要となってくる。

### ②改善すべき事項

文書管理を管轄する総務課より、各部署が現状行っている諸活動を諸規程と照らし合わせて齟齬が生じていないかについて見直しを定期的に行うよう指示し、その結果を総務課で集約する。その集約結果をもとに、齟齬がある場合については、総務課は諸規程の改廃・新規制定の手続を行うようにする。

## 第9章 管理運営・財務

### 2【財務】

#### 1. 現状の説明

##### (1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。

中・長期的な財政計画の立案について、本学では 2008 年度に以下の 6 点を中・長期的な財政の目標として策定した。

- ① 消費収支計算書における単年度黒字の確保
- ② 帰属収支差額比率 10%以内
- ③ 入学定員充足率 100%以上（実質）
- ④ 人件費比率 45%以内
- ⑤ 管理経費比率 10%以内
- ⑥ その他の増収と経費削減

これをもとに、毎年度、中・長期的な財政状況を試算し、目標を達成できるだけの財務基盤が確保し得るかどうか点検を行っている。2012 年度に行った 2013 年～2018 年までの試算においては、管理経費比率に関する目標以外では達成が難しいと判断される内容となった。一方で、現状と同程度の入学者数が確保できる限りにおいては、一般的に学校法人の経営状況を判断する際に正常とみなされる最低限の指標である帰属収支差額比率の黒字確保が達成できる見込みであることが確認された。今後は、帰属収支差額比率の黒字を維持するために必要となる入学者数の確保に努めるとともに、財政目標の達成に向け、上記の各項目に係る具体的な改善に着手すべきであるとの認識が共有された。

科学研究費補助金、受託研究費等の外部資金の受け入れ状況は、科学研究費補助金については 2012 年度に 9 件の申請が採択され、直接経費と間接経費をあわせて合計で 1 千 6 百万円が交付された。私立大学等経常費補助金は毎年度 5 億円強の交付を受けてきたものの、2012 年度には 4.5 億円にまで落ち込んだ。文部科学省による大学教育改革の支援制度や、その他の国庫補助金については 2011 年度まで複数採択されていたものが終了し、2012 年度では低調となったためである。一方、学外からの受託研究費等では、主にマンガミュージアム事業推進室による受託事業が 5 千万円内外で推移する等、一定の成果をあげているほか、社会連携センターによる産学連携事業等による収益も少額ではあるが安定して確保している。

また、本学は多様な収入政策の一環として、寄付金収入の増加及び安定した資金運用収入の確保に努めている。寄付金収入については近年 3 千万円前後、資金運用収入については 9 千万円前後で推移しており、一定規模が維持されている。

消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率の適切性について、本学の経営状況は消費収支計算書関係比率に示すとおりである。前述の財政目標のもと、予算の編成、執行、管理を行っているが、消費収支比率は近年 94%～110%で推移しており、特に 2012 年度は新校舎建設に伴う固定資産の取得により、支出の超過率が一時的に大きくなっている。

大学学校法人の全国平均（医薬除く）と比較すると、2011年度（2012年度については、現時点で他大学の状況が確認できないため、比較が可能な直近のデータとして2011年度を取り上げている。以下、2011年度のデータを示している箇所は同様の理由による）では、人件費比率が48.9%と低く、教育研究経費比率は31.0%と平均的な数値となっている（全国平均：人件費比率54.6%、教育研究経費比率30.9%）。収入では、2011年度の学生生徒等納付金比率が82.6%となっており、全国平均（72.7%）と比べると高い水準にある。2010年度以前においても近年は全国平均を上回る年度が続いており、このことから、本学は私学の基幹財源である学生生徒等納付金を安定して確保できていると判断できる。しかし、この比率は学生生徒等納付金の以外の外部資金の受け入れ額が低いことを指し示すものでもあるので留意が必要である。

本学の財政状態は貸借対照表関係比率に示すとおりである。2011年度における比率を見ると、資産の構成では全国平均と比べて固定資産の割合がやや低くなっている（固定資産構成比率84.2%、全国平均87%）。また、校舎の建て替え等により総負債比率が19.2%と全国平均(13.1%)よりも高くなっている。

## (2) 予算編成および予算執行は適切に行っているか。

### <予算編成の適切性と執行ルールの明確性>

本学では、大学全体で定める経営計画に従い、予算を執行する各部局が予算編成対象年度における事業計画案を策定し、その計画の遂行に要する経費を予算案としてとりまとめている。その際、各部局は同事業の前年度の自己評価を行った上で、予算編成対象年度の具体的な目標（数値化できるものは数値目標）を設定することが求められており、これにより、PDCAサイクルを循環させることができる仕組みとなっている。

予算編成方法については以下の手順による。

- ① 予算編成対象年度に係る基本的な経営計画を各部局に明示
- ② 各部局にて取り組む事業の仮計画書を作成し、提出
- ③ 常務理事会にて仮計画の是非について精査し、その結果を各部局に伝達
- ④ 経理課にて予算配分基準額を含む予算原案を作成し、各部局に提示
- ⑤ 仮計画の是非及び予算原案をもとに各部局にて事業計画案及び予算案を事業計画予算書として作成
- ⑥ 常務理事会が各部局の担当者から事業計画予算書に基づきヒアリング
- ⑦ 常務理事会がヒアリング結果をもとに各部局の事業計画および配分予算を策定
- ⑧ 理事会・評議員会にて予算承認

支出予算の編成については、各部局に係る経常予算と人件費や建物建設費等の経常外予算とに区分している。経常予算については上記手順により予算を編成するが、人件費予算については人員計画をもとに算定し、また、建物建設に係る予算については中長期計画に従いキャンパスの再整備や新校舎の建築等に係る費用を計上している。一方、収入予算の編成については、収入の多くを占める学生生徒等納付金を入試広報部の予測に基づく入学

予定者数を加味した上で算定し、それ以外の収入予算についても各部局から示される事業計画案や過去の実績等を踏まえ、原案を策定している。

日常的な予算管理や予算執行については、各部局を予算単位として定め、各予算単位に予算責任者（部局長）及び予算委員（教学部門においては部局長との協議により予算委員長が指名した教員、事務局においては課長）を置き、それら責任者及び委員が与えられた権限の中で予算執行を承認し、管理している。なお、予算責任者及び予算委員の予算執行に係る決裁権限の範囲は「学校法人京都精華大学予算執行手続規則」「学校法人京都精華大学業務決裁規則」において具体的に定められており、一定の金額を超える予算執行においては、稟議書を用い、専務理事や理事長が承認をすることとしている。これにより、予算執行の金額が高額になる程、より多くの人間によるチェックが求められる体制が構築され、適切性が確保されている。

私学経営において、財政状況及び経営の健全性、透明性を担保するために財務監査の重要性は一層高まっている。本学では「学校法人京都精華大学監事監査規程」に基づいて、寄附行為で選任された非常勤監事3名と公認会計士2名による監査を実施している。

監事は、監査計画書に基づき、業務および財務について日常的な監査を実施するとともに、学内の主要な会議（理事会・評議員会）へ出席し、事業計画に沿った財務処理が行なわれているか等について監査を行っている。また、期首及び期中に公認会計士と意見交換を行うほか、決算期には公認会計士から会計監査の結果の報告を受ける等、両者による連携を図っている。

なお、本学は監事に対し、2013年5月22日に、貸借対照表、収支計算書、附属明細書等の計算書類ならびに事業報告書に基づく2012年度の決算報告を行い、監事から適正意見を得た。

公認会計士による会計監査は、年度当初に定めた監査計画に基づく期中監査、現金・預金実査、決算期末監査等を行っている。2012年度の監査結果は適正意見であった。

予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みについては、前述の予算編成に関わる部分で述べたとおり、本学では予算編成時に、前年度の予算執行に伴う効果を分析・検証している。各部局が事業計画案及び予算案を事業計画書としてまとめる際、前年度の事業について成果や結果を記述することが求められており、予め設定していた目標との対比から分析や検証ができる仕組みとなっている。なお、これらについて説明に不足がある場合には、常務理事会によるヒアリングの場で補足説明を求める等して内容を明らかにしている。ただし、数値化が可能な目標に対する効果については具体的な分析・検証が可能である一方、数値に示すことが難しい目標に対しては、効果を分析・検証するに足る指標が確立できていないため、今後、より実効性のある仕組みや手法を確立することが望まれる。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

科学研究費補助金の受け入れについては、学術振興課による教員への指導が徐々に効果を見せ、教員の意識も高まっている。これにより、新規採択者も増加し、結果を出しつつ

ある。

また、予算編成について、以前は各部局の前年度予算がそのまま踏襲され、それぞれの予算の総額に対し若干の増額あるいは減額を行うという調整に留まることがほとんどであったが、近年になって前述のような PDCA サイクルが構築され、具体的な事業内容と照らして予算の編成ができる形へと変わってきた。事業ごとに目標の明確化が進み、それに基づく振り返りもできるようになったことで、中・長期的な経営計画と連関させながら、より弾力的に予算編成することも可能になりつつある。

## ②改善すべき事項

中・長期的な財政計画については、2008 年度に定めた財政目標と毎年度に行う中・長期的な財政試算の結果とを照らすことで、財政的な課題を認識する仕組みとなっており、これが実質的には財政計画として機能してきた。しかし、必ずしも明確な財政目標として教職員に共有されていない。また、財政目標を定めた 2008 年度からすでに 5 年が経過しており、当時の目標が現状に即した内容として相応しいものであるかどうか検証がなされていない。このようなことから、より実効性のあるものとして、中・長期的な財政計画を立案し、それに基づく評価ができるような仕組みを構築することが求められる。

適切な予算執行という観点においては、「学校法人業務決裁規則」において各教職員の決裁権限が明確にされている等、制度として一定の適切性が確保できるようになっている。但し、これは予算を執行する各人が正しい会計倫理に基づいて行動することを前提とした仕組みであり、不適切な倫理観によって行動する者が現れることまでは想定していない。そのため、より適切性を高めるための方策として、各教職員の倫理観向上を促すとともに、万が一、不適切な倫理観によって予算執行がなされようとした場合には、それを察知し、防止できるような、より厳格な仕組みを整えることが必要と考えられる。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

科学研究費補助金については、本学が芸術系の学問領域を多く取り扱う大学であり、主に作品制作等の実技指導を担当する教員が多いことから、全ての教員が科学研究費補助金の内容を正しく理解できているという状態までには至っていない。前述のとおり、教員の意識は徐々に変革されつつあるので、今後は学術振興課を中心とし、適宜教員が相談できる体制を構築すること等により、更なる採択数増加を目指していく。

予算編成に関しては、従来、各部局に対し 12 月から 1 月にかけて求めていた事業計画予算書の提出時期を、2013 年度より 2 ヶ月ほど早めることで、既存事業の見直しにかかる時間を十分に確保し、中・長期的な経営計画と照らしながら、より実効性のある予算編成に努めるものとする。

### ②改善すべき事項

中・長期的な財政計画については、教職員が共通に目標を認識し、その達成に向けて自身の業務改善にまで着手できるものとして、新たに策定することが望まれる。また、その策定においては、常務理事会や理事会・評議員会における審議、承認を経る等し、その計

画が大学全体の意思であることを、手続きの上でも明確にしておくことが重要である。なお、目標とすべき指針の一つとして、帰属収支差額比率については何としても黒字確保に努める必要がある。そのためには、学生生徒等納金収入に直結する入学者数確保が大前提であり、教学改革等も含め入学者数確保に向けた取り組みをより一層推進することが求められる。また、更なる外部資金獲得に向けた施策として、補助金の申請から採択後の執行に至るまでの一連の手続きを一元的に管理できるような体制を整え、私立大学等経常費補助金や科学研究費補助金以外の補助金についても、採択数の増加を目指していくことが望まれる。

適切な予算執行については、2013年度中に、予算執行に係る事項を含めた業務執行全般に係る規程を整え、各教職員の責任の所在をより明らかにするとともに、現行の運用ルールを点検し、不適切な予算執行を見落とすことに繋がりにかぬ内容のものがあった場合には、それを改める。

## 第10章 内部質保証

### 1. 現状の説明

(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。

大学に自己点検・評価制度の導入が義務化された1991年の大学設置基準改正を受けて、本学では1992年4月に学則を変更し、自己点検・評価について規定化した。同時に第2次将来構想検討委員会に自己点検・評価専門部会を設置し、本学での自己点検・評価のあり方の検討を進めた。その結果、1995年4月に京都精華大学自己点検・自己評価委員会が発足、6月に「京都精華大学自己点検・自己評価規程」が制定され、本学の自己点検活動は具体的に着手された。その後、自己点検・自己評価報告書として、「教育の活性化に新しい視点を求めて 1995」「教育の活性化に新しい視点を求めて 1996」「教育の活性化に新しい視点を求めて 1997」自己点検・自己評価「教育の活性化に新しい視点を求めて 1999」「教育の活性化に新しい視点を求めて 2001」「教育の活性化に新しい視点を求めて 2005」を刊行し、社会に公開してきた。

2004年度から学校教育法第69条の3第2項の規定により、大学に認証評価の受審が義務化された。本学では2008(平成20)年度に大学基準協会の認証評価を受け、「本協会の大学基準に適合している(認定期間は2016(平成28)年3月31日まで)」ことの認定を受けた。

認定の際に付された提言に対して改善を図り、その進捗状況について2012年6月に改善報告書を提出し、大学基準協会から「改善報告書検討結果(京都精華大学)」を受けた。併せて、デザイン学部とマンガ学部の完成報告書を提出し、大学基準協会から「完成報告書検討結果(京都精華大学デザイン学部)」「完成報告書検討結果(京都精華大学マンガ学部)」を受けた。

「京都精華大学学則」第2条および「京都精華大学大学院学則」第2条において、自己点検・評価について規定している。これらに基づいて「京都精華大学自己点検・自己評価規程」を制定し、自己点検・評価運営委員会を設置して定期的に開催している。

自己点検・評価運営委員会では、前回の認証評価結果を踏まえた改善活動や、毎年度の大学基礎データの作成、シラバス記載内容の改善指導、教員の教育研究業績の大学ウェブサイトでの公開等について推進してきた。

点検・評価結果の公表については、自己点検・評価報告書や毎年度実施している「大学基礎データ」を大学ウェブサイトで公開している。また、学生による授業評価アンケートを毎年度実施しており、その集計結果を大学ウェブサイトで公開している。なお、2012年度より在学生に「セイカ・キャンパスライフ・アンケート」を実施しているが、その集計結果についても大学ウェブサイトで公開する予定である。

また、学校教育法第113条および学校教育法施行規則第172条の2に規定されている教育研究活動等の状況についての情報、第172条の2第2項の教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報については、大学ウェブサイトで公開している。財務諸表や事業報告書についても、大学ウェブサイトで公開している。

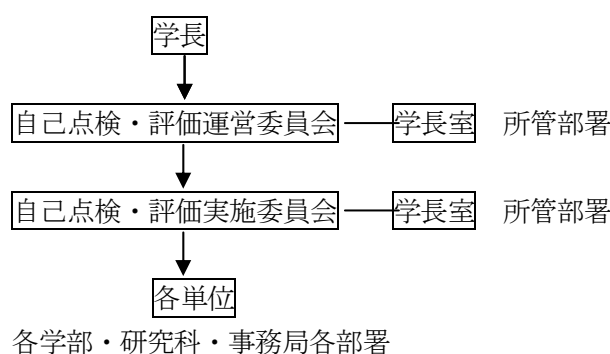


(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。

「京都精華大学学則」第2条および「京都精華大学大学院学則」第2条に基づいて、教育研究水準の向上を通じて本学の目的と社会的使命を達成するために、全学の教育研究活動、管理運営および経営に関する自己点検・評価の制度を設けている。自己点検・評価運営委員会の開催に加えて、運営委員会の下に自己点検・評価実施委員会を設置し、各単位（学部、研究科、事務局各部署）で実施する自己点検・評価活動を集約し、運営委員会において全学的視点から評価活動を行うシステムを整備した。運営委員会では、各単位での業務のPDCAサイクルが有効に機能しているか、その結果として業務改善がなされているかについて検証する。委員会の事務担当部署は学長室である。現在、2012年度に各単位で実施した自己点検・評価活動の結果の取り纏めと評価を実施している。

2015年度に大学評価を受審するが、受審した後も自己点検・評価実施委員会を中心とする内部質保証システムを恒常的に運用して、本学の自己点検・評価活動を推進していく予定である。

### 京都精華大学の内部質保証に関する組織体系図



構成員のコンプライアンス意識の徹底については、ハラスメントの防止・対策に関する規程や、個人情報保護に関する方針、研究倫理規程、公益通報者の保護等に関する規程等を定め、ウェブサイトでの公表やリーフレットを配付している。また、学生に対しては、ハラスメントや飲酒、喫煙、薬物等について学生手帳に記載して注意喚起するとともに、オリエンテーションや授業で説明を行っている。

(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。

学園における各部局の業務の進め方については、PDCAサイクルに則って実施している。まず学園の中長期事業計画に基づいて、企画室で各部局の次年度事業計画案を取りまとめて理事会に提案・承認を得る。その後、各部局で当該年度の業務の総括の後、次年度事業計画と予算書を策定する。そして年度終了後には企画室が事業報告書を取り纏め、大学ウェブサイトで開催している。また、業務が適正に執行されているか検証するために、業務監査が監事によって実施されている。

教育を含む学生に対するサービス全般の質向上に向けて、学生自身の声を反映させる仕

組みとして、2012年度より在学生に「セイカ・キャンパスライフ・アンケート」を実施している。学生に施設や授業内容等に関する満足度を尋ねており、学生から指摘された項目については内容を検討し、関係部署で改善を実施している。また、卒業生向けアンケートの実施も検討しており、これらの調査結果の蓄積が教育研究活動のデータ・ベース化の推進に寄与すると考えている。教員の教育・研究業績についてもウェブサイトで公開している。

2008年度に受審した大学評価で大学基準協会から指摘された助言および勧告の項目について、自己点検・評価運営委員会より関係部署に改善を依頼し、一定の改善がなされたが、その改善状況について、2012年6月に大学基準協会へ「改善報告書」として提出した。

## 2. 点検・評価

### ①効果が上がっている事項

前回受審した大学評価で大学基準協会から指摘された助言および勧告の項目について、改善活動を続けており、概ねの項目で改善の成果が出ている。

### ②改善すべき事項

自己点検・評価方法は、各単位（学部、研究科、事務局各部署）での点検・評価結果を、自己点検・評価運営委員会において全学的視点から再度点検・評価を行うが、現状では学外者の意見を聴取する仕組みにはなっていない。

また、既設の点検・評価項目による自己点検・評価活動と、各部署で策定している年度事業計画の進捗状況の点検・評価との連動がなされておらず、現状では各部署において2つのPDCAサイクルを回していることになる。

## 3. 将来に向けた発展方策

### ①効果が上がっている事項

前回の大学評価で指摘された助言および勧告の項目について、次回2015年度の大学評価受審までに全ての項目で改善の成果が出るよう、改善活動を継続する。

### ②改善すべき事項

自己点検・評価結果の客観性・妥当性を担保するために、2013年度の自己点検・評価活動より、学外者による検証の導入を検討する。

また、既設の点検・評価項目による自己点検・評価活動と、各部署で策定した年度事業計画の進捗状況の点検・評価活動を統合し、一元化する。

## 京都精華大学 自己点検・評価報告書 2012

編集 京都精華大学 自己点検・評価運営委員会

発行 京都精華大学

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町 137

URL <http://www.kyoto-seika.ac.jp/>

事務局 京都精華大学 学長室

電話 075-702-5317 Fax 075-702-8819